



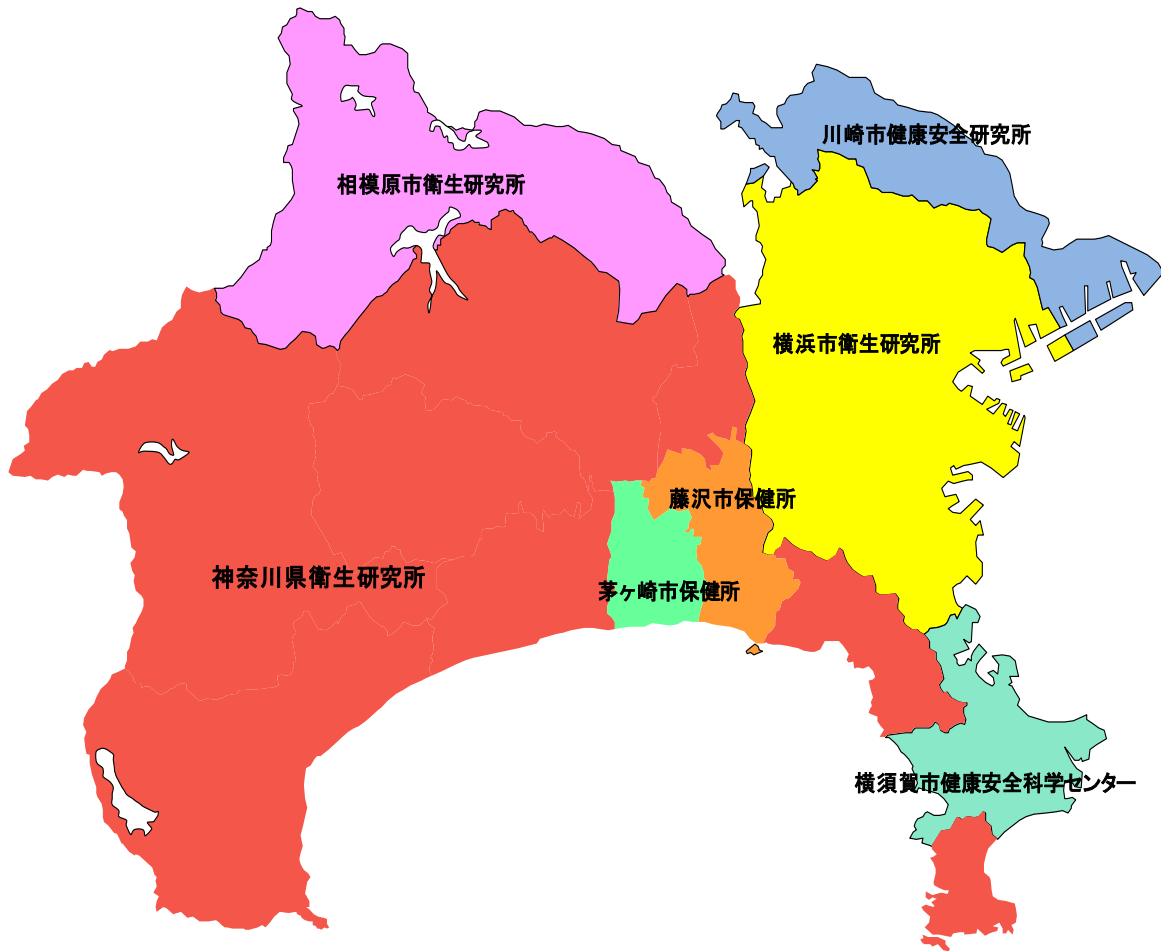
神奈川県
衛生研究所

平成 29 年

神奈川県感染症

PART I 平成 29 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

PART II 平成 29 年地域における感染症発生状況の概要



神奈川県衛生研究所

はじめに

平成 29 年は世界保健機関の警告などもあり、わが国でも薬剤耐性菌に対する対策が本格化しました。それとともにカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（CRE）など耐性菌に関する理解も深まっています。また性感染症としては梅毒の患者数の増加が続き、輸入症例に端を発する麻疹流行、ポテトサラダの喫食が発端と思われる腸管出血性大腸菌感染症 O157 食中毒事件の発生など感染症に対する健康危機管理対策の重要性はより増してきています。

平成 28 年にジカウイルス感染症による先天性ジカ症候群が問題になったブラジルでは、ジカウイルス感染症流行は沈静化したが、やはり蚊が媒介する黄熱の流行がありました。

平成 28 年 4 月 1 日には、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）の改正が施行され、感染症の拡大防止のための情報収集機能や検体採取等の体制強化が図られ、検体確保の実績も上がりつつあり、データの集積も進んでいます。

神奈川県衛生研究所（以下、当所）では、こうした状況のなかで、神奈川県の基幹感染症情報センターとしての役割を果たすとともに、健康危機管理や感染症対策に向けて、本庁や保健福祉事務所、保健所をはじめ、県内 33 市町村の担当課や神奈川県医師会や病院協会及び関係機関の方々との連携を強化するとともに、感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究とともにホームページ等による情報発信や研修会開催など、感染症対策のさらなる充実にむけて日々取り組んでおります。

『神奈川県の感染症』は、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター、藤沢市保健所、茅ヶ崎市保健所及び当所が協力し、神奈川県における感染症発生動向調査、微生物検出情報等についてまとめ、感染症発生動向調査の概要を中心とした P A R T I と、各地域における感染症発生状況の概要を中心とした P A R T II に分けて収録いたしました。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 30 年 9 月

神奈川県衛生研究所長 高崎 智彦

目 次

< PART I > 平成 29 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	7
2 定点把握対象疾患	
(1) 定点	10
(2) 週報対象疾患	11
(3) 月報対象疾患	21
3 トピックス	
1) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (CRE) について	25
2) 神奈川県の梅毒	27

【資 料】

資料 1 平成 29 年全数把握対象の感染症 保健所別報告数	29
--------------------------------------	----

<PART II >平成 29 年地域における感染症発生状況の概要

I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況	30
2 病原細菌検出概況	31
3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）	32
4 病原細菌検出状況表（ヒト由来）	44

II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) ウイルス検査状況（発生動向調査）

ア 5 類感染症（定点把握疾患）

(ア) インフルエンザ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

(神奈川県衛生研究所) 48

② 横浜市（横浜市衛生研究所） 50

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 54

④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 56

(イ) ウイルス性感染性胃腸炎

a 感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検査状況

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

(神奈川県衛生研究所) 57

b 集団感染性胃腸炎事例からの原因ウイルス検査状況 59

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

(神奈川県衛生研究所) 59

② 横浜市（横浜市衛生研究所） 59

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 61

④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 62

⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） 62

⑥ 藤沢市（藤沢市保健所） 62

(ウ) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、 流行性角結膜炎	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く） （神奈川県衛生研究所）	63
② 川崎市（川崎市健康安全研究所）	65
③ 相模原市（相模原市衛生研究所）	65
イ 4類感染症（全数把握疾患）	
(ア) 蚊媒介感染症	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く） （神奈川県衛生研究所）	66
② 相模原市（相模原市衛生研究所）	66
ウ 5類感染症（全数把握疾患）	
(ア) 麻疹	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く） （神奈川県衛生研究所）	66
② 川崎市（川崎市健康安全研究所）	67
③ 相模原市（相模原市衛生研究所）	67
(イ) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、 日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く） （神奈川県衛生研究所）	67
(ウ) HIV/エイズ	
a 神奈川県の HIV/エイズの概要（健康危機管理課）	67
b HIV 検査の実施状況	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	68
② 相模原市（相模原市衛生研究所）	71
③ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	71
④ 藤沢市（藤沢市保健所）	72

(2) 感染症流行予測調査	
ア 感受性調査（抗体保有状況調査）	
(ア) インフルエンザ（神奈川県衛生研究所）	72
(イ) 麻疹（神奈川県衛生研究所）	75
(ウ) 風疹（神奈川県衛生研究所）	77
(エ) 水痘（神奈川県衛生研究所）	78
イ 感染源調査	
(ア) 日本脳炎（神奈川県衛生研究所）	79
(3) 感染症媒介蚊のサーベイランス	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	80
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	82
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	85
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	86
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	87
⑥ 藤沢市（藤沢市保健所）	88

2 細菌性感染症

(1) 細菌性腸管系感染症検査状況	
ア 3類感染症	
(ア) 腸管出血性大腸菌	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	89
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	90
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	90
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	91
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	91
⑥ 藤沢市（藤沢市保健所）	92
(イ) 赤痢菌・コレラ菌	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	92
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	93
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	93
④ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	94

(ウ) 腸チフス・パラチフス

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	94
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	94
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	95
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	95
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	95

イ 5類感染症

(ア) 細菌性感染性胃腸炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	96
--	----

ウ 薬剤耐性菌

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	97
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	97
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	98
④ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	98

エ その他の細菌性腸管系感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	98
--	----

(2) 細菌性呼吸器系感染症検査状況

ア 2類感染症

(ア) 結核感染診断検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	99
② 川崎市（川崎市健康安全研究所）	100
③ 相模原市（相模原市衛生研究所）	100

イ 4類感染症

(ア) レジオネラ症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	101
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	101

ウ 5類感染症

(ア) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 102
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） 104
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 104
- ④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 104

(イ) マイコプラズマ肺炎

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 105

(ウ) 百日咳

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 106
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） 106

3 その他の感染症

(ア) つつが虫病

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 107

【参考資料】

予防接種実施状況.....	108
感染症関係機関.....	109

< PART I > 平成 29 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

(平成 30 年 3 月)

I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、平成 10 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が成立し、平成 11 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

なお、平成 29 年 4 月より茅ヶ崎市が保健所設置市になりました。（平成 29 年 3 月までの報告は茅ヶ崎保健福祉事務所で計上）。

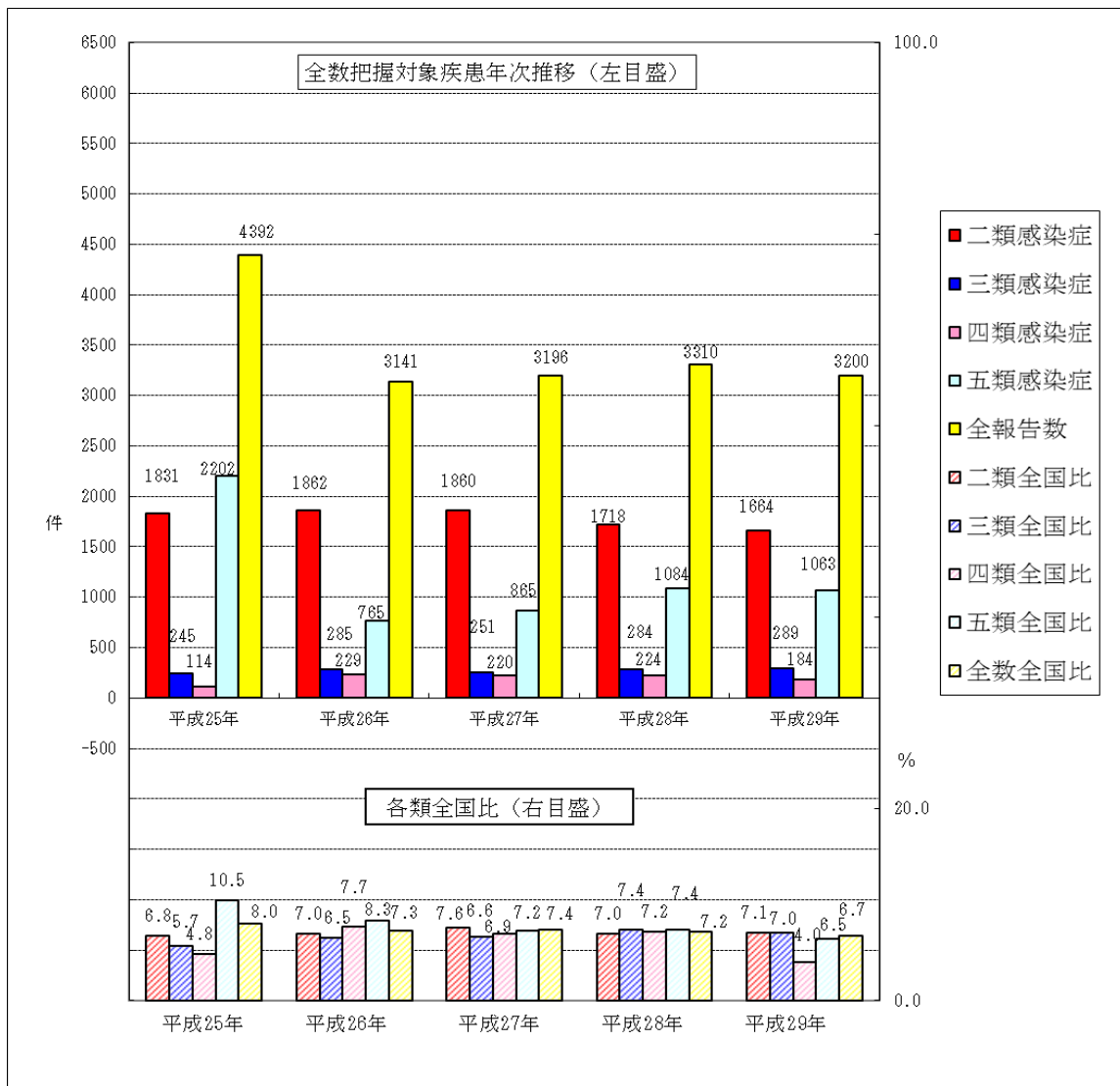
1 全数把握対象疾患

平成 29 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、3,200 件と前年より 110 件減少した。

類別では、二類感染症 1,664 件、三類感染症 289 件、四類感染症 184 件、五類感染症 1,063 件であった。

全数把握対象疾患の年別推移等は、【資料】「平成 29 年全数把握疾患保健所別累積報告数」を参照。

図 1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》報告はなかった。

《二類感染症》届出は結核のみで、結核は1,664件であり、前年1,718件より54件減少した。

《三類感染症》報告数は、前年よりも5件減少して289件であった。最も報告の多かった疾患は腸管出血性大腸菌感染症が267件で、前年の272件より5件減少した。

表1 三類感染症報告数

(件)

疾患名	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年								全国
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	神奈川県(左を除く)	
コレラ			1	2									7
細菌性赤痢	13	8	14	8	17	6	3		2	2	2	2	141
腸管出血性大腸菌感染症	218	273	223	272	267	129	35	8	5	13	1	76	3,904
腸チフス	8	3	2	3	3	1			1			1	37
パラチフス	6	1	11		2		2						14
合計	245	285	251	283	289	136	40	8	8	15	3	79	4,103

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》12疾患の報告があり、報告数は184件であった。平成29年で最も報告数が多い疾患はレジオネラ症101件で、続いて、デング熱26件であった。

表2 四類感染症報告数

(件)

疾患名	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年								全国
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	神奈川県(左を除く)	
E型肝炎	7	11	12	26	14	3	4	1	3	1		2	305
A型肝炎	11	25	13	21	19	7	6	2	1			3	285
ジカウイルス感染症				4	2	1		1					5
コクシジオイデス症	1	1			1	1							4
つつが虫病	11	12	12	15	16							16	448
デング熱	16	31	35	24	26	8	6	4	1	1		6	245
日本紅斑熱					1		1						337
ボツリヌス症				1									4
マラリア	2	8	2	6	1	1							61
ライム病		1	1		1	1							19
レジオネラ症	63	131	144	123	101	37	16	11	8	5	2	22	1,731
レプトスピラ症	2	3	1	4	2		1					1	47
合計	114	229	220	224	184	59	34	19	13	7	2	50	3,491

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※平成 28 年 2 月よりジカウイルス感染症が追加された

《五類感染症》19 疾患の報告があり、報告数は 1,063 件であった。最も報告の多かった疾患は梅毒 322 件で、次いで侵襲性肺炎球菌感染症 238 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 123 件であった。

表 3 五類感染症報告数

(件)

疾患名	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年							全国	
	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	(茅 ヶ 崎 市)		神 奈 川 県 (左 を 除 く)
アメーバ赤痢	88	117	100	111	90	47	23		2	9		9	1,089
ウイルス性肝炎	19	9	10	18	12	3	2			2	1	4	295
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		26	111	116	123	53	23	5	1	2		39	1,660
急性脳炎	17	39	45	74	47	24	18	1	1	1		2	701
クリプトスポリジウム症			1	2									19
クロイツフェルト・ヤコブ病	11	13	9	6	14	2	1		4			7	200
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	16	25	35	53	47	25	10		1			11	588
後天性免疫不全症候群	120	97	87	82	82	48	8	8	2	3		13	1,391
ジアルジア症	5	3	4	5	2	1				1			60
侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	18	18	21	26	7	8		3	1		7	372
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	4	2	5	3		1		1			1	25
侵襲性肺炎球菌感染症	101	163	207	229	238	115	53	14	9	10	1	36	3,204
水痘（入院例）		9	24	27	15	9	2	1			1	2	313
梅毒	76	110	161	290	322	134	77	11	19	25	2	54	5,820
播種性クリプトコックス症		2	10	5	11	3	2	1		1		4	136
破傷風	6	6	5	8	5	3	1	1					125
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	9	5	13	10	6	3						3	83
風しん	1691	68	12	10	10	9						1	91
麻しん	31	48	7	8	9	4	3	1				1	187
薬剤耐性アシネトバクター		3	4	4	1							1	28
合計	2202	765	865	1068	1063	490	232	43	43	55	5	195	16,387

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

2 定点把握対象疾患

(1) 定点

定点把握対象疾患は、疾患により5種類に分類され、予め指定された医療機関（定点）から報告される。定点の数は人口に応じて決められており、神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

	定点数				
	県域	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	116	153	54	23	346
小児科定点	73	94	33	15	215
眼科定点	16	22	7	4	49
STD(性感染症)定点	23	29	7	5	64
基幹定点	5	4	2	1	12

○インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

○小児科定点

対象疾患名： RSウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・百日咳・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

○眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

○基幹定点

対象疾患名： クラミジア肺炎（オウム病を除く）・細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）・マイコプラズマ肺炎・無菌性髄膜炎・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

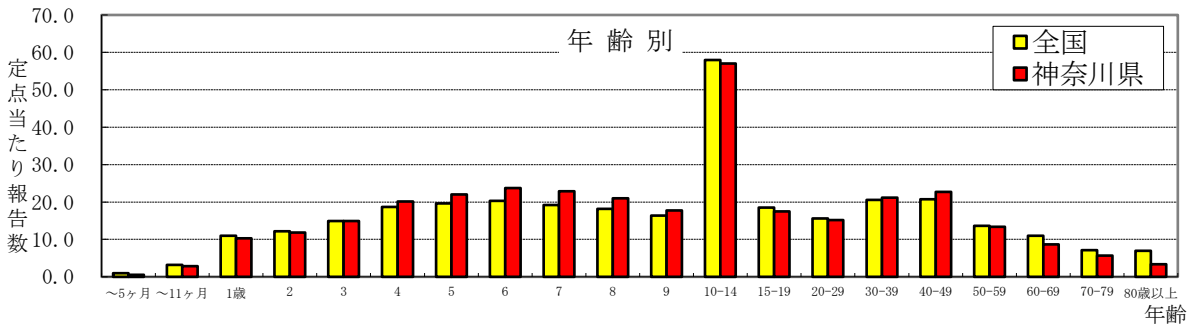
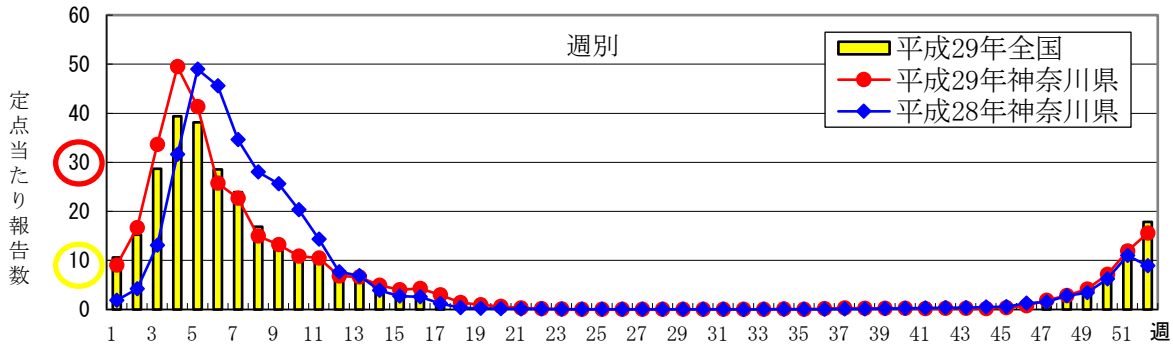
○STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

(2) 週報対象疾患 (神奈川県全県)

インフルエンザ

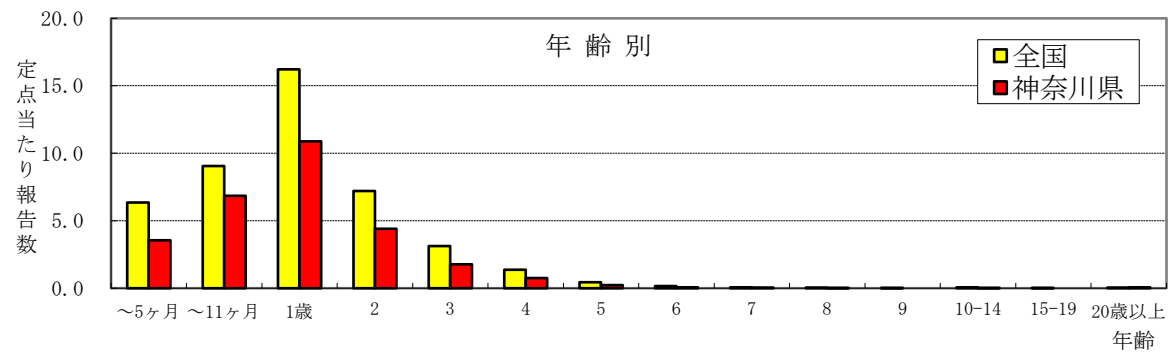
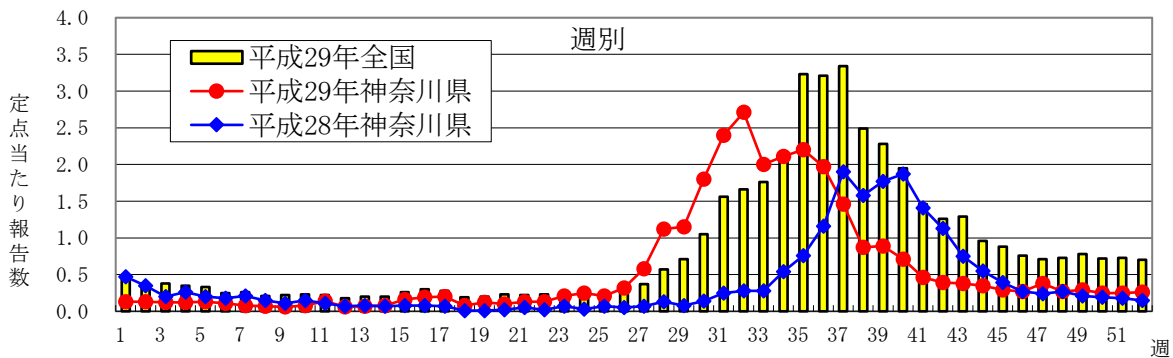
今シーズンは、第3週に警報レベル(30)を超え、第4週に流行のピークがみられた。年齢別では、10歳～14歳を中心に多く報告された。



RS ウイルス感染症

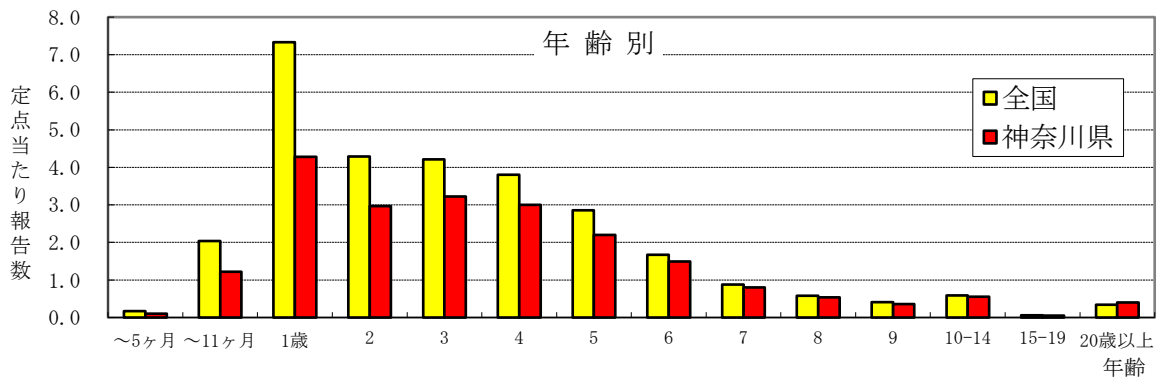
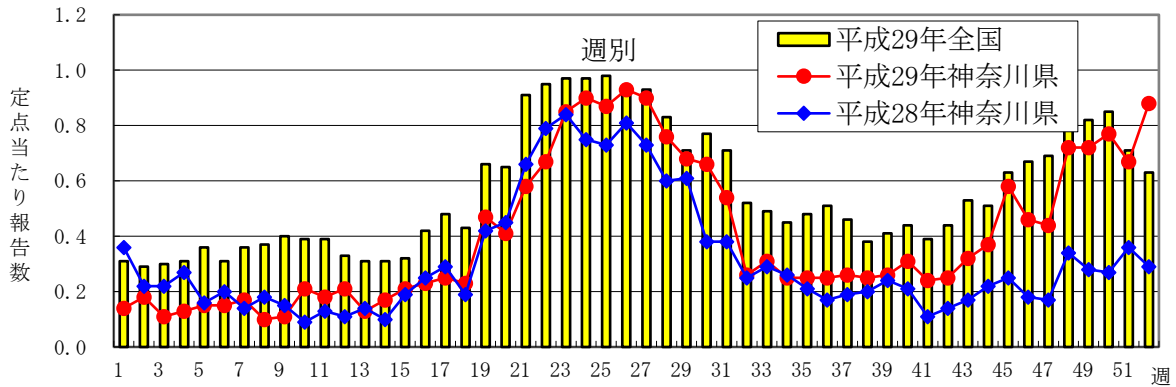
平成28年と比べて報告数が早い時期から報告が増え、第32週がピークに流行した。

年齢別では、1歳以下で多く報告された。



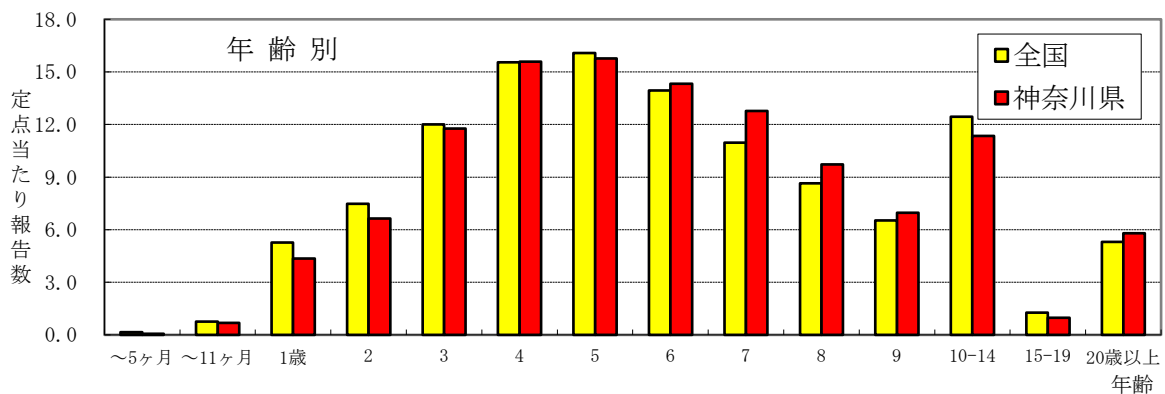
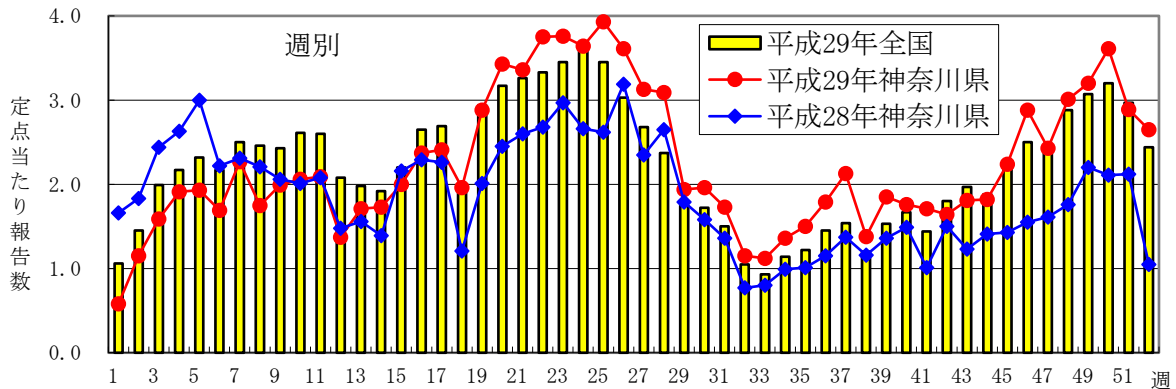
咽頭結膜熱

前年より報告が多くみられた。年齢別では、1歳で最も多く、6歳以下に多く報告された。



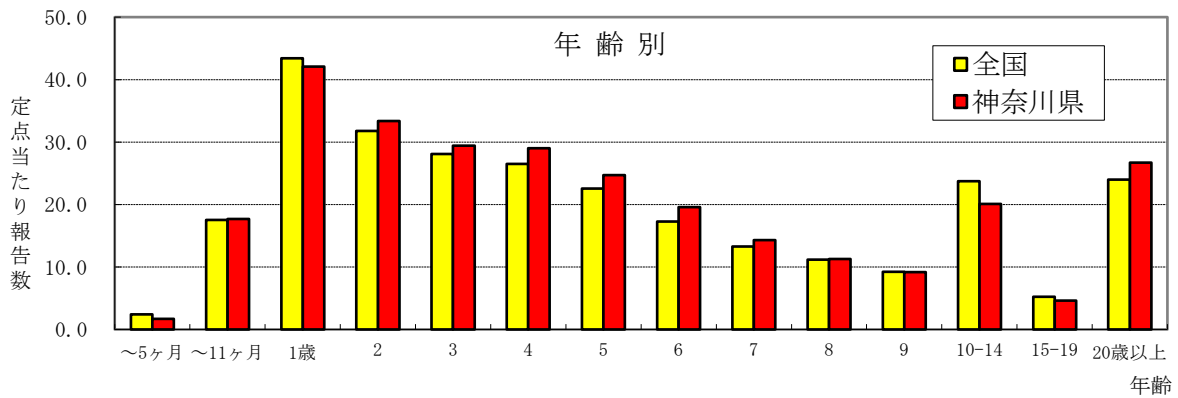
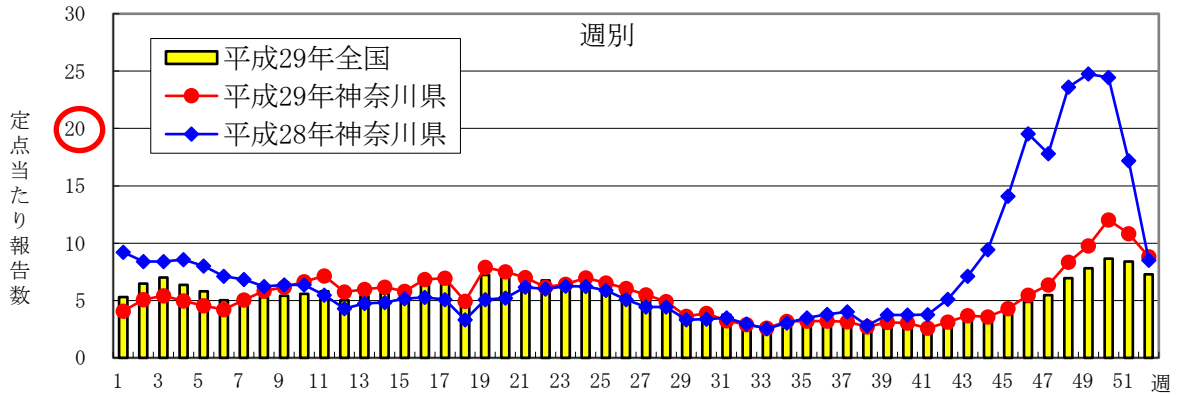
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

例年より報告が多くなっている。年齢別では、5歳を中心に多く報告された。



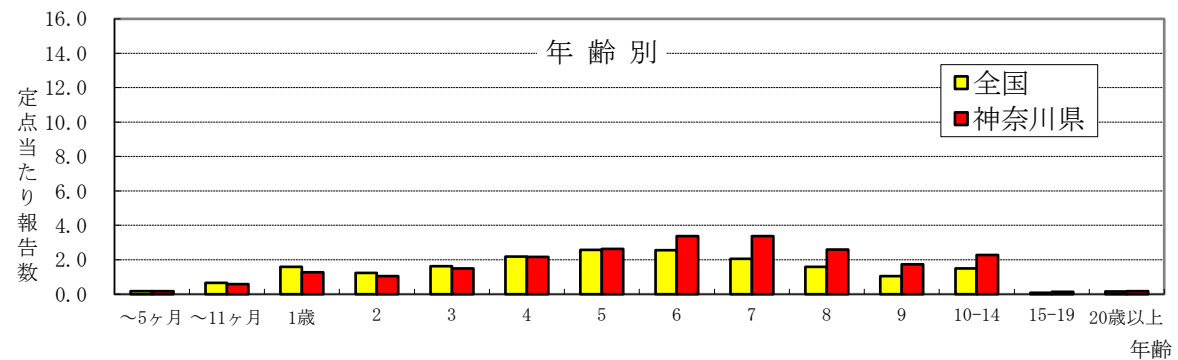
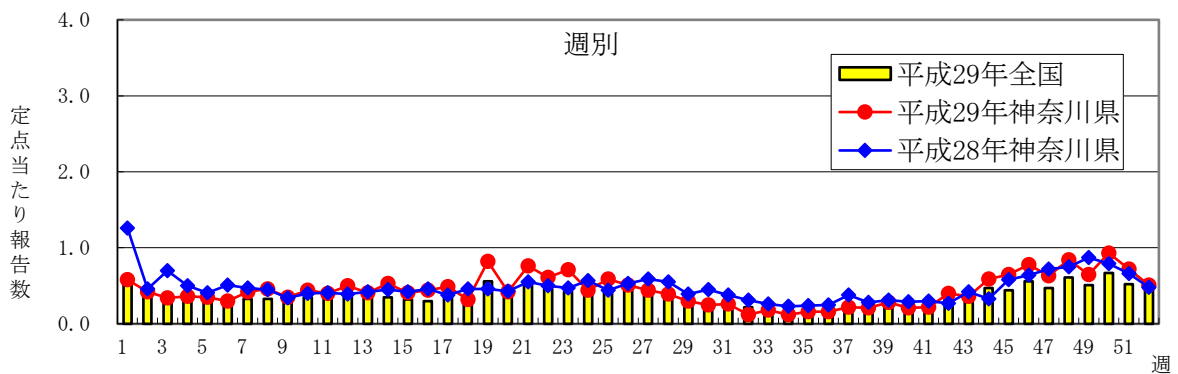
感染性胃腸炎

平成28年は警報レベルを超えたが、平成29年は報告が少なく、警報レベルに至らなかった。
年齢別では、1歳が最も多く報告された。



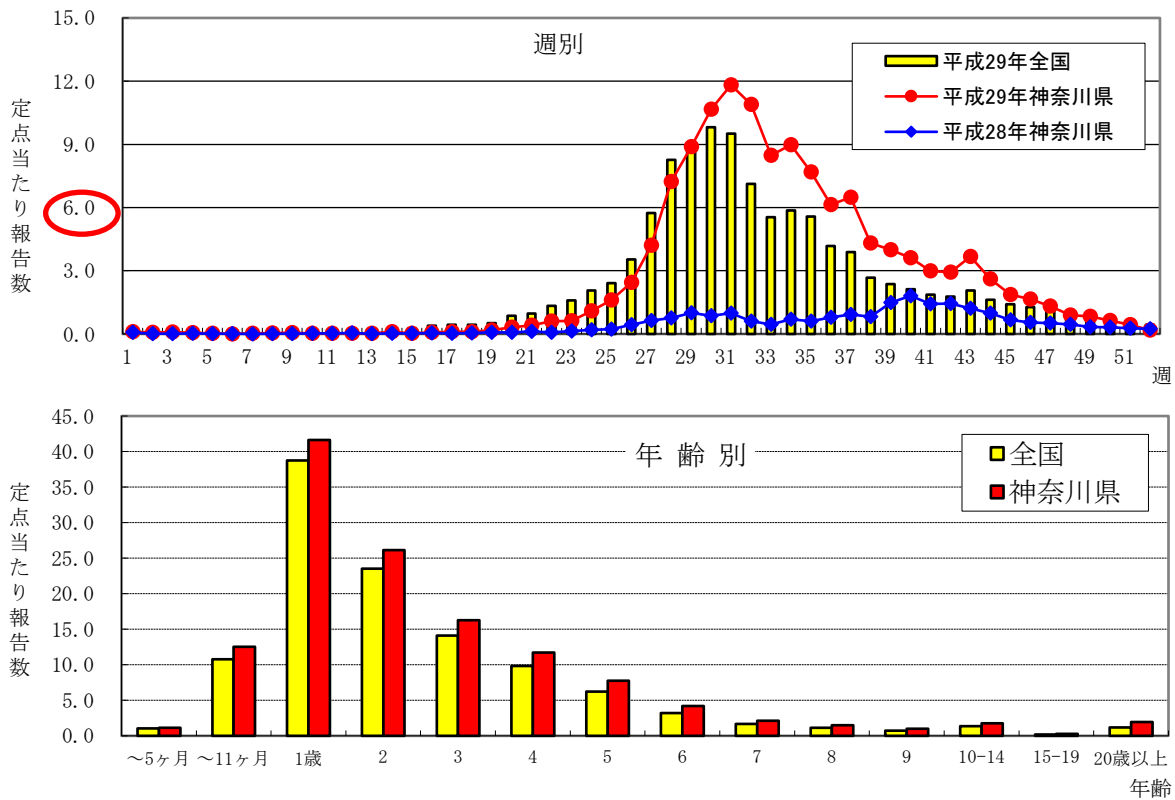
水痘

例年と同様の流行であった。



手足口病

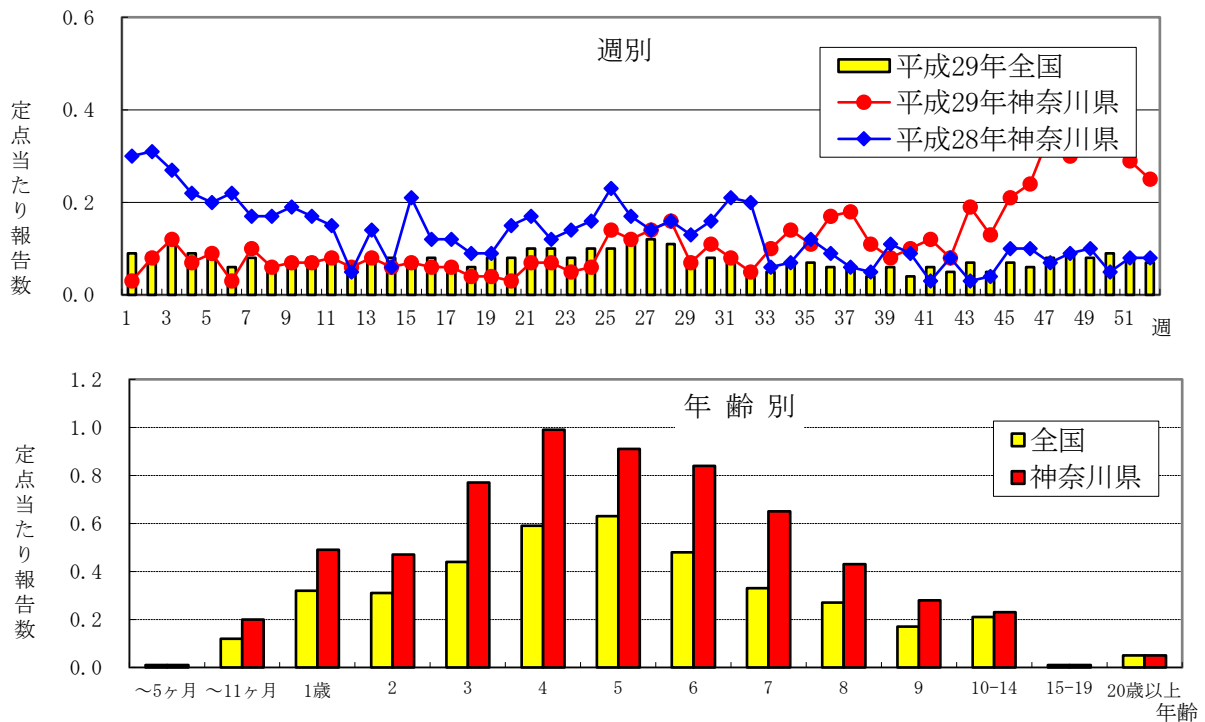
前年より報告が多く、28週に警報レベルを超え、第31週をピークに流行した。年齢別では、1歳を中心に報告された。



伝染性紅斑

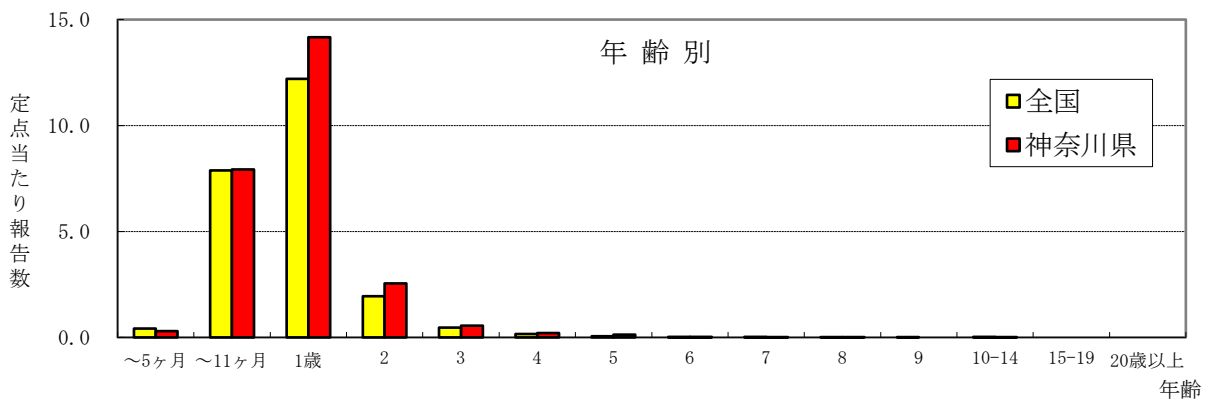
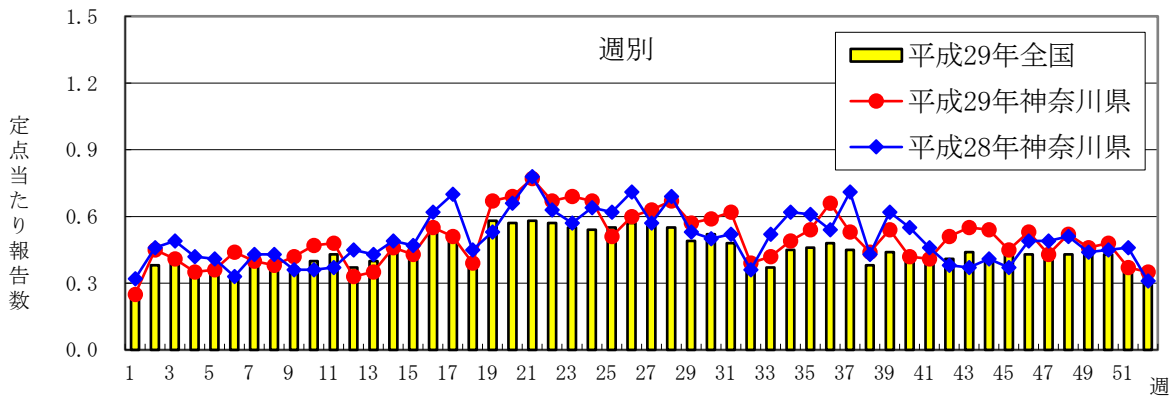
第43週以降に前年より報告が多く、全国と比べても多くなった。

年齢別では、4歳を中心に報告された。



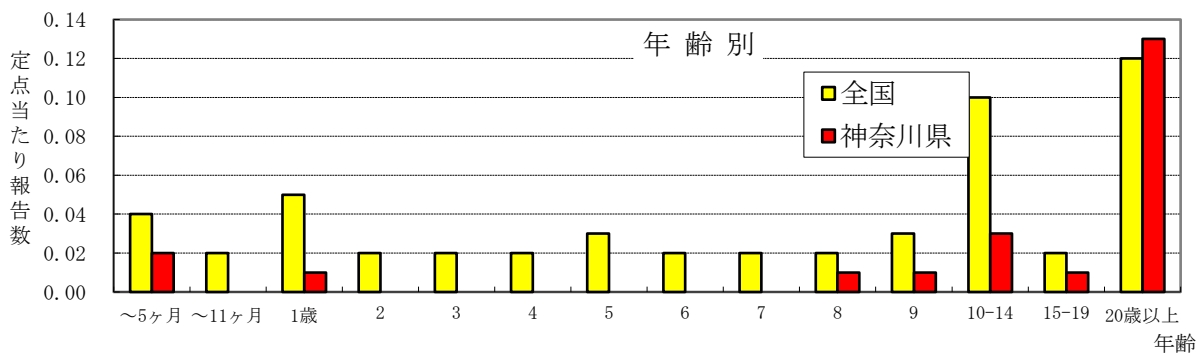
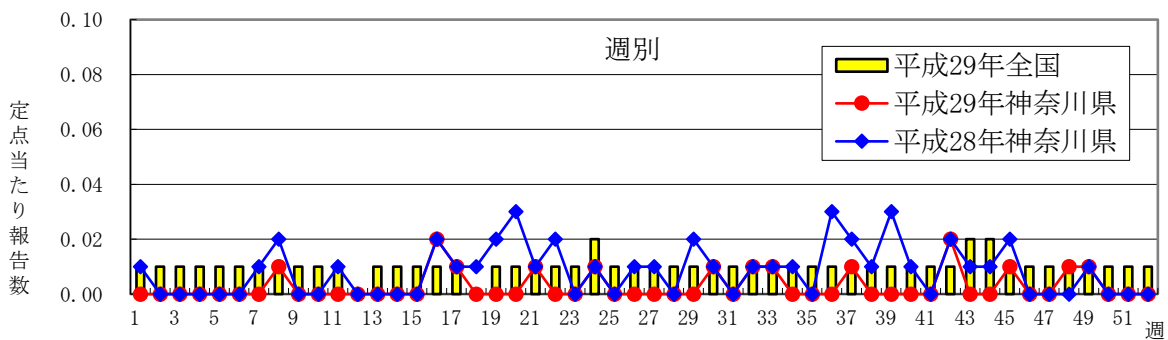
突発性発しん

例年と同様に、年間を通して報告がみられた。年齢別では、1歳で多く報告された。



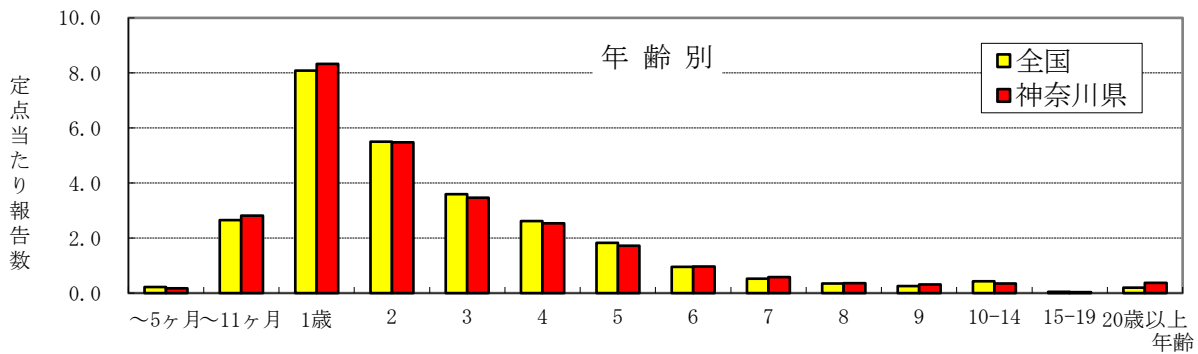
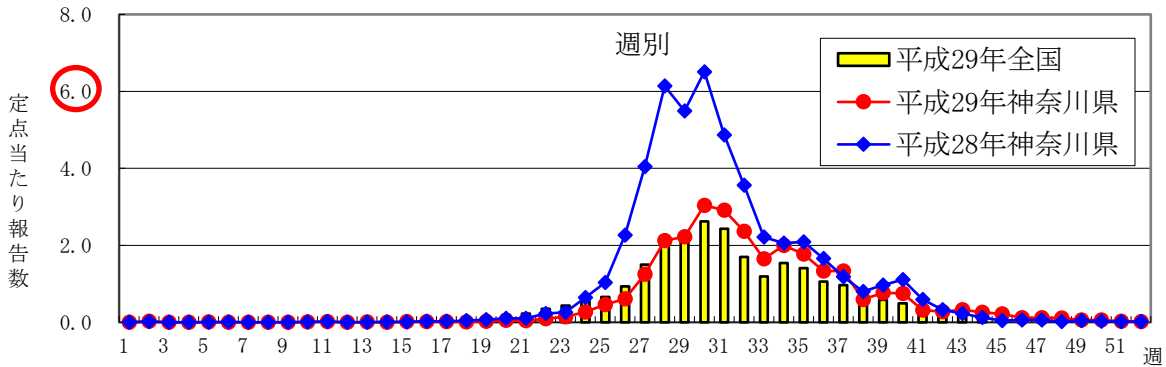
百日咳

今シーズンは、報告は少なかった。年齢別では、20歳以上で多く報告された（なお、平成30年1月1日から全数把握疾患に変更された）。



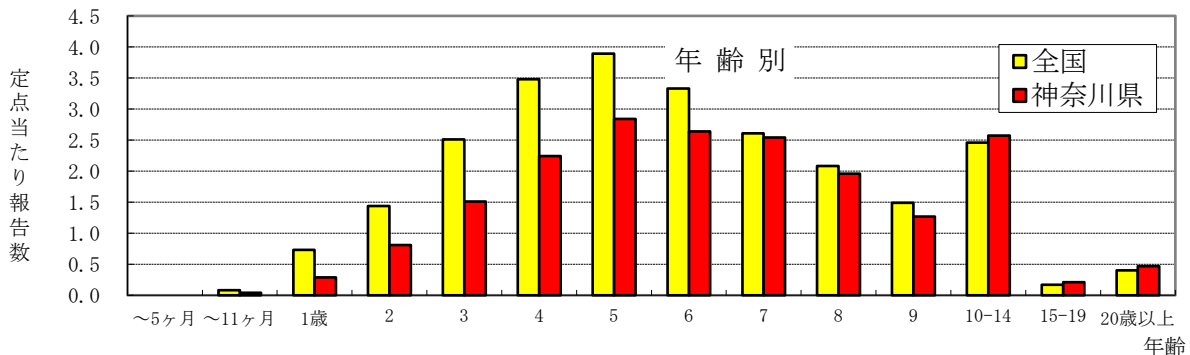
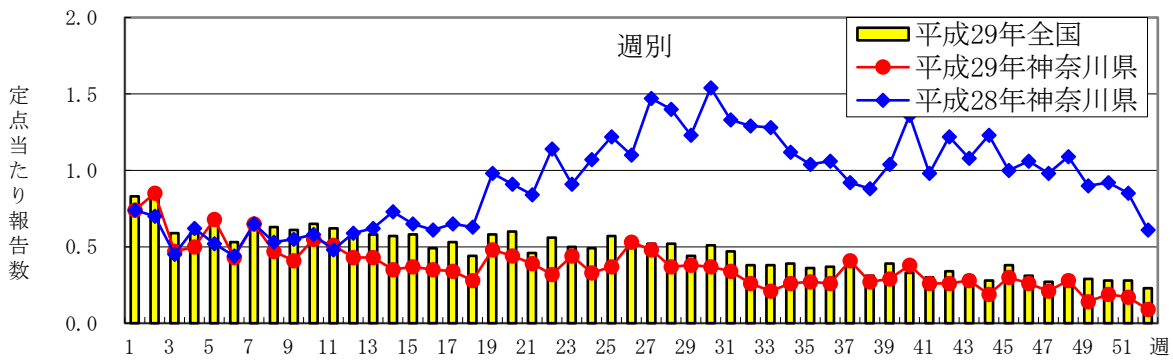
ヘルパンギーナ

前年は警報レベルを超えたが、今年は報告数が少なく、警報レベルに至らなかった。
年齢別では、1歳を中心に多く報告された。



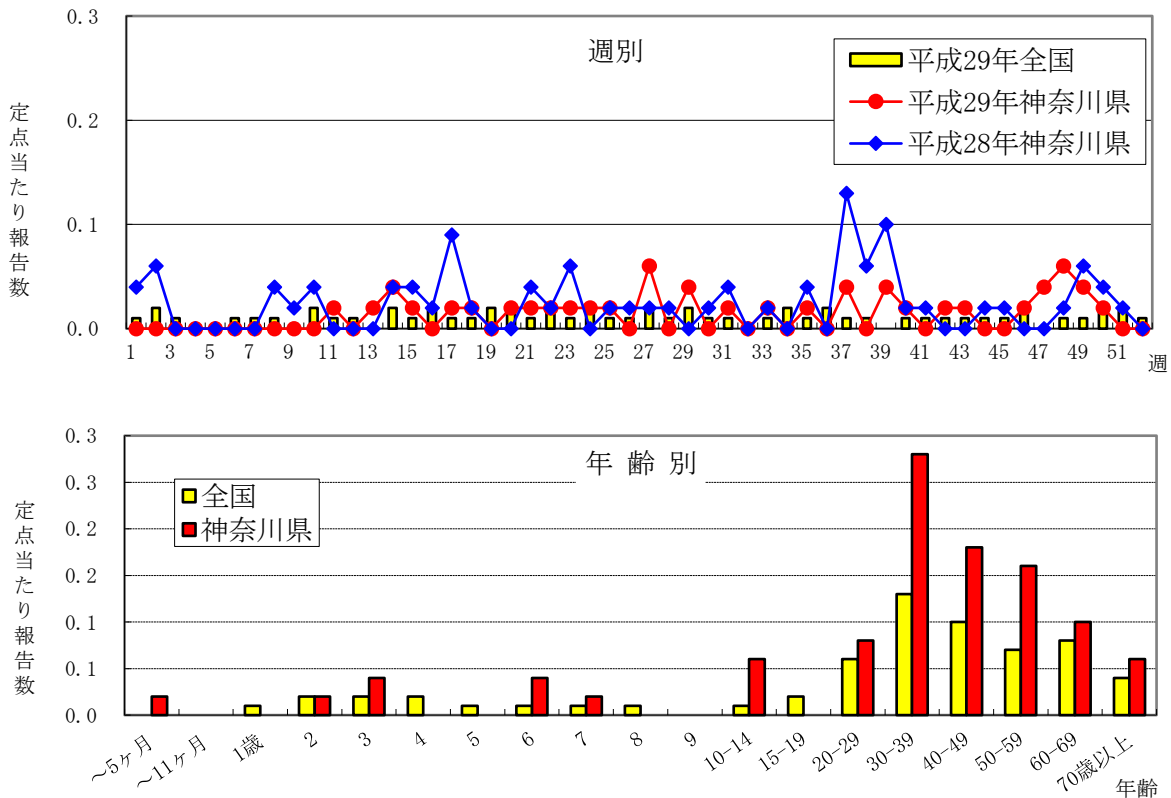
流行性耳下腺炎

前年と比べて、年間を通して報告が少なかった。年齢別では、5歳を中心に報告された。



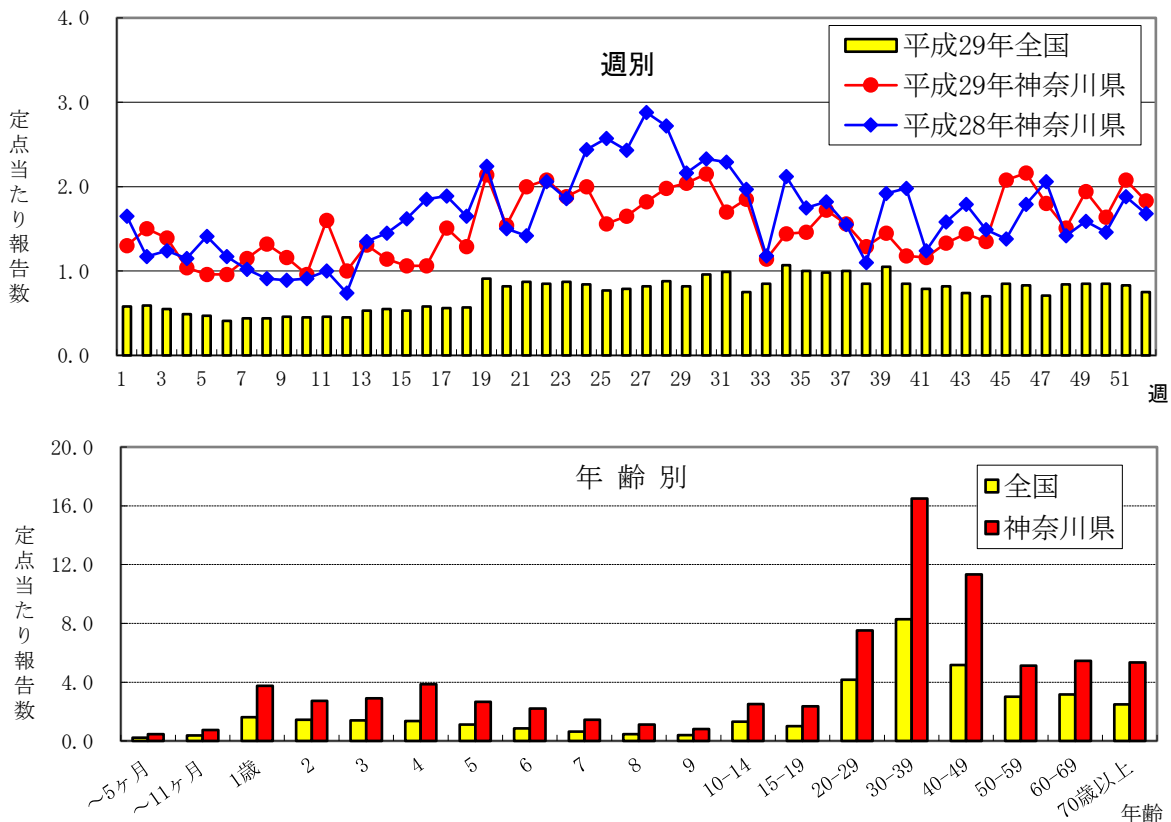
急性出血性結膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、全国と比べて30歳から40歳代を中心に多く報告された。



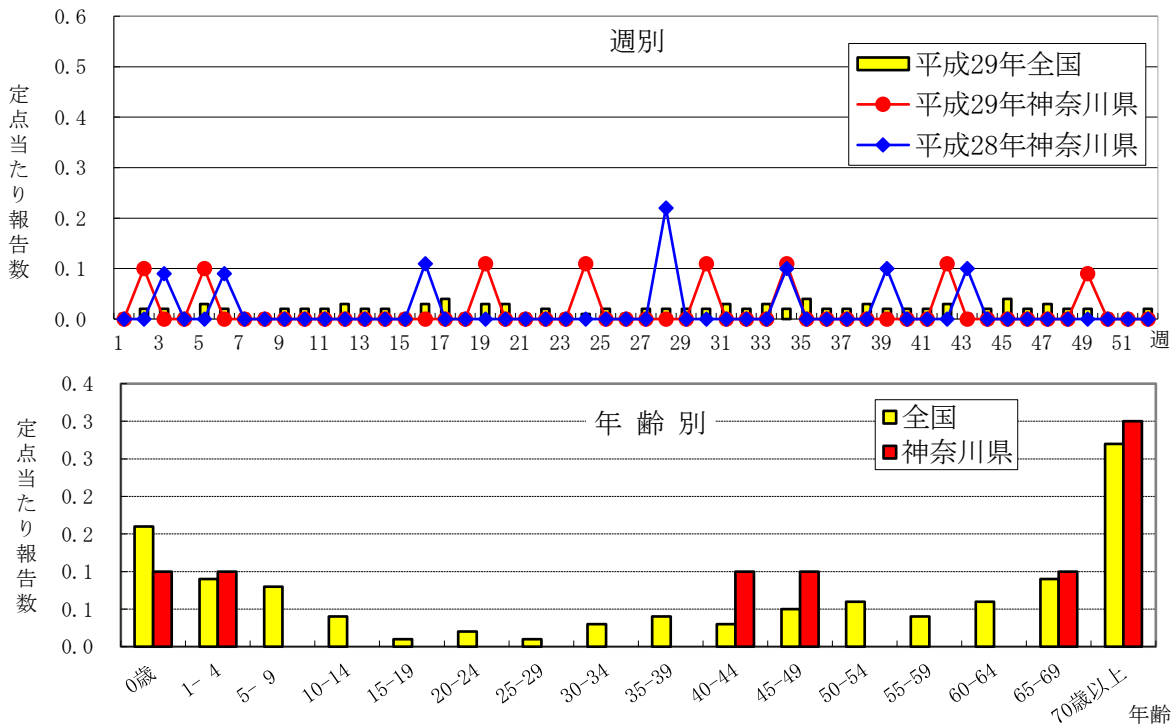
流行性角結膜炎

前年と同様に、年間を通して報告がみられた。年齢別では、30代を中心に多く報告された。



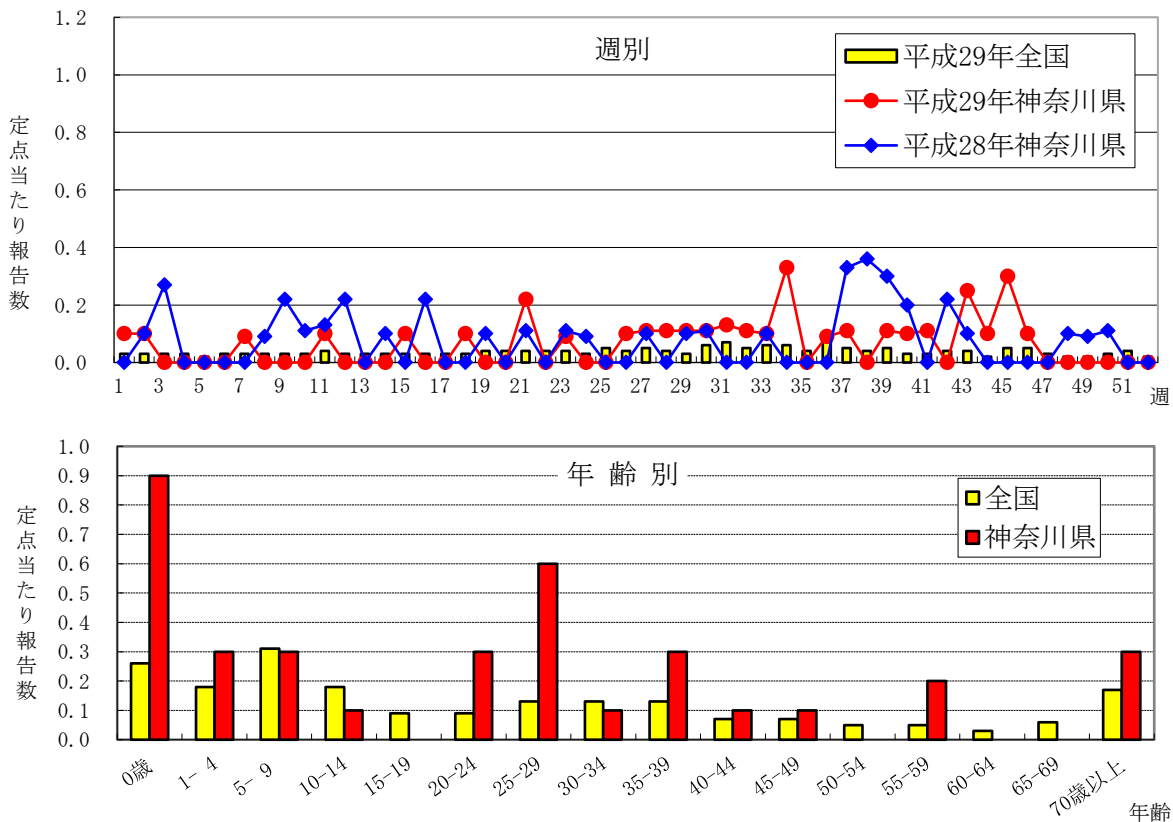
細菌性髄膜炎

散発的な報告がみられた。



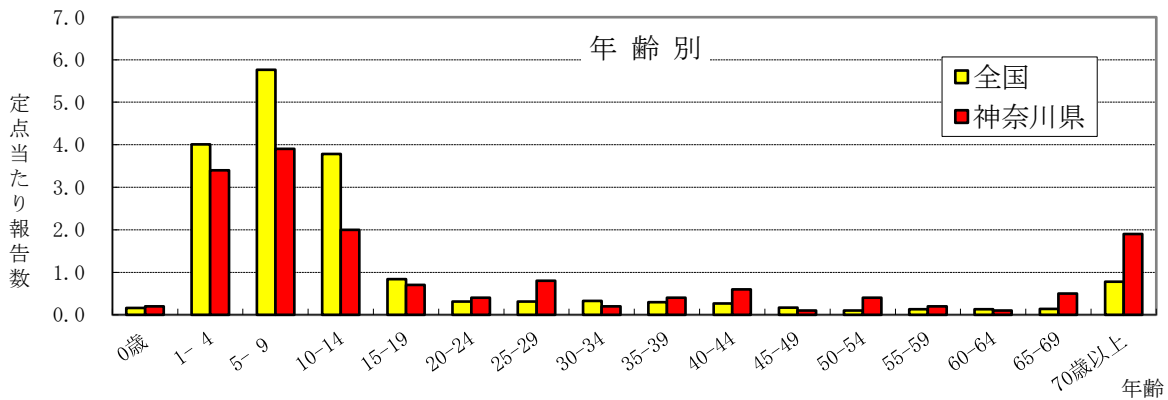
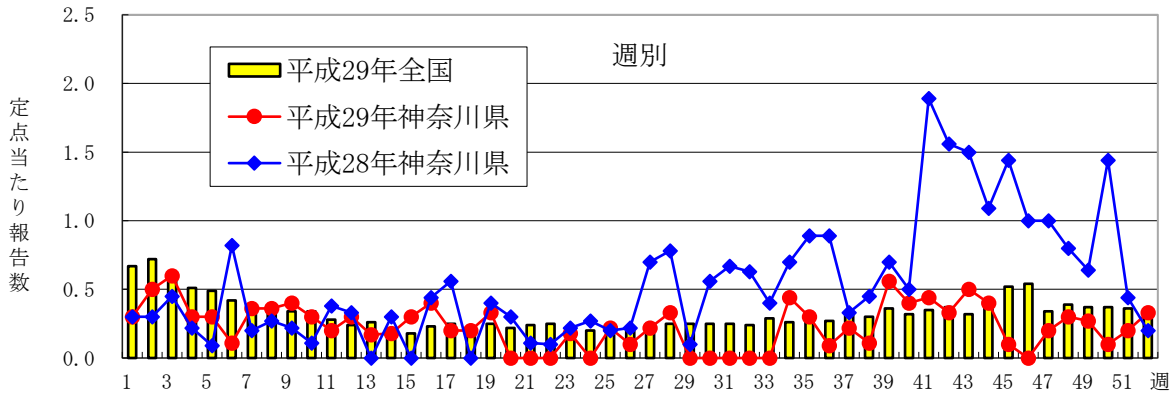
無菌性髄膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、0歳に多く報告された。



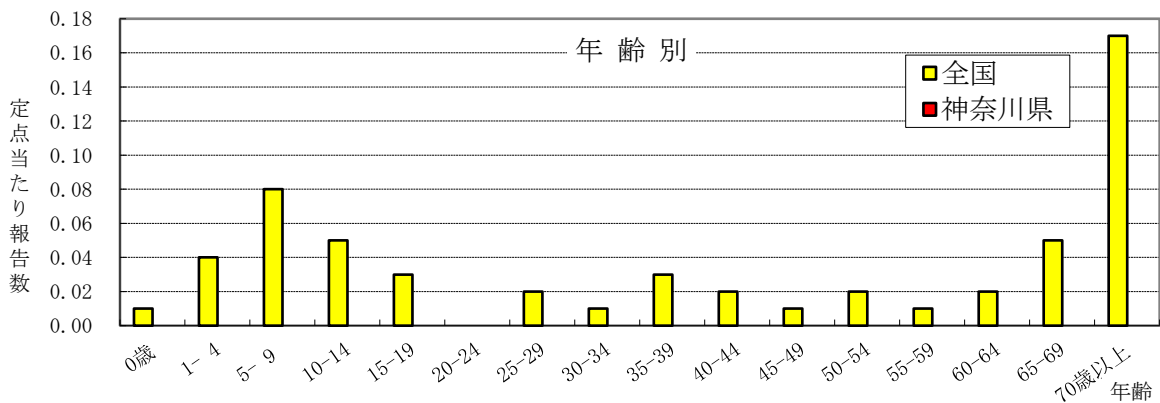
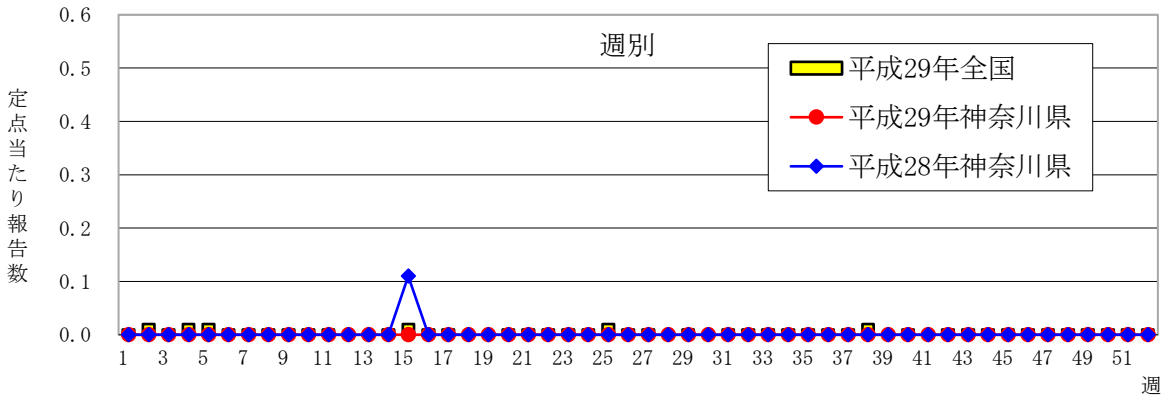
マイコプラズマ肺炎

前年と比較し、報告数が減った。年齢別では、5歳から9歳を中心に報告された。



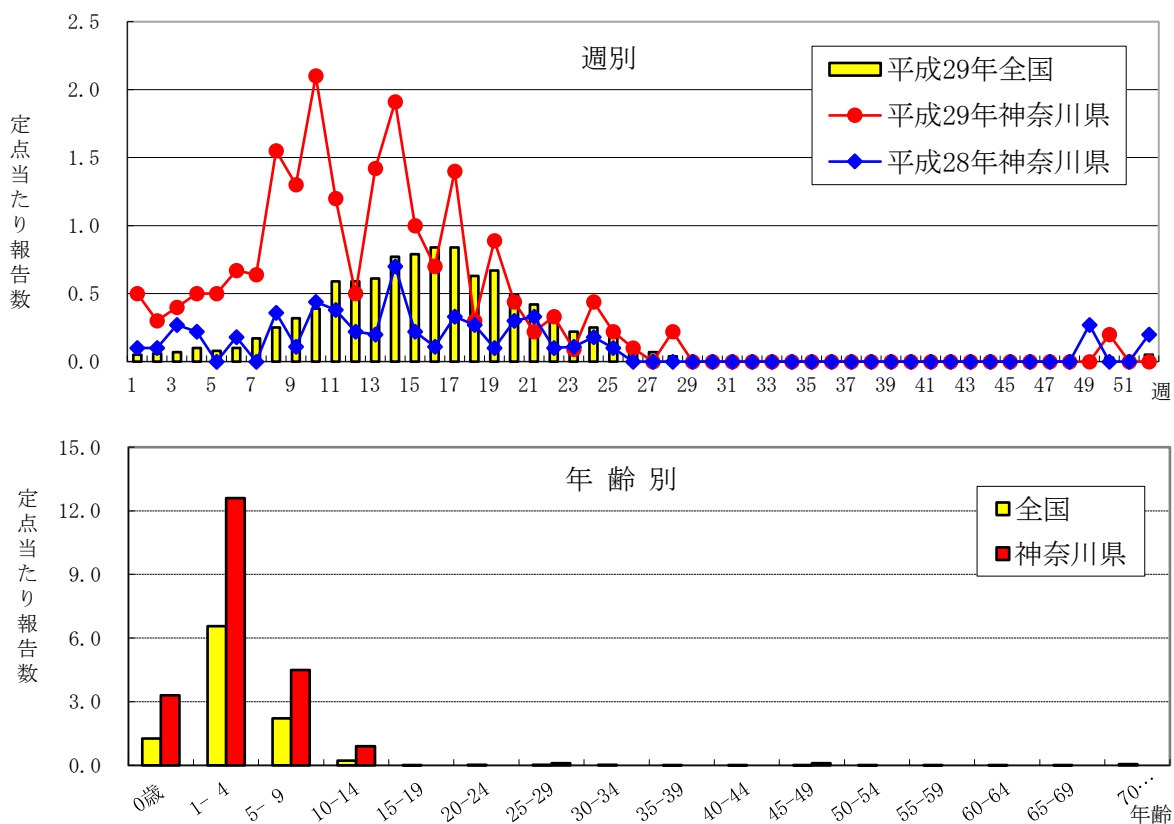
クラミジア肺炎（オウム病を除く）

今年は、報告はみられなかった。



感染性胃腸炎（ロタウイルス）

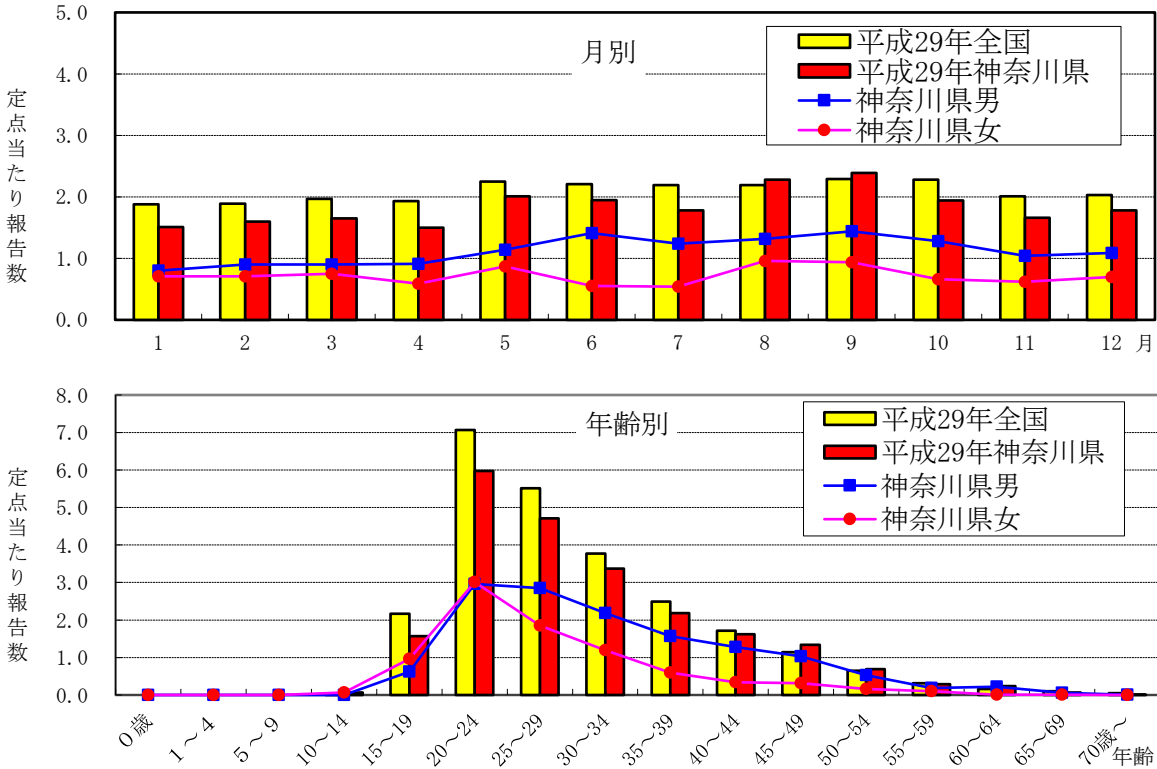
今年（平成29年）は第1週から20週まで、前年より多く報告された。年齢別では、1歳～4歳を中心に報告された。



(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）

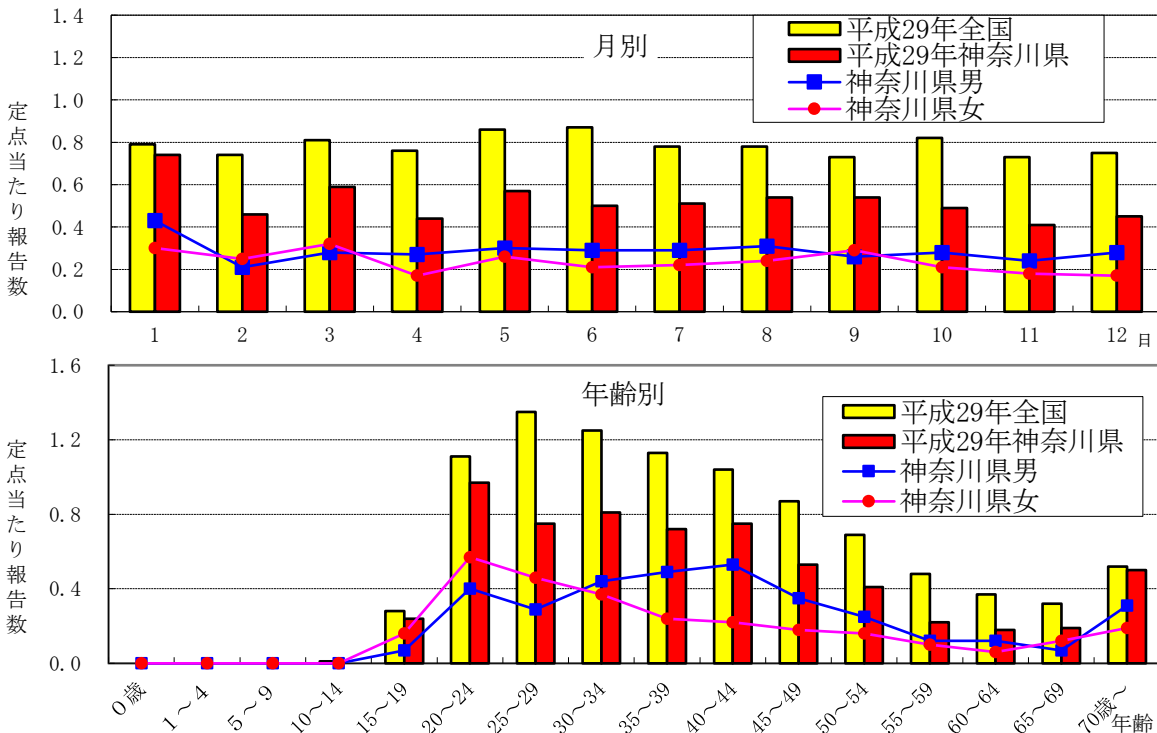
性器クラミジア感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男女ともに 20 歳前半を中心に報告がみられた。



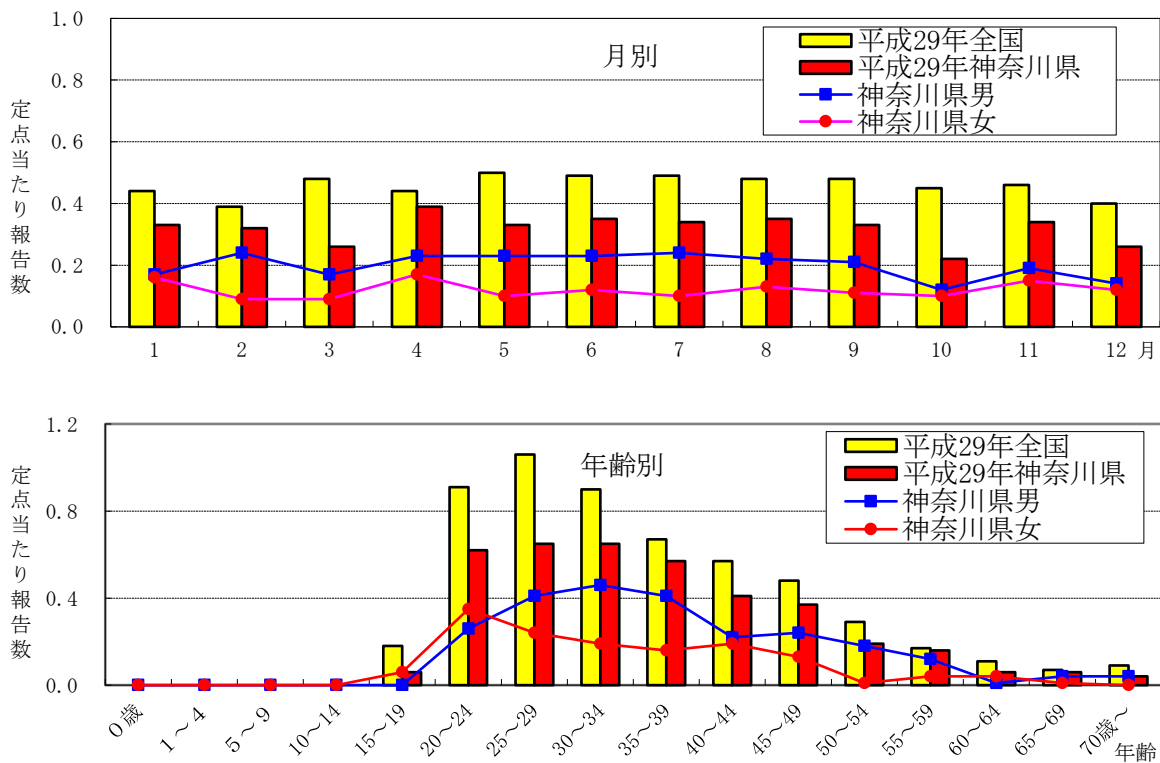
性器ヘルペスウイルス感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性は 40 歳代前半、女性は 20 歳代前半を中心に、幅広い年齢層で報告された。



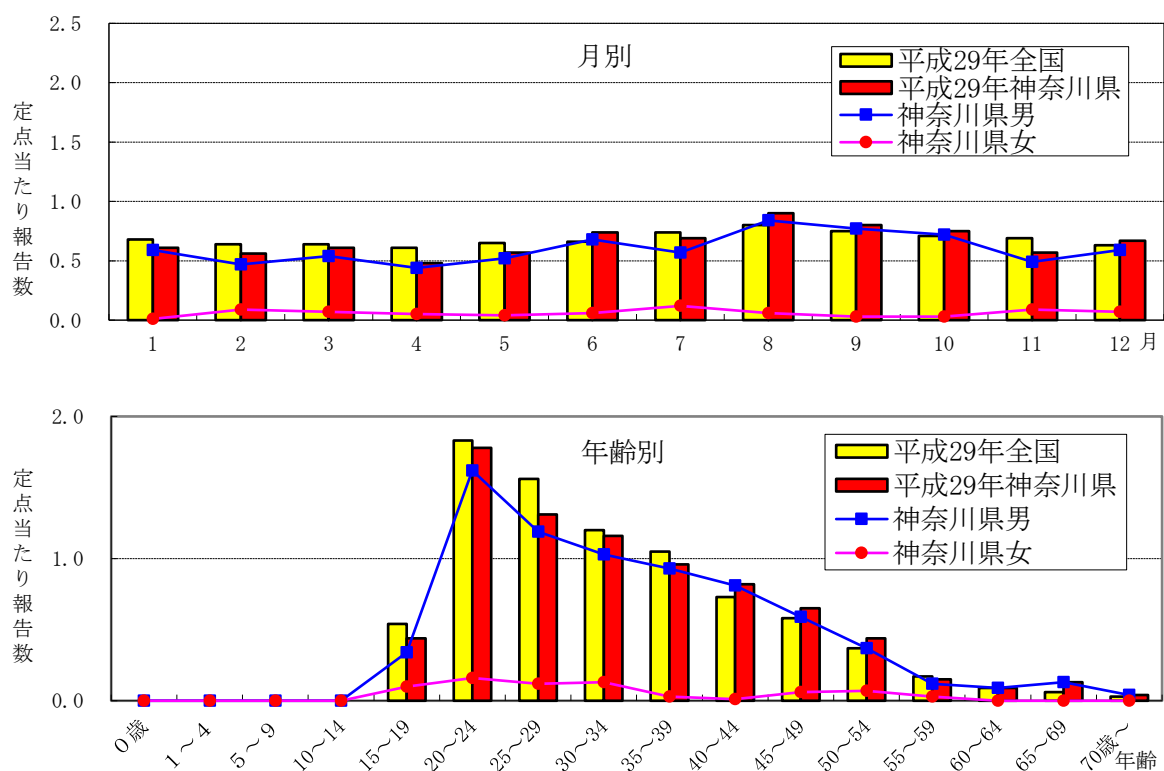
尖圭コンジローマ

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性は30歳代前半、女性は20歳～24歳を中心に報告された。



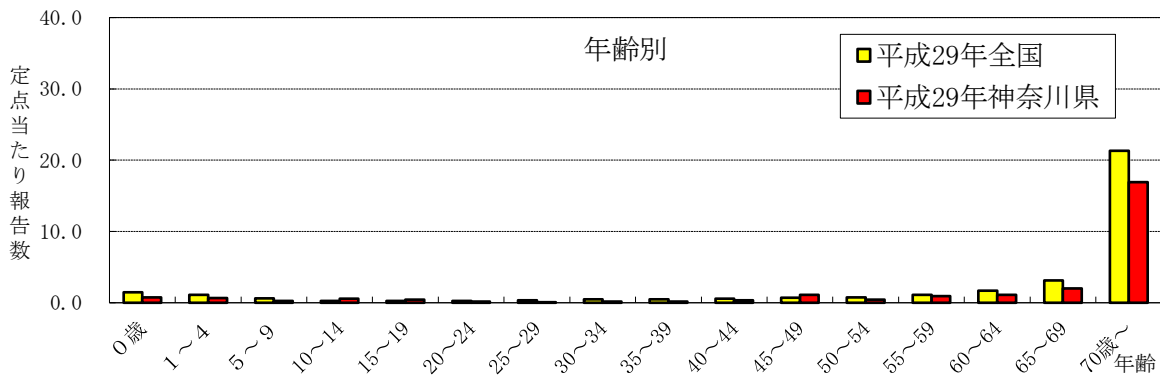
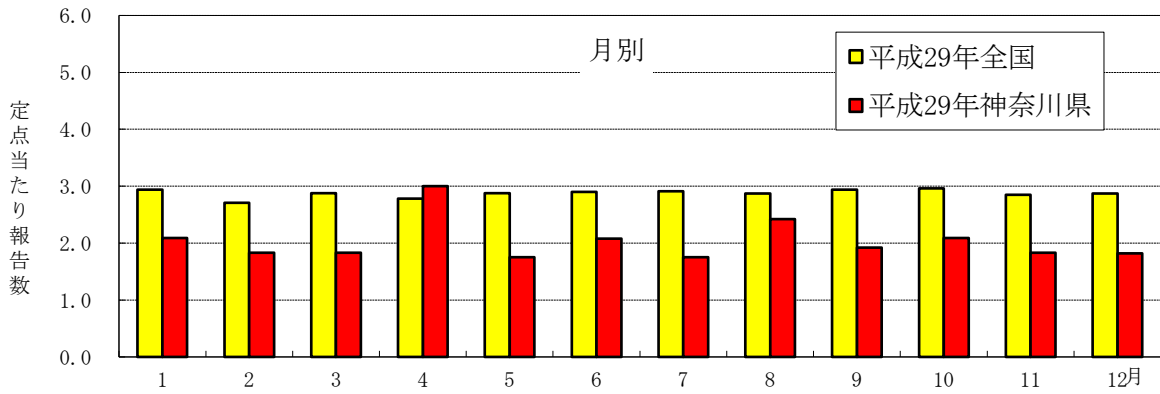
淋菌感染症

男性は年間を通して報告がみられたが、女性の報告は少なかった。年齢別では、男性が20歳～24歳をピークに40代まで幅広く報告された。



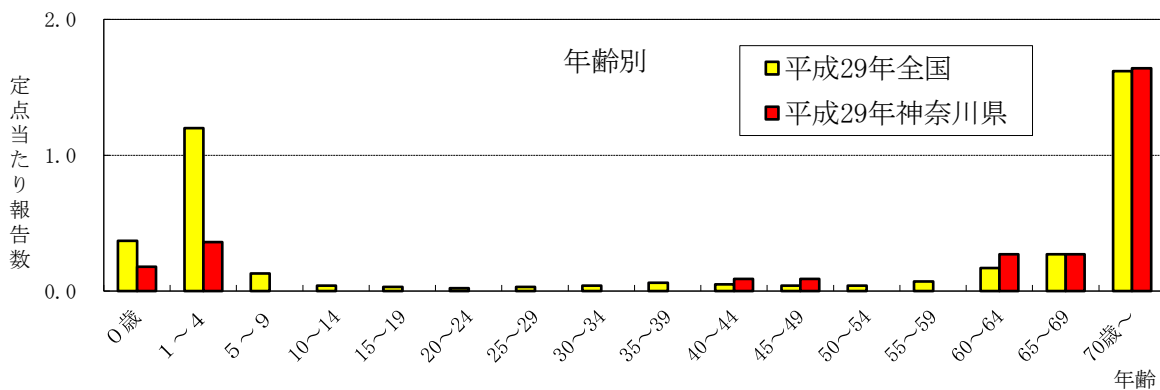
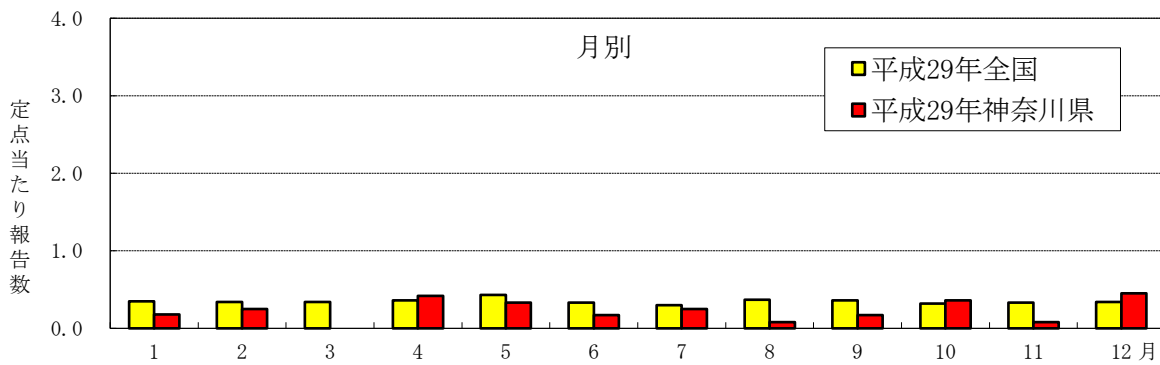
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では、70歳以上に多く報告された。



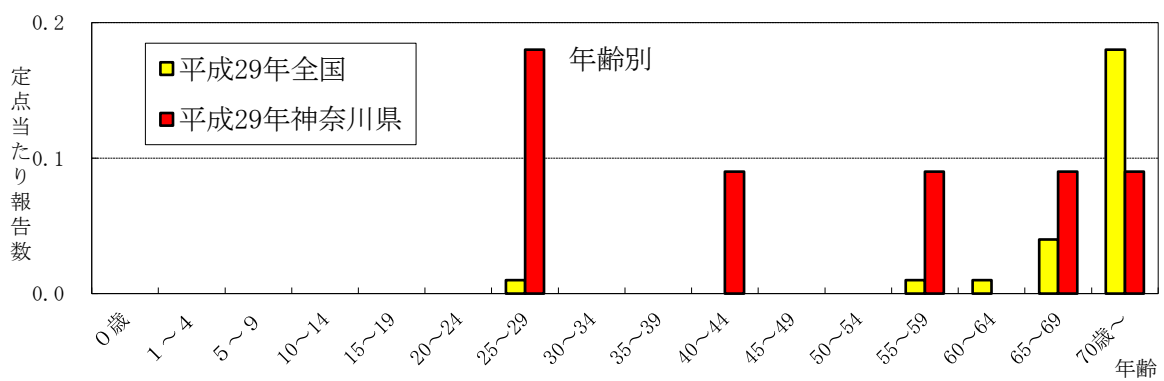
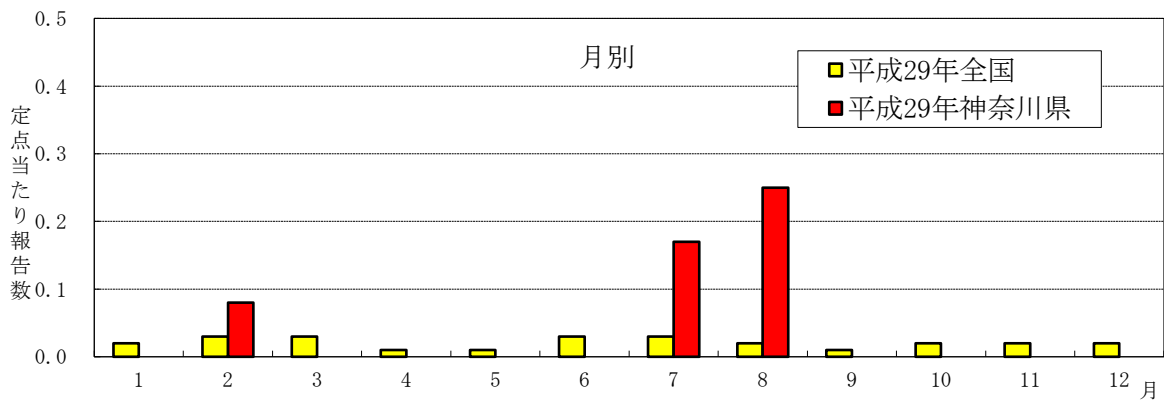
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では、70歳以上に多く報告された。



薬剤耐性緑膿菌感染症

月別では8月に多く報告された。年齢別では、25～29歳代に多く報告がみられた。



3 トピックス

1) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (CRE) について

(平成 30 年 1 月 25 日 NESID 集計)

平成 26 年より加わった疾患です。年々届出が増加しています。平成 28 年、29 年における菌種別、届出保健所別について取り上げました。

(1) 菌種別

菌種	報告数	
	平成 28 年	平成 29 年
<i>Enterobacter cloacae</i>	43	49
<i>Enterobacter aerogenes</i>	49	45
<i>Enterobacter asbunae</i>	0	1
<i>Enterobacter sp.</i>	0	1
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	7	6
<i>Klebsiella oxytoca</i>	2	5
<i>Klebsiella sp.</i>	0	1
<i>Citrobacter freundii</i>	4	3
<i>Citrobacter braakii</i>	0	2
<i>Citrobacter</i> 属	1	0
<i>Serratia marcescens</i>	4	4
<i>Escherichia coli</i>	1	3
<i>Enterobacter cloacae</i> 及び <i>Citrobacter freundii</i>	1	0
記載なし	1	3
計	116	123

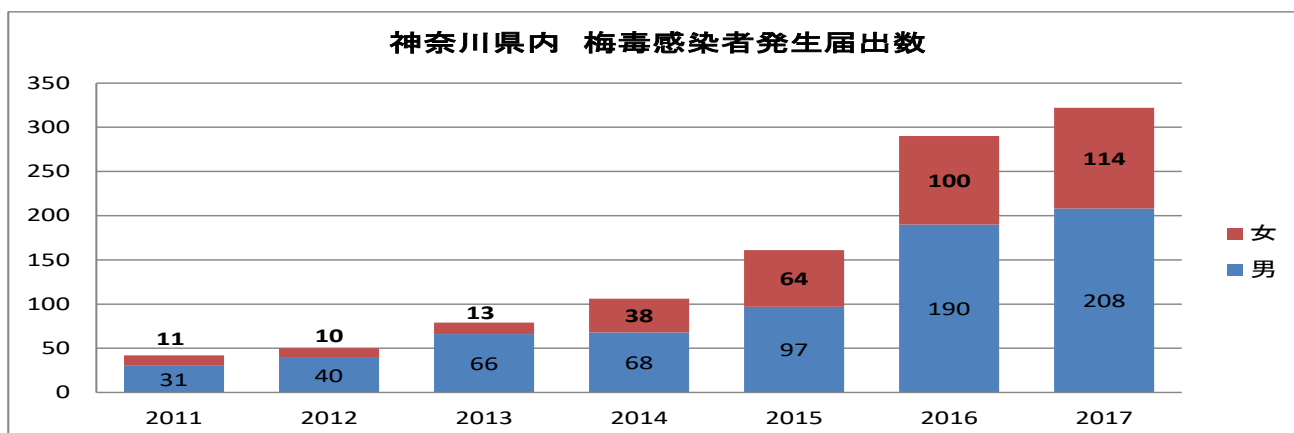
(2) 届出保健所別

保健所	報告数	
	平成 28 年	平成 29 年
横浜市	55	53
川崎市	24	23
相模原市	11	5
横須賀市	0	1
藤沢市	7	2
茅ヶ崎・茅ヶ崎市	1	1
平塚	1	2
秦野センター	3	9
鎌倉	0	4
三崎センター	0	0
小田原	0	8
足柄上センター	7	9
厚木	7	4
大和センター	0	2
計	116	123

2) 神奈川県内の梅毒 (出典：2018年1月24日 感染症発生動向調査による)

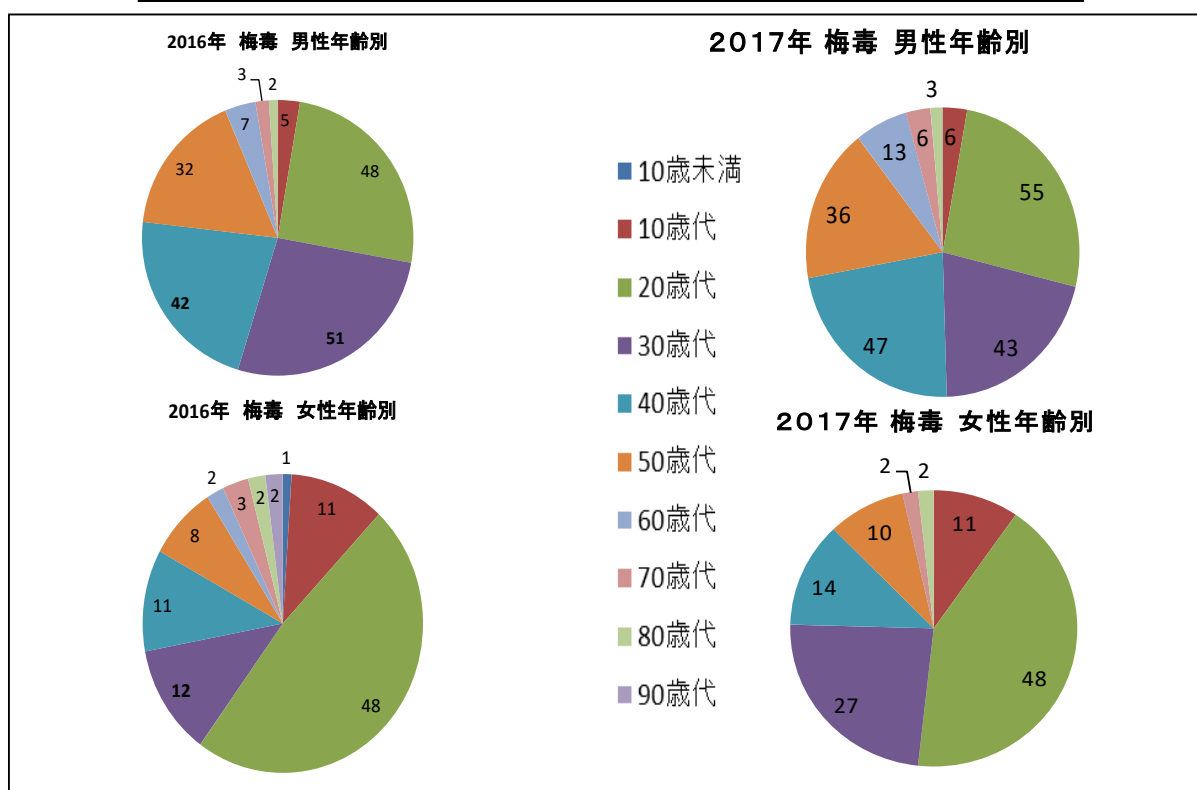
2017年の神奈川県における梅毒の届出は322件で、前年の290件より32件増加しています。

(1) 神奈川県内 梅毒感染者発生届出数



(2) 2016年・2017年 男女別年齢別届出数

	2016			2017		
	男	女	総計	男	女	総計
10歳未満	0	1	1	0	0	
10歳代	5	11	16	6	11	17
20歳代	48	48	96	54	48	102
30歳代	51	12	63	43	27	70
40歳代	42	11	53	47	14	61
50歳代	32	8	40	36	10	46
60歳代	7	2	9	13	0	13
70歳代	3	3	6	6	2	8
80歳代	2	2	4	3	2	5
90歳代	0	2	2	0	0	0
総計	190	100	290	208	114	322



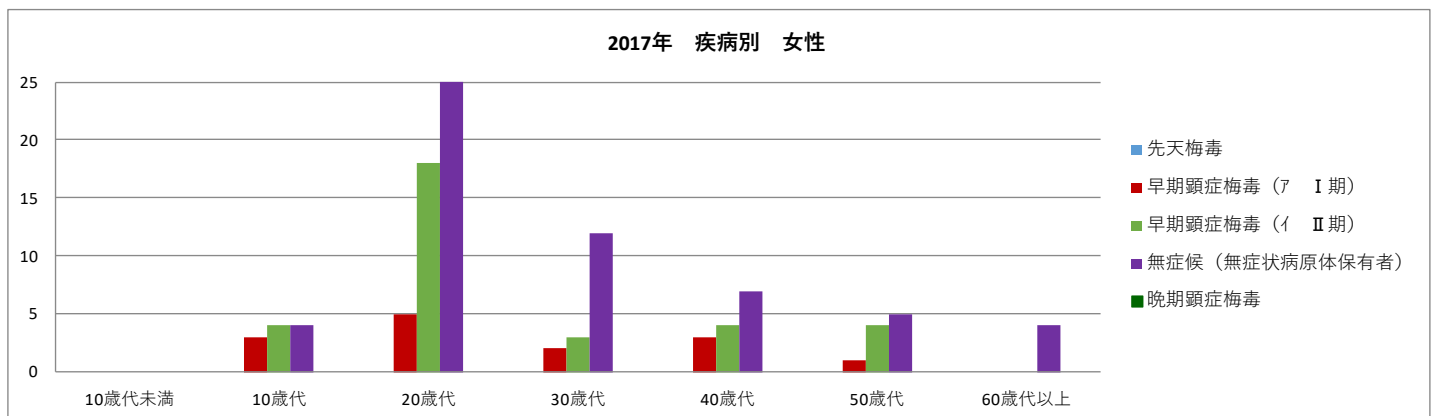
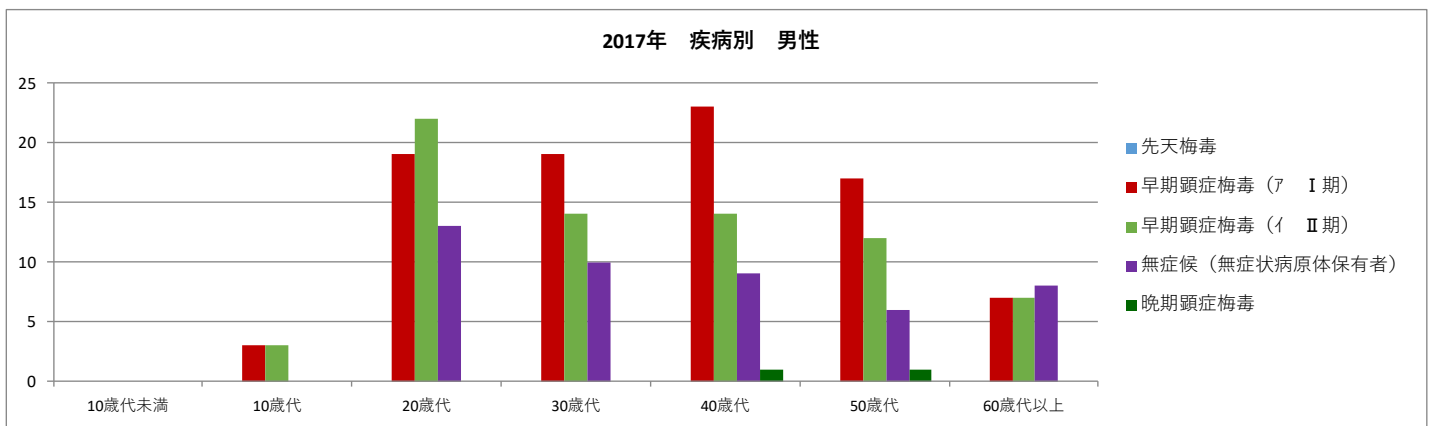
(3) 神奈川県内 2016・2017年 疾患別年齢別届

2016年 男性	10歳代未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	総計
先天梅毒								0
早期顕症梅毒(ア、Ⅰ期)		2	25	29	25	18	4	103
早期顕症梅毒(イ、Ⅱ期)		3	17	16	9	8	1	54
無症候(無症状病原体保有者)		0	5	6	7	5	7	30
晚期顕症梅毒					1	1		2

2016年 女性	10歳代未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	総計
先天梅毒	1							1
早期顕症梅毒(ア、Ⅰ期)	0	3	5	3	1	1	0	13
早期顕症梅毒(イ、Ⅱ期)	0	5	15	4	2	5	3	34
無症候(無症状病原体保有者)	0	3	28	5	8	2	5	51
晚期顕症梅毒							1	1

2017 男性	10歳代未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	総計
先天梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0
早期顕症梅毒(ア、Ⅰ期)	0	3	19	19	23	17	7	88
早期顕症梅毒(イ、Ⅱ期)	0	3	22	14	14	12	7	72
無症候(無症状病原体保有者)	0	0	13	10	9	6	8	46
晚期顕症梅毒	0	0	0	0	1	1	0	2

2017 女性	10歳代未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	総計
先天梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0
早期顕症梅毒(ア、Ⅰ期)	0	3	5	2	3	1	0	14
早期顕症梅毒(イ、Ⅱ期)	0	4	18	3	4	4	0	33
無症候(無症状病原体保有者)	0	4	25	12	7	5	4	57
晚期顕症梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0



【資料】全数把握疾患保健所別累積報告数

(平成30年1月24日現在 感染症発生動向調査による)

	二類		三類感染症				四類感染症											五類感染症																									
	結核		コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	ジカウイルス感染症	コクシジオイデス症	つがひ虫病	デング熱	日本紅斑熱	ポツリクス症	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコフ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	優養性インフルエンザ菌感染症	優養性髄膜炎菌感染症	優養性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹	薬剤耐性アシネトバクター感染症				
平成28年総数	3261	1686	2	8	270	3		26	21	4	15	24			1	6		123	4	106	18	114	74	2	6	53	82	5	20	5	226	27	285	5	8	10	10	8	4				
平成29年総数	3200	1664	17	267	3	2	14	19	2	1	16	26	1	1	1	1	1	101	2	90	12	123	47	14	47	82	2	26	3	238	15	322	11	5	6	10	9	1					
梅浜市	1411	726	6	129	1		3	7	1	1	8				1	1	37		47	3	53	24	2	25	48	1	7	115	9	134	3	3	3	9	4								
川崎市	610	304	3	35	2		4	6			6	1					16	1	23	2	23	18	1	10	8	1	8	1	53	2	77	2	1										
相模原市	201	131		8			1	2	1		4						11				5	1				8			14	1	11	1	1										
県域	978	503	8	95	2		6	4			16	8					37	1	20	7	42	4	11	12	18	1	11	2	56	3	100	5	3	1	1	1	1	1	1	1			
相模原市	116	52	2	5	1		3	1			1						8		2	1	1	1	4	1	2	3	1	9		19													
藤沢市	147	70	2	13	1		1				1						5		9	2	2	1				3	1	10	25	1													
茅ヶ崎市*	41	31		2	1												2				1								1	1	2												
平塚	81	42		13							2						3				1	2		2		1	2	1	6		6												
秦野センター	165	63		32			2				4	2					8		2	2	9	2	2	6	5	3	6	1	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
鎌倉	83	48		2								4					2		2	2	4		1	2					12	3	1	2											
三崎センター	8	8																																									
小田原	75	39		11							1						2	1	2		8								1	1	1	6											
足柄上センター	38	10		5							8										9								1	4													
厚木	131	83		10	1		1				1						3	1	1	1	4		3	4	1	5	12	1	5	12	1												
大和センター	76	46		1	3		2										4		2	2	2								3	10	1												
茅ヶ崎*	17	11																			1								3	2													

*平成29年4月より茅ヶ崎市が保健所設置市になりました。(平成29年3月までの報告は茅ヶ崎保健福祉事務所です。)

<PART II> 平成 29 年地域における感染症発生状況の概要

I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況

平成 25 年～29 年のウイルス検出状況を図 1 に示した。平成 29 年に県内で検出されたウイルスは 2,271 件で、比較的多かった。平成 29 年の月別検出状況は、例年と同様であった。

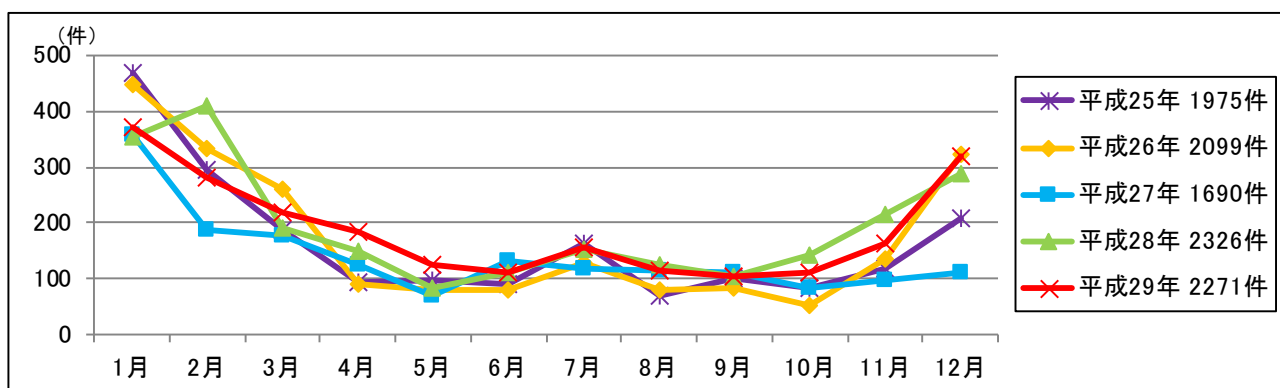


図 1 ウイルス月別検出状況年別比

平成 29 年に検出されたウイルスのうち、検出割合の多い上位 10 種について平成 25 年～29 年の年別検出割合を図 2 に示した。最も多く検出されたウイルスはインフルエンザウイルス AH3 (31.9%)、次いでインフルエンザウイルス B (17.9%)、インフルエンザウイルス AH1pdm09 (9.6%) の順であり、上位 3 種をインフルエンザウイルスが占めた。

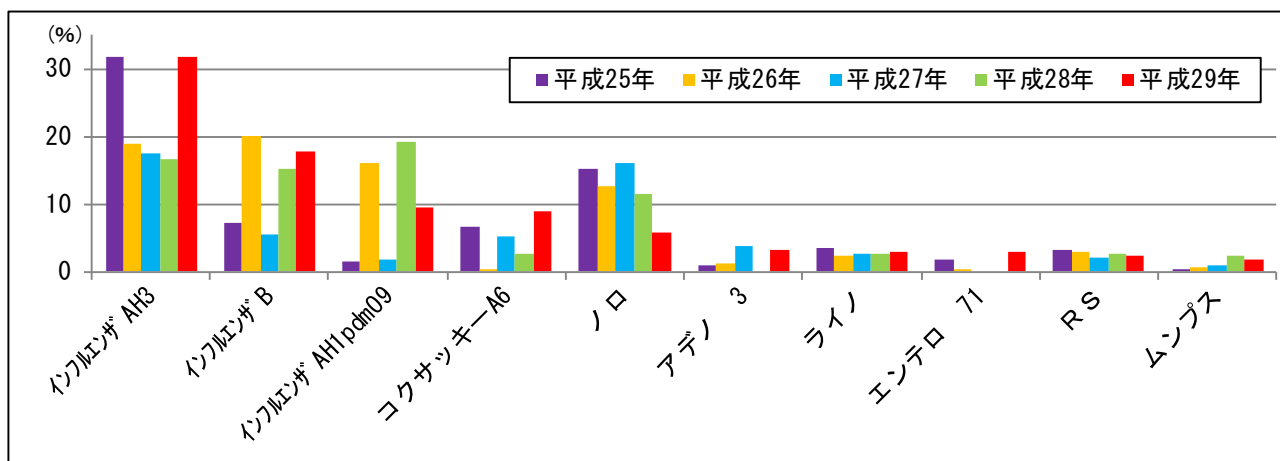


図 2 主なウイルスの年別検出割合

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、ウイルス検出状況表 (p 32～p 43) に記載する。

2 病原細菌検出概況

平成 25 年～29 年の病原細菌検出状況を図 1 に示した。平成 29 年に県内で検出された病原細菌は 1,224 件であった。月別の検出状況は、8 月が 174 件で最も多く次いで 9 月の 154 件で、夏季～秋季の検出が比較的多い傾向にあった。

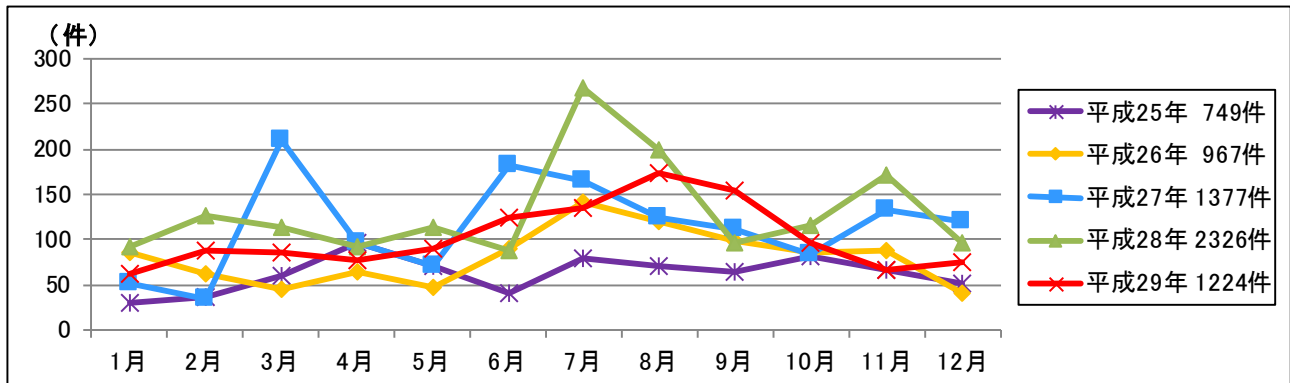


図 1 病原細菌月別検出状況年別比較

平成 29 年に検出された病原細菌のうち、検出割合の多い上位 10 種について平成 25 年～29 年の年別検出割合を図 2 に示した。最も多く検出された病原細菌は腸管出血性大腸菌で全体の 18.2% を占め、以下 A 群溶血レンサ球菌 13.7%、結核菌 10.9% であった。

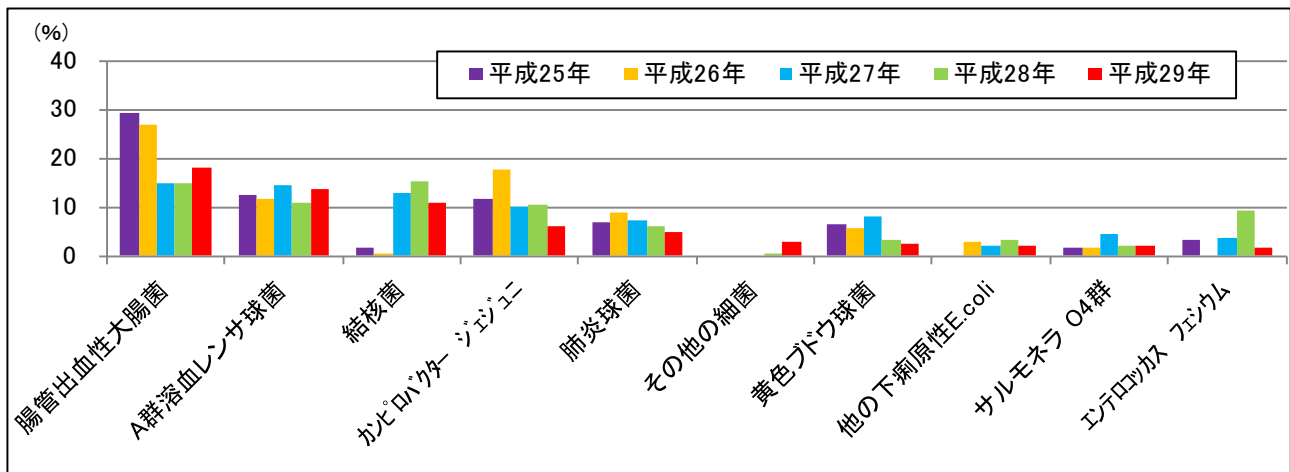


図 2 主な病原細菌の年別検出割合

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、病原細菌検出状況表（p 44～p 47）に記載する。

3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

3-1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握対象疾患							定点把握対象疾患										合計
	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	急性脳炎	麻疹※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	
インフルエンザ AH1pdm09													197				4	201
インフルエンザ AH3													657				9	666
インフルエンザ B						2							363				8	373
パラインフルエンザ 1								1									4	5
パラインフルエンザ 2																	9	9
パラインフルエンザ 3																	12	12
パラインフルエンザ 4																	3	3
R S						1		36									12	49
ヒトメタニューモ								1					4				25	30
ヒトコロナ OC43								1									4	5
ヒトコロナ 229E or NL63								1									4	5
ヒトボカ													1				5	6
コクサッキー A2											2				2		1	5
コクサッキー A4											1							1
コクサッキー A6						2				148	17		1		2	16	186	
コクサッキー A8																	1	1
コクサッキー A9															7	6	13	
コクサッキー A10										7	6					5	18	
コクサッキー A16										9						2	11	
コクサッキー B1																1	1	
コクサッキー B2															4	2	6	
コクサッキー B3															1		1	
コクサッキー B4										1							1	
コクサッキー B5															1		1	
エコー 3															3	3	6	
エコー 6															3		3	
エコー 7																1	1	
エコー 9										1						5	6	
エンテロ A71									2	48	1				7	4	62	
パレコ 1					1				4									5
パレコ 3										1					3	10	14	
ライノ					7					5	1	1	3		4	44	65	
ムンプス					1							37			1	1	40	
麻疹							6											6
アデノ 1									6		1			1		4	12	
アデノ 2									20	1	1				1	9	32	
アデノ 3									45		1		1	4		16	67	
アデノ 4									3					2		2	7	
アデノ 5													1			3	4	
アデノ 6													1			1	2	
アデノ 31										2						1	3	
アデノ 37															1		1	
アデノ 41						1				1							2	
アデノ 56															1		1	
アデノ 64										2				2			4	
アデノ（型未決定）								2	2	9			1			8	22	
単純ヘルペス 1						3					1					4	8	
単純ヘルペス 2															2		2	
水痘・帯状疱疹															6	11	18	
E B						5									3	2	10	
サイトメガロ						7									2	2	11	
ヒトヘルペス 6						10									7	8	25	
ヒトヘルペス 7						5									6	7	18	
バルボウイルス B19															2	2	2	
A型肝炎		6																6
E型肝炎	1																	1
ロタ									36									36
ノロ									92							26		118
サボ									5									5
アストロ									13									13
デング				17														17
ジカ				1														1
チクソン			5															5
リケッチャ シンボニカ					1													1
計	1	6	5	18	1	45	6	42	78	165	221	31	38	1230	11	65	307	2271

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-1 神奈川県 (月別)

年・月 検出ウイルス	平成29年												合計		
	平成27年	平成28年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		11月	12月
インフルエンザ AH1pdm09	38	450	1	1	4	1	2	3	1	4	8	4	45	127	201
インフルエンザ AH3	368	388	303	195	66	23	4	5	4	8	7	13	10	28	666
インフルエンザ B	117	355	24	60	85	81	20	4	3		4	11	13	68	373
パラインフルエンザ 1	11	16									1		1	3	5
パラインフルエンザ 2	8	8		1	2						1	2	1	2	9
パラインフルエンザ 3	32	25				1	2	3	6						12
パラインフルエンザ 4	4	3		1					1				1		3
R S	42	65	4	1	3	2	4	6	8	10	4	3	4	4	49
ヒトメタニューモ	26	30	4	2	5	5	6	1	4					3	30
ヒトコロナ OC43	12	9	1				1							3	5
ヒトコロナ 229E or NL63	15	13	2	2						1					5
ヒトボカ	9	5				1	4	1							6
サフォード		1													
コクサッキー A2	7	26								3		2			5
コクサッキー A4	1	55										1			1
コクサッキー A5	5	19													
コクサッキー A6	113	64	7			1	8	29	77	38	16	6	4		186
コクサッキー A8		1									1				1
コクサッキー A9	30						1		2	2	2	4	1	1	13
コクサッキー A10	18	29							4	1	5	4	3	1	18
コクサッキー A14	2														
コクサッキー A16	91	9							2	4			3	2	11
コクサッキー B1		1											1		1
コクサッキー B2											2	2	2		6
コクサッキー B3	2	14								1					1
コクサッキー B4	1	1								1					1
コクサッキー B5	1	35								1					1
エコー 3	1	8									2	3		1	6
エコー 5		1													
エコー 6		8		1							2				3
エコー 7											1				1
エコー 9	1	9								1	2	3			6
エコー 11		3													
エコー 16	4														
エコー 18	3	4													
エコー 30	1														
エンテロ D68	8														
エンテロ A71		1					1	3	1	6	3	15	14	19	62
パレコ 1	4	4						1	2		1		1		5
パレコ 3	3	31			3			1	5	4	1				14
パレコ 6	3														
ライノ	58	62	2	1	5	7	12	10	4	5	2	4	9	4	65
ムンプス	19	55	4	2	2	5	4	2	3	3	3	2	7	3	40
麻疹	11	14			1	1						4			6
風疹		2													
アデノ 1	9	14	2		1		2	2		1	1		2	1	12
アデノ 2	32	39	1	2	5	1	6	6	2	1	2	1	3	2	32
アデノ 3	79	18	1	2	1		12	4	7	5	4	4	16	11	67
アデノ 4	17	17	3			1	2			1					7
アデノ 5	4	5			1			1	2						4
アデノ 6	1		1					1							2
アデノ 8	2														
アデノ 19	1	1													
アデノ 31	1							2	1						3
アデノ 37	11	4							1						1
アデノ 41						1					1				2
アデノ 40/41	5	11													
アデノ 53		5													
アデノ 54		10													
アデノ 56	3	1												1	1
アデノ 64	1				1	1	1				1				4
アデノ (型未決定)	12	16			4	4	2	1	2	1		2	3	3	22
単純ヘルペス 1	9	6				2		2	1			1	1	1	8
単純ヘルペス 2		1								1		1			2
水痘・帯状疱疹	3	10		1	1	2	3	2	1			4	3	1	18
EB	3	1				1	1	3	2	1					10
サイトメガロ	4	5					4	1	1		2	1	2		11
ヒトヘルペス 6	8	14			1	3	3	4		1	6	1	5	1	25
ヒトヘルペス 7	14	17			1		2	4	1	2	2	3	2	1	18
バルボウイルス B19	5	4								1	1				2
A型肝炎	1	4			1		1	1	1		2				6
E型肝炎				1											1
ロタ	25	13	4	4	13	6	6	3							36
ノロ	339	267	3	3	13	28	6	7	7	6	8	4	5	28	118
サボ	16	3	1	2			1		1						5
アストロ	5	3				6	6	1							13
デング	10	9	3	1	3		1			5	1	1		2	17
ジカ		1							1						1
チクソンツウカシ	2	1											3	2	5
リケッチャ シヤボニカ								1							1
リケッチャ ティワイ		1													1
計	1690	2326	372	281	220	185	126	113	156	116	106	111	164	321	2271

3-2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス																合計
	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	麻しん※	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	
インフルエンザ AH1pdm09												91				91
インフルエンザ AH3												310				310
インフルエンザ B												110				110
R S															2	2
コクサッキー A2										2				2		4
コクサッキー A6									91	7				2		100
コクサッキー A10									7	4						11
コクサッキー A16									3							3
コクサッキー B2														2		2
エコー 3														3		3
エコー 6														3		3
エコー 9									1						3	4
エンテロ A71									31					6	1	38
パレコ 3									1					3	2	6
ライノ					1				1		1			4	1	8
ムンプス					1						27					28
麻疹						3										3
アデノ 1							6									6
アデノ 2							16		1					1		18
アデノ 3							30			1			1			32
アデノ 4							1									1
アデノ 64							1									1
アデノ（型未決定）								9								9
単純ヘルペス 1										1					1	2
水痘・帯状疱疹														1		1
E B														3		3
サイトメガロ					2									2	1	5
ヒトヘルペス 6					1									7	1	9
ヒトヘルペス 7														5	1	6
A型肝炎		2														2
E型肝炎	1															1
ロタ								6								6
ノロ								22								22
サポ								1								1
アストロ								7								7
デング				11												11
チエンチア ツツガムシ			5													5
計	1	2	5	11	5	3	54	45	136	15	28	511	1	44	13	874

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 27年	平成 28年	平成29年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09	25	206	1		2		1	2		3	2		23	57	91
インフルエンザ AH3	142	179	144	96	32	8		2		2	2	9	5	10	310
インフルエンザ B	43	138	6	21	26	29	2	1				1	3	21	110
R S		2	2												2
コクサッキー A2	3	12								3		1			4
コクサッキー A4	1	29													
コクサッキー A5	2	5													
コクサッキー A6	67	34	6				4	19	44	17	7	3			100
コクサッキー A9	25														
コクサッキー A10	10	24							1	1	3	4	1	1	11
コクサッキー A14	2														
コクサッキー A16	66	5								2		1			3
コクサッキー B1		1													
コクサッキー B2											2				2
コクサッキー B3	2	6													
コクサッキー B4	1														
コクサッキー B5	1	17													
コクサッキー B6															
エコー 3		5										3			3
エコー 5															
エコー 6		6	1								2				3
エコー 9		3									2	2			4
エコー 11		3													
エコー 16	2														
エコー 18	2	4													
エンテロ D68	3														
エンテロ A71		1								3	1	9	10	15	38
パレコ 1	1														
パレコ 3		21			3			1	2						6
パレコ 6	3														
ライノ	9	13	1		1		1	2			1		2		8
ムンプス	3	21	4	1		4	2	1	1	3	3	2	6	1	28
麻疹	11	8										3			3
アデノ 1	5	9	1		1					1			2	1	6
アデノ 2	18	16	1	2	2		3	2	2		1	1	3	1	18
アデノ 3	52	11			1		8	2	6	4		3	5	3	32
アデノ 4	4	8	1												1
アデノ 5	2	5													
アデノ 37	2														
アデノ 40/41		6													
アデノ 54		2													
アデノ 64											1				1
アデノ（型未決定）	1				3	2			1	1			1	1	9
単純ヘルペス 1	3				1							1			2
水痘・帯状疱疹	2	1						1							1
E B	2	1						1	1				1		3
サイトメガロ	2	3					3				1	1			5
ヒトヘルペス 6	7	4					2	1		1	5				9
ヒトヘルペス 7	8	3					1	1		1	2	1			6
バルボウイルス B19	1														
A型肝炎		2			1					1					2
E型肝炎				1											1
ロ タ		4		1	2	2	1								6
ノ ロ	26	47			2	1		1	3	5	2	1	5	2	22
サ ボ	2	1							1						1
アストロ	5	1				4	3								7
デング	7	1	1	1	3					4				2	11
チエンチア ツツガムシ	2	1											3	2	5
計	575	869	169	123	76	52	33	37	63	51	37	46	70	117	874

3-3 横浜市衛生研究所 (疾患別)

疾患名 検出ウイルス	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09								32			4	36
インフルエンザ AH3								126			9	135
インフルエンザ B								72			8	80
パラインフルエンザ 1		1									4	5
パラインフルエンザ 2											9	9
パラインフルエンザ 3											12	12
パラインフルエンザ 4											3	3
R S	1	25									10	36
ヒトメタニューモ		1						2			25	28
ヒトコロナ OC43		1									4	5
ヒトコロナ 229E or NL63		1									4	5
ヒトボカ											5	5
コクサッキー A2											1	1
コクサッキー A4						1						1
コクサッキー A6					25	8					16	49
コクサッキー A8											1	1
コクサッキー A9											6	6
コクサッキー A10						1					5	6
コクサッキー A16					3						2	5
コクサッキー B1											1	1
コクサッキー B2										1	2	3
コクサッキー B5										1		1
エコー 3											3	3
エコー 7											1	1
エコー 9											2	2
エンテロ A71				1	7						3	11
パレコ 1				2								2
パレコ 3											8	8
ライノ	3					1		1			43	48
ムンプス							7			1	1	9
アデノ 1						1					4	5
アデノ 2			1								9	10
アデノ 3								1			16	17
アデノ 4											2	2
アデノ 5											3	3
アデノ 6								1			1	2
アデノ 31				2							1	3
アデノ 64										1		1
アデノ (型未決定)		2	2					1			8	13
単純ヘルペス 1											2	2
単純ヘルペス 2										1		1
水痘・帯状疱疹												1
ロタ				7								7
ノロ				9								9
サボ				3								3
アストロ				5								5
計	4	31	3	29	35	12	7	236	1	4	238	601

3-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成29年												合計		
	平成 27年	平成 28年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月		11 月	12 月
インフルエンザ AH1pdm09	6	89			2	1		1	1	1		1	5	24	36
インフルエンザ AH3	94	67	48	48	15	7	3		2		1	3	2	6	135
インフルエンザ B	27	90	2	3	18	20	9		3		2	6	6	11	80
パラインフルエンザ 1	11	16									1		1	3	5
パラインフルエンザ 2	8	8		1	2						1	2	1	2	9
パラインフルエンザ 3	32	25				1	2	3	6						12
パラインフルエンザ 4	4	3		1					1			1			3
R S	41	49	2		1	3	1	3	5	5	7	3	3	3	36
ヒトメタニューモ	25	30	4	2	5	5	5	1	3					3	28
ヒトコロナ OC43	12	9	1				1							3	5
ヒトコロナ 229E or NL63	15	13	2	2							1				5
ヒトボカ	9	5				1	3	1							5
サフォード		1													
コクサッキー A2	3	8										1			1
コクサッキー A4		15										1			1
コクサッキー A5	1	6													
コクサッキー A6	38	16						3	19	15	6	2	4		49
コクサッキー A8		1									1				1
コクサッキー A9	4						1			1		3		1	6
コクサッキー A10	7	5							3		1		2		6
コクサッキー A16	17								2	1			2		5
コクサッキー B1													1	1	1
コクサッキー B2												1	2		3
コクサッキー B3		6													
コクサッキー B5		14									1				1
エコー 3	1	1									2			1	3
エコー 5		1													
エコー 6		1													
エコー 7											1				1
エコー 9		6								1		1			2
エコー 16	1														
エコー 18	1														
エコー 30	1														
エンテロ D68	4														
エンテロ A71										1	1	4	1	4	11
パレコ 1	2	3							2						2
パレコ 3	1	10							3	4	1				8
ライノ	49	46	1	1	4	7	8	5	3	3	1	4	7	4	48
ムンプス	14	16		1	1		2	1	2					2	9
風疹		1													
アデノ 1	2	3	1				1	2			1				5
アデノ 2	11	15			2	1	2	3		1	1				10
アデノ 3	22	4	1	1							3	1	6	5	17
アデノ 4	11	6				1				1					2
アデノ 5	2				1			1	1						3
アデノ 6	1		1					1							2
アデノ 8	1														
アデノ 31									2	1					3
アデノ 37	8	2													
アデノ 41															
アデノ 40/41	2	1													
アデノ 53		1													
アデノ 54		1													
アデノ 56	2														
アデノ 64		1				1									1
アデノ（型未決定）	11	10			4	1		1	1			2	2	2	13
単純ヘルペス 1	6	4						1					1		2
単純ヘルペス 2										1					1
水痘・帯状疱疹	1												1		1
ヒトヘルペス 6	1	4													
バルボウイルス B19	3														
ロタ	3	2	2	1	3				1						7
ノロ	10	15			1	2	1	1		1				3	9
サポ	2			2				1							3
アストロ						2	2	1							5
計	527	630	65	63	59	53	42	32	58	37	32	36	47	77	601

3-4 川崎市健康安全研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	A型肝炎	デング熱	日本紅斑熱	急性脳炎	麻疹※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
	インフルエンザ AH1pdm09												36			
インフルエンザ AH3												137				137
インフルエンザ B				2								85				87
R S						11										11
ヒトメタニューモ												2				2
ヒトボカ												1				1
コクサッキー A6				2				27				1				30
コクサッキー A9														7		7
コクサッキー A10										1						1
コクサッキー B2														1		1
コクサッキー B3														1		1
コクサッキー B4									1							1
エンテロ A71									4					1		5
パレコ 1				1				2								3
ライノ				3					4			2				9
ムンプス											3					3
麻疹					2											2
アデノ 2							2									2
アデノ 3							8						1			9
アデノ 4							2						1			3
アデノ 5												1				1
アデノ 64							1									1
単純ヘルペス 1				3											1	4
単純ヘルペス 2														1		1
水痘・帯状疱疹														5	11	16
E B				5											2	7
サイトメガロ				5											1	6
ヒトヘルペス 6				9											7	16
ヒトヘルペス 7				5										1	6	12
パルボウイルス B19															2	2
A型肝炎	4															4
ロタ								21								21
ノロ								8								8
アストロ								1								1
デング		4														4
リケッチャ ジャポニカ				1												1
計	4	4	1	35	2	11	13	32	36	1	3	265	2	17	30	456

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 27年	平成 28年	平成29年												合計		
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
インフルエンザ AH1pdm09	5	92											5	3	7	21	36
インフルエンザ AH3	64	87	70	35	10	4	1	2	2	5	2					6	137
インフルエンザ B	22	88	10	19	16	12	7	3				2			1	17	87
R S	1	14					1	1	1	3	3	1				1	11
ヒトメタニューモ	1						1		1								2
ヒトボカ							1										1
コクサッキー A2		6															
コクサッキー A4		6															
コクサッキー A5	2	3															
コクサッキー A6	8	13	1			1	4	5	11	5	2	1					30
コクサッキー A9										2	1	2	1		1		7
コクサッキー A10	1											1					1
コクサッキー A16	8	3															
コクサッキー B2													1				1
コクサッキー B3		2									1						1
コクサッキー B4		1									1						1
コクサッキー B5		4															
エコー 6		1															
エコー 9	1																
エコー 16	1																
エンテロ D68	1																
エンテロ A71											1		2		2		5
パレコ 1	1	1							1			1			1		3
パレコ 3	2																
ライノ		3					3	3	1	2							9
ムンプス	2	18			1	1									1		3
麻疹		3			1								1				2
風疹		1															
アデノ 1		2															
アデノ 2	1	4						1								1	2
アデノ 3	4	2		1				1	1						3	3	9
アデノ 4	1	3	1					2									3
アデノ 5										1							1
アデノ 31	1																
アデノ 37	1	1															
アデノ 53		4															
アデノ 56		1															
アデノ 64							1										1
アデノ（型未決定）		2															
単純ヘルペス 1		2				1			1	1						1	4
単純ヘルペス 2		1											1				1
水痘・帯状疱疹		9		1	1	2	3	1	1				4	2	1		16
E B	1					1	1	2	1	1					1		7
サイトメガロ	2	2						1	1	1		1			2		6
ヒトヘルペス 6		6			1	3	1	3				1	1	5	1		16
ヒトヘルペス 7	6	14			1		1	3	1	1			2	2	1		12
バルボウイルス B19	1	4									1	1					2
A型肝炎	1	2						1	1			2					4
ロタ	22	4		2	8	4	5	2									21
ノロ	44	37	1		2		2	1				1				1	8
アストロ		1					1										1
デング	1	5	2				1					1					4
ジカ		1															
リケッチア ジャポニカ									1								1
リケッチア ティフィ		1															
計	206	454	85	58	41	29	40	32	24	22	25	18	28	54			456

3-5 相模原市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	デング熱	急性脳炎	麻疹※	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09								12		12
インフルエンザ AH3								56		56
インフルエンザ B								61		61
コクサッキー A6						5	2			7
コクサッキー A16						3				3
エンテロ A71					1	6	1			8
麻疹			1							1
アデノ 1									1	1
アデノ 2				1	1					2
アデノ 3				7					2	9
アデノ 4									1	1
アデノ 41		1			1					2
アデノ 56									1	1
アデノ 64									1	1
ノロ					26					26
サポ					1					1
デング	2									2
ジカ	1									1
計	3	1	1	8	30	14	3	129	6	195

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-5 相模原市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 27年	平成 28年	平成29年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09		6					1				1		2	8	12
インフルエンザ AH3	5	37	21	14	6	3		1		1	2		3	5	56
インフルエンザ B	7	11	4	13	14	10	1					4	3	12	61
コクサッキー A2	1														
コクサッキー A4		5													
コクサッキー A5		5													
コクサッキー A6		1						2	3	1	1				7
コクサッキー A9	1														
コクサッキー A16		1								1		2			3
エコー 3		2													
エンテロ A71							1	3	1	1	1		1		8
麻疹		3				1									1
アデノ 1	2						1								1
アデノ 2	2	4			1			1							2
アデノ 3		1					3	1	1	1	1		2		9
アデノ 4	1		1												1
アデノ 8	1														
アデノ 41						1					1				2
アデノ 40/41	3	4													
アデノ 54		7													
アデノ 56	1													1	1
アデノ 64					1										1
ロタ		1													
ノロ	130	46		2	1	7	1	3	2		2			8	26
サボ	7	2	1												1
アストロ		1													
デング		1								1		1			2
ジカ										1					1
計	161	138	27	29	23	22	8	11	8	6	9	7	11	34	195

3-6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09	26			26
インフルエンザ AH3	28			28
インフルエンザ B	35			35
アデノ 37		1		1
ノロ			26	26
計	89	1	26	116

3-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 検出ウイルス	平成27年	平成28年	平成29年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09	2	57		1									8	17	26
インフルエンザ AH3	63	18	20	2	3	1						1		1	28
インフルエンザ B	18	28	2	4	11	10	1							7	35
アデノ 3	1														
アデノ 19	1	1													
アデノ 37		1							1						1
アデノ 40/41		1													
アデノ 54		3													
ノロ	53	66				17		1			1			7	26
デング	2	2													
計	140	177	22	7	14	28	1	1	1		1	1	8	32	116

3-7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性胃腸炎	合計
ロタ	2	2
ノロ	27	27
計	29	29

3-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成27年	平成28年	平成29年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
ロタ		2	2													2
ノロ	76	56	2	1	7	1	2		2		2	3		7		27
サポ	5															
計	81	58	4	1	7	1	2		2		2	3		7		29

4 病原細菌検出状況表（ヒト由来）

4-1 神奈川全県（月別）

年・月 菌種・菌型	平成27年		平成28年		平成29年												合計													
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者												
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者								
腸管出血性大腸菌(EHEC)	207	5	238	3	6	1		4	1		4	24	47	106	50	17	12	17	287	2										
毒素原性大腸菌(ETEC)	21	3	12	4									1	1	8	4	1		11	5										
病原血清型大腸菌(EPEC)	4		10								3	1		3		1		1	14											
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	3		5	3	2		2	2	2									1	7	2										
他の下痢原性 E.coli	26		51			1	9	2	2	2	2	4	1	4	4	1	1	31												
エシェリヒア アルバーティ			78																											
チフス菌	1	1	3	3	1	1			1	1								1	1	3	3									
バラチフス A菌	12	12								1	1		1	1				1	1	2	2									
サルモネラ 04群	60	3	30	1	4					1	2	4	1	15	1	1	1	1	30	4										
サルモネラ 07群	24	5	7	1			2			1		1		5					9											
サルモネラ 08群	8	2	10	1															1											
サルモネラ 09群	20	5	42	2						1	1							1	9	1										
サルモネラ 03,10群	1		4	2							1								1											
サルモネラ 01,3,19群	1	1																												
サルモネラ 013群			1																											
コレラ菌 01	1	1																												
コレラ菌 non-01 & 0139			1	1																										
腸炎ブドウ球菌	1		10																											
エロモナス ハイドロフィラ	1		1											1					1											
エロモナス ソブリア													1						1											
カンピロバクター ジェジュニ	138		166		6	7	6	6	8	20	11		5	11	13	2	3	98												
カンピロバクター コリ	5		7						1	1	2				2			2	8											
カンピロバクター ジェジュニ/コリ							1				1	1							3											
黄色ブドウ球菌	111		48		2		6	8	2	4	3	6	7	1	1	1	1	41												
A型ウエルシュ菌	22		48											2	1		1	4												
ボツリヌス菌			2																											
破傷風菌	1																													
炭疽菌	1																													
セレウス菌	2		5											6				6												
赤痢菌フレキシネル			1	1							1	1						1	1											
赤痢菌ソンネ	10	4	3	3	1	1		1			3	2		3	3	2	2	1	1	11	9									
レンサ球菌A群	200	1	175		10	21	23	20	30	24	16	6	6	12	27	22		217												
レンサ球菌B群	3		4		2	1				1		3	3				1	11												
レンサ球菌C群	1																													
レンサ球菌G群	7		15		1	2		1	1		1	1	1	2	2	1		12												
肺炎球菌	102		96		7	8	9	11	9	7	4	7	2	2	6	9		81												
エンテロコッカス フェーカリス	2		1																											
エンテロコッカス フェジウム	49		150		6	2	4	3	2	1	1		4	3			26													
百日咳菌	4		5			2						2	1				5													
レジオネラ属菌			1									1					1													
レジオネラ ニューモフィラ	26		30		2		2	1	1	2		3	4	6	2	2	25													
緑膿菌	53										1						1													
結核菌	177		244		1	34	10	20	8	22	7		34	24	11	1	172													
インフルエンザ菌	17		12		3	1		2	4	1	2	1		1			18													
髄膜炎菌	2		2								11		1				12													
淋菌	1		1																											
クラミジア トラコマチス			6																											
マイコプラズマ ニューモニエ	49		49		1	2			6	2	3	2		2			18													
クリプトコッカス	1		3				1										1													
その他の原虫・寄生虫	1										2		1				3													
その他の細菌			2		6	3	5	1	6	5	6	5		1		4	42													
計	1375	43	1579	25	61	3	88	2	85	1	77	2	90	1	124	1	135	5	174	5	154	3	96	3	66	2	74	1	1224	29

4-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成27年		平成28年		平成29年												合計					
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12						
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	
腸管出血性大腸菌(EHEC)	15		37							10	17	4	1			1				33		
毒素原性大腸菌(ETEC)			2									1								1	2	
病原血清型大腸菌(EPEC)			2								1										1	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	2		2																	1	1	
他の下痢原性 E.coli	22		18							1		1			1	1				4		
サルモネラ 04群	6		3																			
サルモネラ 07群	5		1											3							3	
サルモネラ 08群	1		1																			
サルモネラ 013群			1																			
エロモナス ハイドロフィラ	1		1										1								1	
エロモナス ソブリア												1									1	
カンピロバクター ジェジュニ	21		55				1		1	1	1			2						6		
カンピロバクター コリ	1		2																			
黄色ブドウ球菌	7		4																			
A型ウエルシュ菌	10		11																			
炭疽菌	1																					
赤痢菌ゾンネ											1										1	
レンサ球菌A群	125		95		5	12	17	13	19	14	11	3	2	7	18	8					129	
肺炎球菌			4																			
百日咳菌			2									1									1	
レジオネラ属菌			1									1									1	
レジオネラ ニューモフィラ	16		12		1			1	1						2						5	
マイコプラズマ ニューモニエ	49		49		1	2			6	2	3	2		2							18	
その他の細菌			1																			
計	282		303		7	14	17	15	27	28	34	14	9	12	20	10					207	

4-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成27年		平成28年		平成29年												合計										
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12											
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者						
腸管出血性大腸菌(EHEC)	137	5	112	3	6	1		3	1		3	11	18	86	41	10		7		13	198	2					
毒素原性大腸菌(ETEC)	4	3	6	4									1	1	7	4						8	5				
病原血清型大腸菌(EPEC)			1								3											3					
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	1		3	3	1		2	2	1													4	2				
チフス菌	1	1	2	2				1	1													1	1				
パラチフス A菌	12	12																									
サルモネラ 04群	45	3	23	1	4					1	2	3	1	15	1	1		1	1	1		28	4				
サルモネラ 07群	17	5	5	1			1			1		1										3					
サルモネラ 08群	6	2	5	1													1					1					
サルモネラ 09群	19	5	5	2			1	1			4			3								8	1				
サルモネラ 03,10群	1		4	2									1									1					
サルモネラ 01,3,19群	1	1																									
コレラ菌 01	1	1																									
コレラ菌 non-01 & 0139			1	1																							
腸炎ビブリオ			8																								
カンピロバクター ジェジュニ	72		60		2		4	1	4	15	7	3	4	5	1		2				48						
カンピロバクター コリ			1						1	1						1						3					
黄色ブドウ球菌	81		13				1	1	2	3	1	1					1					10					
A型ウエルシュ菌	10		2																								
ボツリヌス菌			2																								
セレウス菌	1																										
赤痢菌ゾンネ	6	4	3	3				1				2	2	2	2		1	1				6	5				
レンサ球菌A群	55	1	46				4	4	3	4	5	3	2	3	2	2	4		5			39					
レンサ球菌B群	3		3		2		1				1		3	3								10					
レンサ球菌G群	5		13		2		2		1	1		1	1	2		2		1				11					
肺炎球菌	102		47		2			8	4	1	1	4				3		4				28					
エンテロコッカス フェーカリス	1		1																								
エンテロコッカス フェシウム	2		25					1	3					4		1						9					
百日咳菌	4		3				2						1	1								4					
レジオネラ ニューモフィラ	9		8		1						2		3	4		4						14					
緑膿菌	53																										
結核菌	177		244		1		34	10	20	8	22	7		34	24	11		1			172						
インフルエンザ菌	13		9				1		2			1	1		1						3	10					
髄膜炎菌	2		2																								
クリプトコッカス	1		1					1														1					
計	842	43	658	23	19	1	47	2	27	1	40	2	34	67	46	4	127	5	101	2	52	1	31	2	29	620	20

4-4 川崎市健康安全研究所 (月別)

年・月 菌種・菌型	平成27年		平成28年		平成29年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	44		59				1			1	2	7	15	5	3	2	4	40	
毒素原性大腸菌(ETEC)			2																
病原血清型大腸菌(EPEC)			5							1	2			1			1	5	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)				1		1												2	
他の下痢原性 E.coli			30			1	9	2	2	2	1	4		4	2		1	26	
バラチフス A菌									1	1		1	1					2	2
サルモネラ 04群			4								1							1	
サルモネラ 07群			1																
サルモネラ 08群	1		2																
サルモネラ 09群	1																		
腸炎ビブリオ			1																
カンピロバクター ジェジュニ	35		22	3	7	2	4		4	3	1	4	4				32		
カンピロバクター コリ	3		4							2				1			3		
黄色ブドウ球菌	11		21	2		5	5		1	2		5	7				27		
A型ウエルシュ菌	1		24										1	1			2		
破傷風菌	1																		
セレウス菌			3										6				6		
赤痢菌フレキシネル			1	1						1	1						1	1	
赤痢菌ソクネ	4			1	1								1	1			2	2	
レンサ球菌A群	15		22	4	4		3	4	3	1	1	1	3	4		7	35		
レンサ球菌B群			1													1	1		
レンサ球菌C群	1																		
レンサ球菌G群	2		2	1													1		
肺炎球菌			45	5	7	9	3	5	6	3	3	2	2	3	5	5	53		
レジオネラ ニューモフィラ	1		9												2	2	4		
インフルエンザ菌	4		3	3			1	2	1	1							8		
髄膜炎菌													1				1		
クリプトコッカス			2																
その他の原虫・寄生虫										2							2		
その他の細菌				4	3	5	1	6	5	6	5		1		4	4	40		
計	124		263	1	24	1	22	32	19	21	1	25	1	35	1	30	294	5	

4-5 相模原市衛生研究所 (月別)

年・月 菌種・菌型	平成27年		平成28年		平成29年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	6		16							1	2		1	1	2		8	
毒素原性大腸菌(ETEC)	17		2										1				1	
病原血清型大腸菌(EPEC)													1	1			2	
他の下痢原性 E.coli	3													1			1	
チフス菌			1	1	1	1											1	1
サルモネラ 04群	8																	
サルモネラ 07群													2				2	
サルモネラ 09群			37															
腸炎ビブリオ	1																	
カンピロバクター ジェジュニ	6		16					3				1	1	4			9	
黄色ブドウ球菌	3		1											1			1	
A型ウエルシュ菌			4															
セレウス菌			2															
レンサ球菌A群	5		12	1	1	2	1	3	2	1					1	2	14	
レジオネラ ニューモフィラ						2											2	
その他の原虫・寄生虫	1												1				1	
計	50		91	1	2	1	1	4	1	6	3	3	2	7	8	3	42	1

4-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 菌種・菌型	平成29年														合計		
	平成27年	平成28年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		総数	うち海外渡航者
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1	2								3		2					5
病原血清型大腸菌(EPEC)	4	2										1					1
エシェリヒア アルバーティー		78															
チフス菌															1	1	1
サルモネラ 04群	1															1	1
サルモネラ 07群	1	1			1												1
サルモネラ 08群		2															
サルモネラ 09群															1		1
カンピロバクター ジェジュニ		4															
カンピロバクター ジェジュニ/コリ					1					1	1						3
黄色ブドウ球菌	6	7				2											2
A型ウエルシュ菌		1										1					1
セレウス菌	1																
赤痢菌ゾンネ													2	2			2
エンテロコッカス フェーカリス	1																
エンテロコッカス フェシウム	47	125	6	2	3			2	1	1			2				17
レジオネラ ニューモフィラ		1															
緑膿菌										1							1
髄膜炎菌										11							11
淋菌		1															
クラミジア トラコマチス		6															
その他の細菌		1	2														2
計	62	231	8	2	5	2	2	1	1	17	1	4	4	2	3	1	49

4-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成29年														合計		
	平成27年	平成28年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		総数	うち海外渡航者
腸管出血性大腸菌(EHEC)	4	12										3					3
病原血清型大腸菌(EPEC)				2													2
他の下痢原性 E.coli	1	3															
腸炎ビブリオ		1															
カンピロバクター ジェジュニ	4	9	1														3
カンピロバクター コリ	1															2	2
黄色ブドウ球菌	3	2														1	1
A型ウエルシュ菌	1	6														1	1
計	15	33	1	2									3	1	5		12

II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) ウイルス検査状況（発生動向調査）

ア 5類感染症（定点把握疾患）

(ア) インフルエンザ

神奈川県全体のインフルエンザの報告数について、平成 29 年は第 4 週に流行のピークがみられ、年齢別では 10 歳から 14 歳に報告が多かった。

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

昨シーズン（2016/2017 シーズン、2016 年 36 週～2017 年 35 週）の横浜市・川崎市及び相模原市を除く神奈川県域（以下、県域）におけるインフルエンザ患者報告数は、2017 年 4 月以降も少ないながら報告が続いていたが、19 週（5/8～14）に定点あたり 1.0 人を下回り、流行は終息した。本シーズン（2017/2018 シーズン、2017 年 36 週～2018 年 35 週）は、2017 年 47 週（11/20～26）に流行開始の目安となる定点あたり 1.0 人を超え、流行期に入った。11 月中の流行期入りは、前シーズン（2016 年 46 週に流行期入り）に引き続いてのことである。その後、報告数は増加し、2018 年 5 週（1/29～2/4）のピーク時には定点あたり 66.36 人となった。10 週（3/5～11）には注意報レベルである 10.0 人を、14 週（4/2～8）に流行期の目安である 1.0 人を下回って、本シーズンの流行は終息した。2017 年 47 週から 2018 年 13 週までの患者報告数は 44,687 人で、AH1pdm09 が季節性インフルエンザになった 2011/2012 シーズン以降では最も多い患者数となった。

感染症発生動向調査病原体定点（藤沢市および茅ヶ崎市からの一般依頼を含む）からの依頼検体 501 例についてウイルス分離または遺伝子検査を実施した。2017 年 4 月～8 月には 51 例中 23 例から B 型（ビクトリア系統）が、12 例から A 香港(H3)型が、9 例から B 型(山形系統)が、6 例から AH1pdm09 が検出された。9 月～12 月には 107 例中 67 例から AH1pdm09 が、22 例から B 型(山形系統)が、15 例から A 香港(H3)型が検出された。2018 年 1 月～3 月には 343 例中 181 例から B 型(山形系統)が、112 例から A 香港(H3)型が、28 例から AH1pdm09 が検出され、3 例から B 型(ビクトリア系統)が検出され、3 月以降は A 香港(H3)型の検出数が増加した。

基幹定点医療機関等にインフルエンザで入院した患者（入院サーベイランス）検体 29 例について、インフルエンザウイルスの遺伝子検出とウイルス分離を実施した。2017 年 9 月に採取された 1 例からは AH1pdm09 が、11 月～12 月に採取された 4 例中 2 例から AH1pdm09 が、1 例から A 香港(H3)型が検出された。2018 年 1 月～3 月採取された 22 例中 10 例から B 型(山形系統)が、6 例から A 香港(H3)型が、4 例から AH1pdm09 が検出された。

集団かぜ調査は、県域各保健所と藤沢市および茅ヶ崎市保健所管内の学校等のシーズン初発事例 1 集団ずつを対象としており、本シーズンは 10 集団についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。2017 年 10 月に発生した 2 集団の集団かぜからは、A 香港(H3)型が検出された。その後、11 月に 4 集団、12 月に 2 集団、2018 年 1 月に 2 集団の検査を行い、そのうちの 4 集団から AH1pdm09、3 集団から B 型(山形系統)、1 集団から A 香港(H3)型が検出された。（図 1）

2017 年 9 月から 2018 年 3 月までに検出されたウイルスの内訳は、B 型(山形系統)が 220 例（45.7%）で最も多く、次いで A 香港(H3)型が 142 例（29.5%）、AH1pdm09 が 114 例（23.7%）、B 型(ビクトリア系統)が 3 例（0.6%）、A 香港(H3)型と B 型(山形系統)の同時検出が 2 例（0.4%）であった。本

シーズンはB型(山形系統)が主流行株となり、A香港(H3)型とAH1pdm09も交えた混合流行となった。

2013年3月に中国において鳥インフルエンザA(H7N9)に対するヒトでの発症、流行事例が報告されたことに伴い、A(H7N9)疑い症例について通年で検査対応を行っているが、本シーズンは、検査依頼が無かった。

インフルエンザは、日本においては非流行期であっても海外では流行している場合も多く、通年での監視が必要な疾患の一つである。また、鳥インフルエンザについては、A(H7N9)のほかにもA(H5)やA(H9)等による鳥類での流行が報告されている地域では、ヒトでの感染事例が現在も断続的に報告されており、季節性インフルエンザとともに鳥インフルエンザについても動向を監視していく必要がある。

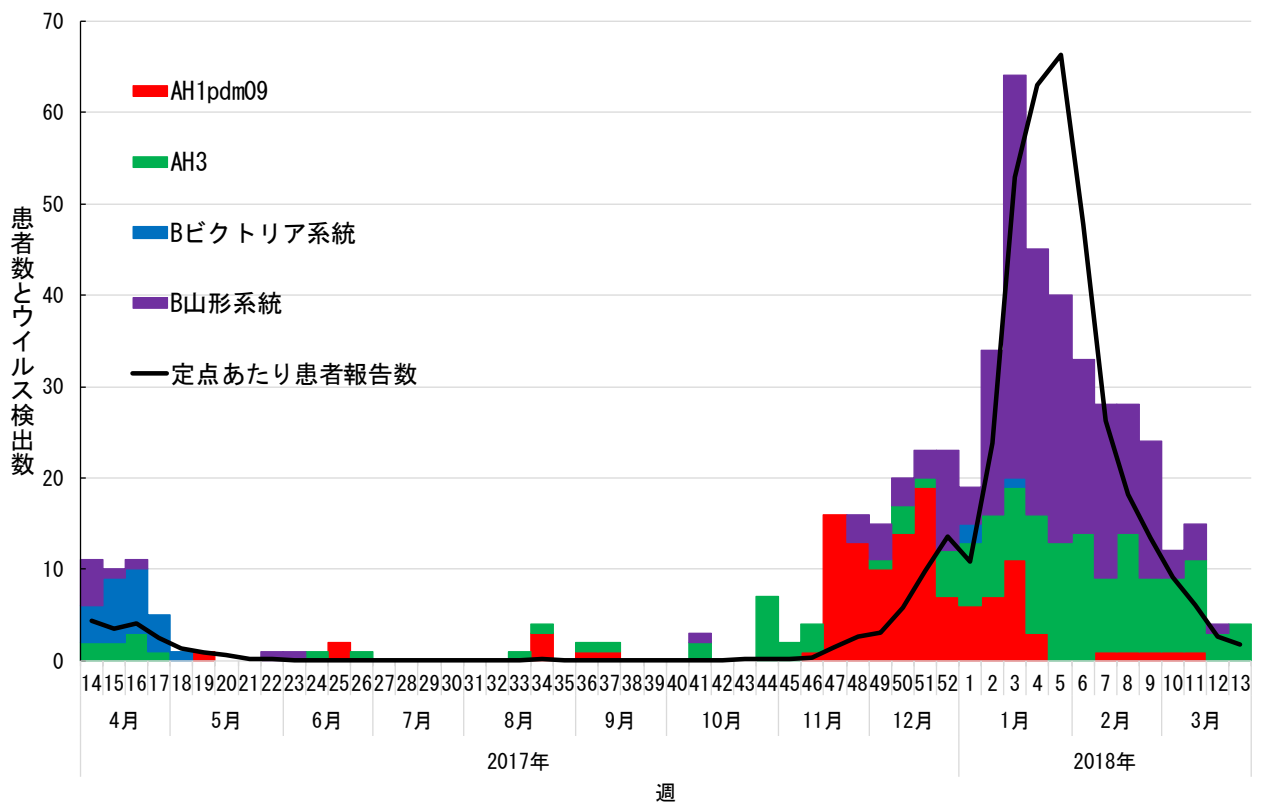


図 インフルエンザ患者報告数とウイルス検出数の推移

(渡邊寿美、嘉手苺将、佐野貴子、近藤真規子、黒木俊郎)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市感染症発生動向調査による2017年6月（第23週）から2018年3月（第13週）までのインフルエンザ様疾患患者数は58,114人であり、昨シーズン同期間における44,504人を上回った。定点あたり患者数は11月（第46週）に流行の目安となる1.0人を超え、1月（第5週）に67.58人と最大の報告数となったが、その後は3月（第13週）には定点あたり1.6人まで減少した（図1）。

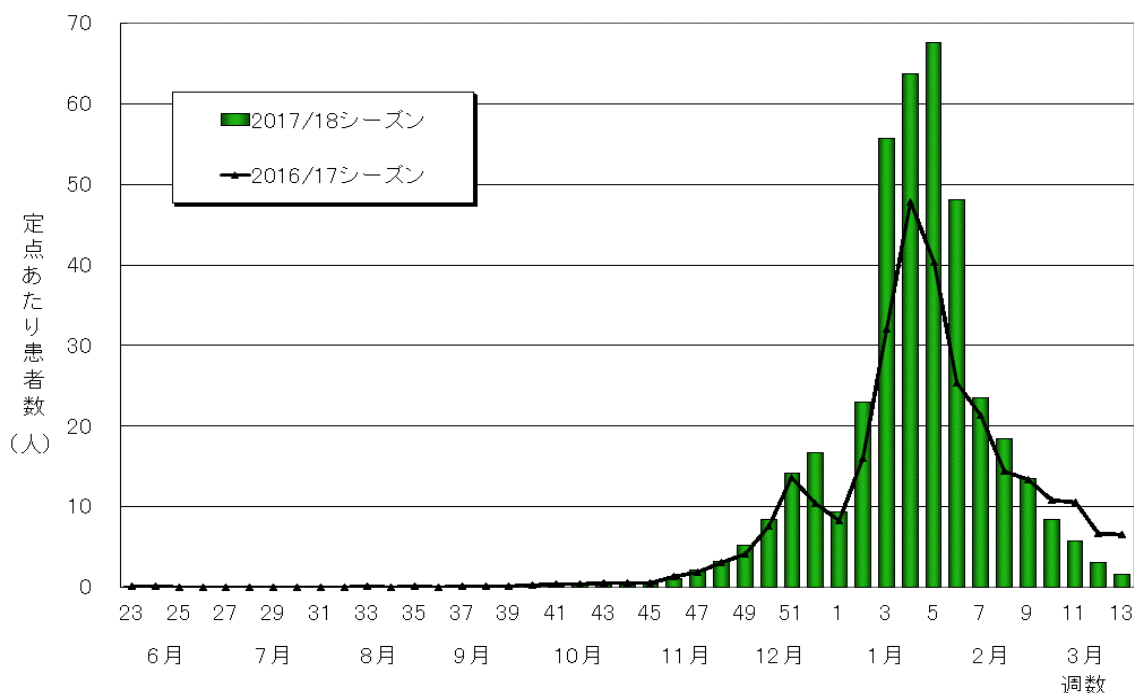


図1 横浜市におけるインフルエンザ患者報告数とウイルス検出数の推移

表1 インフルエンザのウイルス分離および遺伝子検査結果（2017年6月～2018年3月）

	インフルエンザ 検査実施	陽性数	AH1pdm09	A香港 (H3)型	B型 (山形系統)	B型 (ビクトリア 系統)
集団かぜ調査	73	67	47	0	20	0
病原体定点調査	593	227	51*	68	108*	0
入院・重症 サーベイランス	48	11	5*	3*	3	0
その他の依頼	18	4	2	0	2*	0
合計	732	309	105	71	133	0

*昨シーズン（2017年6月から8月まで）に分離検出したAH1pdm09ウイルス3件、A香港(H3)型2件、B型（山形系統）3件を含む。

2017年6月（第23週）から2018年3月（第13週）までの検査数と分離・検出数を表1に示す。全調査の合計は732件で、AH1pdm09ウイルス105件、A香港（H3）型ウイルス71件およびB型（山形系統）ウイルス133件が分離・検出された。このうち、同一検体において、B型ウイルス（山形系統）が分離されるとともにA香港（H3）型ウイルスの遺伝子が検出された事例ならびにAH1pdm09ウイルスおよびB型ウイルス（山形系統）の両方が分離された事例がそれぞれ1件ずつあった。

集団発生を監視する集団かぜ調査（インフルエンザ施設別発生状況調査）として、市内各18区でインフルエンザ様疾患により学級閉鎖を行った初発事例について調査を実施した。今シーズンは2017年9月13日（第37週）に瀬谷区の小学校から初報告があり、B型ウイルス（山形系統）が分離・検出された。その後、発生報告が増加し12月までに18区中17区で発生がみられた。検査依頼のあった18集団73人についてウイルス学的調査を実施し、AH1pdm09ウイルス47件およびB型ウイルス（山形系統）20件が分離・検出された（表2）。

表2 集団かぜ調査の結果

検体採取年月日	週	区	施設	〈ウイルス分離・検出〉			
				検体数	分離・検出数	総合判定	
2017年	9.13	37	瀬谷	小学校	3	3	B型(山形系統)
	10.2	40	緑	小学校	4	4	B型(山形系統)
	10.24	43	磯子	小学校	3	2	B型(山形系統)
	11.13	46	南	小学校	5	5	AH1pdm09
	11.20	47	鶴見	小学校	3	2	AH1pdm09
	11.21	47	港南	小学校	5	3	AH1pdm09
	11.21	47	港北	小学校	5	5	AH1pdm09
	11.22	48	神奈川	小学校	5	5	AH1pdm09
	11.28	48	都筑	小学校	4	4	AH1pdm09
	12.4	49	金沢	小学校	4	4	B型(山形系統)
	12.5	49	青葉	小学校	5	4	AH1pdm09
	12.5	49	西	小学校	3	3	AH1pdm09
	12.8	49	旭	小学校	5	5	AH1pdm09
	12.11	50	栄	小学校	3	3	AH1pdm09
	12.11	50	保土ヶ谷	小学校	3	3	B型(山形系統)
12.14	50	戸塚	小学校	5	5	AH1pdm09	
12.20	51	泉	小学校	4	3	AH1pdm09	
2018年	1.16	3	中	小学校	4	4	B型(山形系統)
合計			18区	18施設	73件	67件	AH1pdm09:47件 B型(山形系統):20件

入院・重症サーベイランスにおいて、2017年6月（第23週）から2018年3月（第13週）までにインフルエンザを疑う48件を検査し、AH1pdm09ウイルス5件、A香港（H3）型ウイルス3件およびB型ウイルス（山形系統）3件が分離・検出された。このうち重症例として、脳症3件からAH1pdm09ウイルス1件およびB型ウイルス（山形系統）2件が、肺炎1件からAH1pdm09ウイルスがそれぞれ分離・検出された。

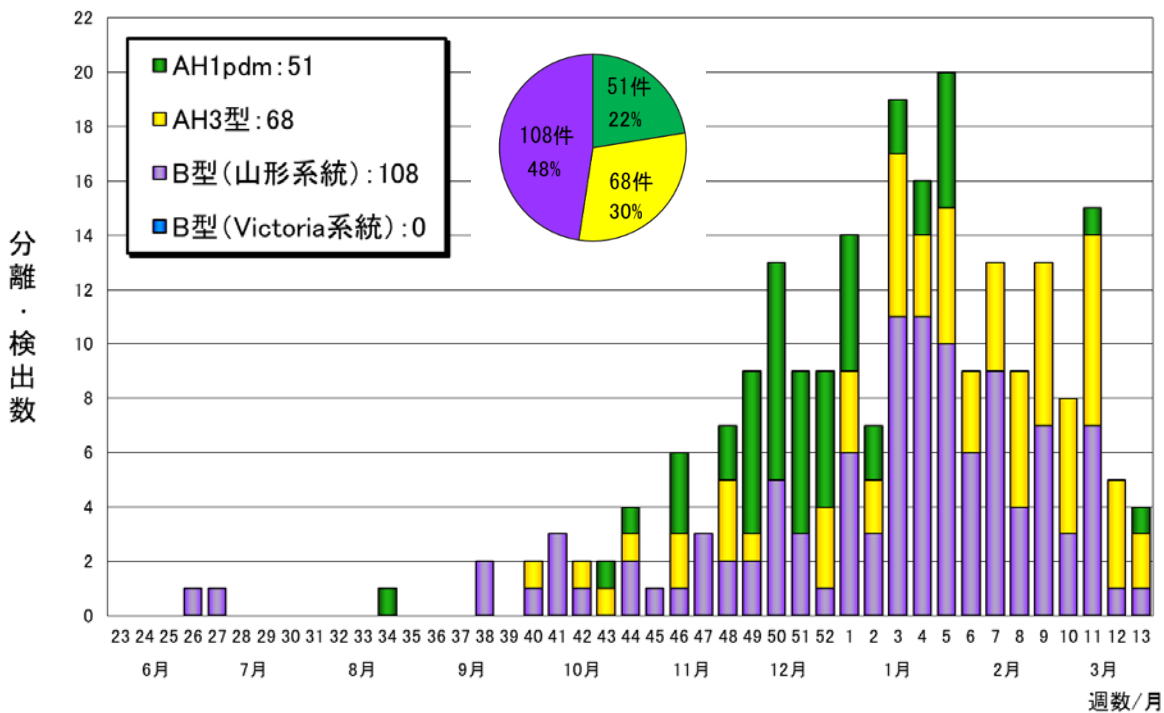


図2 病原体定点分離・検出状況

病原体定点ウイルス調査において、593件（鼻咽頭検体 549件、便由来検体 20件、唾液検体 4件、うがい液検体 2件、不明 18件）を検査し、AH1pdm09 ウイルス 51件、A 香港（H3）型ウイルス 68件、B 型ウイルス（山形系統）108件が分離・検出された。今シーズン（2017年第36週以降）は、9月第38週に瀬谷区の小児科定点からB型ウイルス（山形系統）が、翌10月第40週には港北区の内科定点からA 香港（H3）型ウイルスが、10月第43週には青葉区の小児科定点からAH1pdm09 ウイルスがはじめて検出された。ウイルス検出数の比率は AH1pdm09 が 22%、A 香港（H3）型が 30%、B 型（山形系統）が 48%であったが、昨シーズンに流行したB型（ビクトリア系統）は検出されなかった。

分離したウイルスの HI 試験において、ワクチン株の抗血清がこれまでのフェレット感染血清からウサギ免疫血清に変更になったため、ワクチン株と分離株の HI 価の差で類似性を正確に比較することができなくなった。従来の HI 試験結果をまとめたが、いずれも参考値である。

今シーズンに分離したウイルスの抗原性状については、A 香港（H3）型ウイルスはワクチン株である A/香港/4801/2014 との中和試験で 67 株中 62 株に 8 倍以上の反応性低下の傾向がみられた。一方で、AH1pdm09 ウイルスはワクチン株である A/シンガポール/GP1908/2015 と HI 試験で同等～4 倍差であり、ワクチン株と類似の傾向がみられた。また、B 型ウイルス（山形系統）はワクチン株である B/プーケット/3073/2013 と HI 試験で 4 倍以内の反応性を示すものが多く、大きな変異はみられなかった。（図 3）。

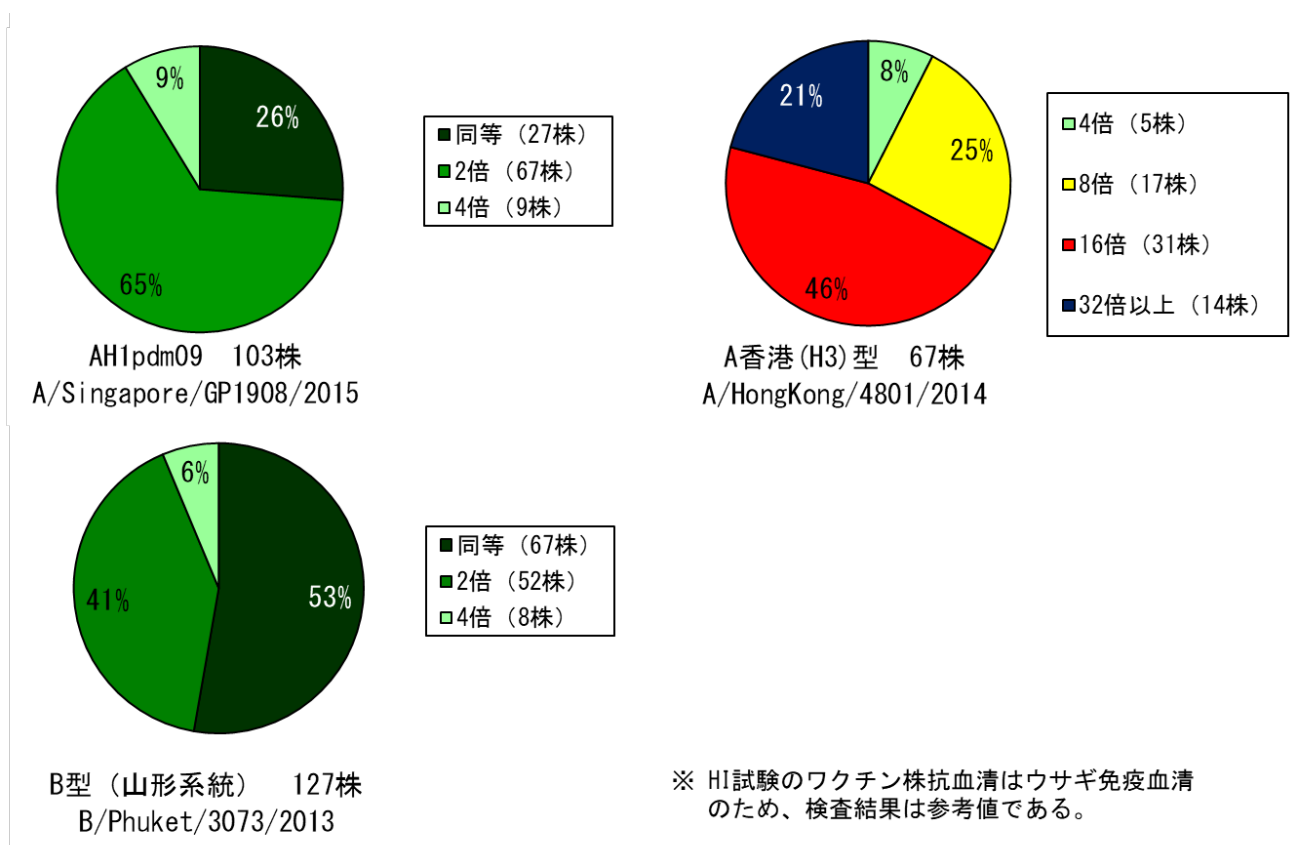


図3 2017/2018 シーズン分離株の抗原性状

以上のように、横浜市におけるインフルエンザの流行はAH1pdm09 ウイルス、A 香港 (H3) 型ウイルスおよびB 型 (山形系統) ウイルスが混合した流行であった。病原体定点ウイルス調査では、シーズンを通してB 型ウイルス(山形系統)が分離・検出された一方で、A 型ウイルスは2018 年第1 週までAH1pdm09 ウイルスがA 香港 (H3) 型ウイルスに比べて多く分離・検出され、その後は逆転し、A 香港 (H3) 型ウイルスが多く分離・検出される傾向があった。また、参考値ではあるものの、従来のHI 試験の結果、A 香港 (H3) 型ウイルスは67 株中62 株(92.5%)が変異株であり、AH1pdm09 ウイルスおよびB 型ウイルス(山形系統)は、ワクチン株と類似した性状であった。

(清水耕平、小澤広規、川上千春、百木智子、七種美和子、宇宿秀三、笹尾忠由)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況(図 1)によると、定点あたりの患者数が 1.0 人を超えたのが 11 月の第 3 週(第 46 週)で、昨シーズン(2016/2017 シーズン)と同様の週であった。その後患者数は急増し、2 月の第 1 週(第 5 週)に定点あたりの患者数が 62.43 人とピークを迎えた。定点あたりの患者数が 60 人を超えたのは、集計を開始した 1999 年度以降で初めてのことである。その後、2 月の第 2 週(第 5 週)から急速に患者数は減少し、2 月の第 3 週(第 7 週)に警報レベル(30 人以上)、3 月の第 2 週(10 週)に注意報レベル(10 人以上)を下回った。

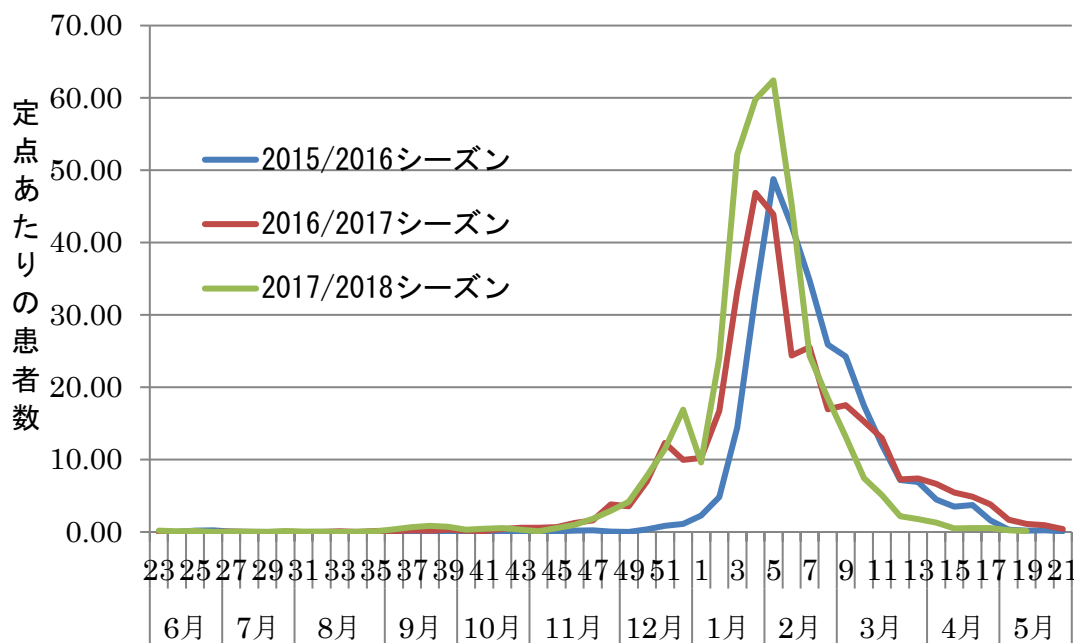


図 1 川崎市のインフルエンザ患者報告数とウイルス検出数の推移

インフルエンザウイルス分離状況

2017/2018 シーズンは、インフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が合計 264 例搬入され、そのうちリアルタイム PCR ならびにウイルス分離培養で 238 例(90.2%)がインフルエンザウイルス陽性であった。血清型別では、AH1pdm09 が 63 例、A 香港 (AH3) 型が 64 例、B 型 (ビクトリア系統) が 3 例、B 型 (山形系統) が 105 例、B 型 (型別不明) が 3 例であった。

週別のインフルエンザウイルス分離状況(図 2)では、初めてウイルスが検出されたのは 9 月の第 1 週(36 週)で、12 月の第 2 週(49 週)までは AH1pdm09 が多く検出された。検出数が増加したのは 12 月の第 3 週(51 週)からで、AH1pdm09 に加えて B 型 (山形系統) がほぼ同数検出された。検出数のピークは 1 月の第 4 週(4 週)で AH1pdm09 が 8 例、A 香港 (AH3) 型 4 例、B 型 (山形系統) が 15 例検出され、3 つの型が同時期に流行したため、ピーク時の定点あたりの患者数が多くなったものと推察される。

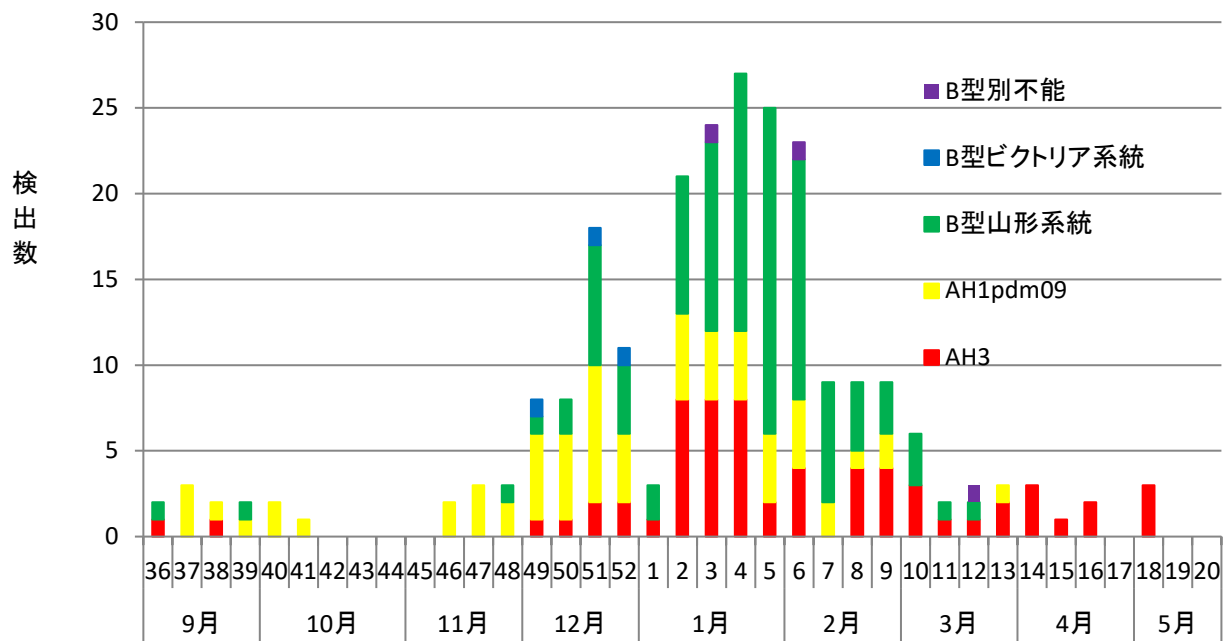


図2 川崎市の週別インフルエンザウイルス検出状況

(駒根綾子、清水英明)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月において、感染症発生動向調査のインフルエンザ定点及びインフルエンザ集団感染初発施設から合計 133 例が搬入され、リアルタイム RT-PCR ならびにウイルス分離培養を実施したところ、129 例 (97.0%) がインフルエンザウイルス陽性であった。血清型別では、A 香港 (H3) 型が 56 例と最も多く、B 型 (ビクトリア系統) が 36 例、B 型 (山形系統) が 23 例、AH1pdm09 が 12 例、B 型 (系統不明) が 2 例であった。(表 1)

月別の検出状況では、2016/2017 シーズンの 1 月に AH3 が多く検出されたが、シーズン後半になると B 型 (ビクトリア系統) の割合が増加した。2017/2018 シーズンに入ると、AH1pdm09 及び B 型 (山形系統) の割合が増加した。(図)

集団かぜ調査としては、市内初発の学級閉鎖実施施設に対し調査を実施しており、平成 29 年度は平成 29 年 11 月に検体搬入があり、B 型 (山形系統) が検出された。

表 相模原市のインフルエンザウイルスの検出状況

	検体数	陽性数	AH1pdm09	AH3	B 型 (山形系統)	B 型 (ビクトリア 系統)	B 型 (系統不明)
集団かぜ調査	3	3	0	0	1	0	2
病原体定点調査	130	126	12	56	22	36	0
合計	133	129	12	56	23	36	2

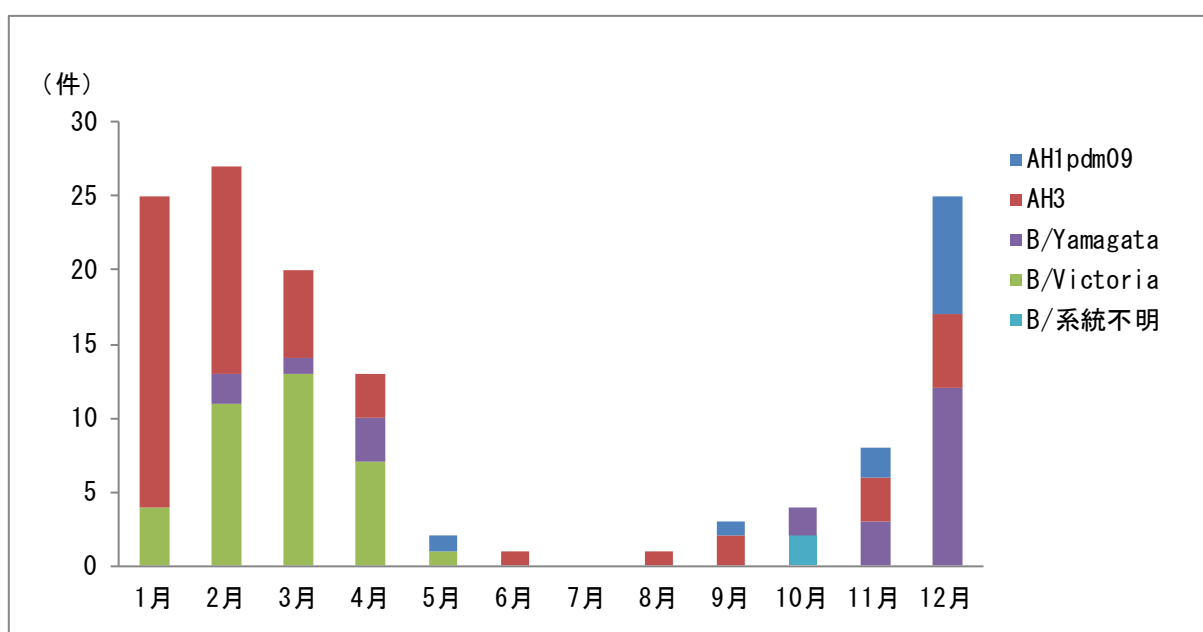


図 相模原市のインフルエンザウイルス月別検出状況

(高木尊大、荒川小夜子、金沢聡子)

(イ) ウイルス性感染性胃腸炎

a 感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検査状況

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

感染症予測監視事業の一環として、感染性胃腸炎の原因ウイルスを把握する目的で、神奈川県域（川崎市、横浜市、横須賀市、相模原市および藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体から原因ウイルスの検索を行った。検索対象ウイルスは、ノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、A群ロタウイルス、アデノウイルスおよびC群ロタウイルスとした。

検査の結果、65検体中38検体から43株の原因ウイルスが検出され、その内訳は、ノロウイルス19株、アデノウイルス10株、アストロウイルス7株、A群ロタウイルス6株、サポウイルス1株、であり、C群ロタウイルスは検出されなかった。

年齢別ウイルスの検出状況では、6歳以下、23歳～64歳、65歳以上の年齢層からノロウイルスが検出されていたが、ノロウイルス以外のウイルスは、6歳以下及び7歳～12歳の年齢群からの検出であった。複数ウイルスが検出された5例は6歳以下の年齢群であった。

月別ウイルスの検出状況は、1月以外のすべての月でウイルスが検出された。例年、ノロウイルスは、1月、2月、7月を除くほぼ通年で検出され、アデノウイルス、アストロウイルス、A群ロタウイルスの多くは春季に検出された。A群ロタウイルスは、2011年～2012年にワクチン接種が開始されてから減少傾向にあり、2015年には検出されなかったが、2016年は4株、2017年には6株と2年連続で増加している。

検出されたノロウイルスGⅡ19株について遺伝子型別を実施したところ、GⅡ.4が17株と最も多く、次いでGⅡ.2が2株であった。主要流行型は、2015年にはGⅡ.17であったが、2016年はGⅡ.2、2017年はGⅡ.4へ入れ替わっていた。

表1 年齢別ウイルス検出状況（平成29年1月～12月）

	検体数	陽性検体数	検出ウイルス						検出数
			ノロウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	C群ロタウイルス	
6歳以下	51	34 ¹⁾	17	1	6	5	10	0	39
7～12歳	4	2	0	0	1	1	0	0	2
13～22歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23～64歳	7	1	1	0	0	0	0	0	1
65歳以上	3	1	1	0	0	0	0	0	1
合計	65	38	19	1	7	6	10	0	43

1: 複数ウイルス検出 5例

(ノロウイルスGⅡ, アデノウイルス:2例)(ノロウイルスGⅡ, アストロウイルス)

(ノロウイルスGⅡ, A群ロタウイルス)(アストロウイルス, アデノウイルス)

表2 発病月別ウイルス検出状況

年 月	陽性数							検出数
	ノロウイルス		サポウイルス	アストロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	C群ロタウイルス	
	G I ¹⁾	G II ²⁾						
平成29年 1月	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	1	0	0	1
3月	0	2 ³⁾	0	0	2 ³⁾	0	0	4
4月	0	1 ³⁾	0	4	2	3	0	10
5月	0	0	0	3 ³⁾	1	3 ³⁾	0	7
6月	0	1	0	0	0	0	0	1
7月	0	0	1	0	0	1	0	2
8月	0	5	0	0	0	1	0	6
9月	0	2	0	0	0	0	0	2
10月	0	1	0	0	0	0	0	1
11月	0	5 ³⁾	0	0	0	1 ³⁾	0	6
12月	0	2 ³⁾	0	0	1	1 ³⁾	0	3
小計	0	19						
合計	19		1	7	6	10	0	43

1: genogroup I

2: genogroup II

3: 複数ウイルス検出例

(鈴木理恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎)

b 集団感染性胃腸炎事例からの原因ウイルス検査状況

平成 29 年のウイルス性集団胃腸炎の集団発生数は前年の 278 事例より大幅に減少し 100 事例であった。また、発生事例数の減少に伴い、検査件数、陽性数も減少した。

表 ウイルス性感染性胃腸炎集団発生状況

	平成27年				平成28年				平成29年			
	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)
横浜市	152	779	535	68.7	238	929	659	70.9	91	301	237	78.7
川崎市	14	79	42	53.2	10	58	41	70.7	1	2	2	100.0
相模原市	6	134	78	58.2	10	75	24	32.0	2	20	9	45.0
横須賀市	2	67	24	35.8	7	110	52	47.3	2	24	23	95.8
藤沢市	6	21	18	85.7	11	40	36	90.0	3	12	10	83.3
上記を除く神奈川県	2	32	26	81.3	2	6	5	83.3	1	3	3	100.0
計	182	1112	723	65.0	278	1218	817	67.1	100	362	284	78.5

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 1 事例あり、ノロウイルス G II.4 が検出された。ノロウイルス以外の集団発生は平成 21 年に C 群ロタウイルス、平成 22 年に A 群ロタウイルス（G 1）、平成 23 年には A 群ロタウイルス（G 3）による集団事例があったが、平成 29 年はノロウイルス以外の下痢症ウイルスを原因とした事例の発生はなかった。

表 ウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子型
1	H29.9	福祉施設	不明	3	3	ノロウイルス	G II.4

（鈴木理恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎）

② 横浜市 横浜市衛生研究所

平成 29 年における横浜市内で発生した感染症としての集団発生事例の取扱事例数は 91 事例であった。ノロウイルスが 64 事例から検出され、その遺伝子群は G II が 61 事例、G I が 3 事例であり、G II が大部分を占め全国の状況と一致していた。その他にロタウイルスが 20 事例、サポウイルスが 4 事例から検出され、さらにアデノウイルスとノロウイルスの混合事例が 1 事例、サポウイルスとノロウイルスの混合事例が 1 事例あった。なお、1 事例は各種下痢症ウイルス不検出で原因を特定できなかった。

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H29.1	高齢者施設	不明	4	3	ノロウイルス	GⅡ
2	H29.1	保育園	9	2	2	ノロウイルス	GⅡ
3	H29.1	小学校	11	2	2	ノロウイルス	GⅡ
4	H29.1	小学校	13	3	3	ノロウイルス	GⅡ
5	H29.1	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
6	H29.1	幼稚園	33	4	4	ロタウイルス	
7	H29.2	高齢者施設	不明	5	5	ノロウイルス	GⅡ
8	H29.2	小学校	16	2	1	ノロウイルス	GⅡ
9	H29.2	小学校	11	4	4	ロタウイルス	
10	H29.2	小学校	13	4	4	ノロウイルス	GⅡ
11	H29.2	保育園	14	3	3	ロタウイルス	
12	H29.3	保育園	28	3	3	ロタウイルス	
13	H29.3	小学校	10	4	4	サポウイルス、ノロウイルス	
14	H29.3	小学校	14	3	2	ロタウイルス	
15	H29.3	小学校	10	2	2	ロタウイルス	
16	H29.3	小学校	13	3	3	ノロウイルス	GⅠ
17	H29.3	幼稚園	42	8	3	ノロウイルス	GⅡ
18	H29.3	保育園	8	5	3	ロタウイルス	
19	H29.4	保育園	11	3	2	ノロウイルス	GⅡ
20	H29.4	保育園	31	2	1	ロタウイルス	
21	H29.4	小学校	不明	1	1	ロタウイルス	
22	H29.4	保育園	14	3	1	ロタウイルス	
23	H29.4	小学校	17	4	4	ロタウイルス	
24	H29.4	保育園	13	2	2	ロタウイルス	
25	H29.4	小学校	11	3	3	ロタウイルス	
26	H29.4	保育園	6	3	2	ロタウイルス	
27	H29.5	小学校	26	2	2	ロタウイルス	
28	H29.5	高齢者施設	不明	2	2	ロタウイルス	
29	H29.5	保育園	9	2	2	ノロウイルス	GⅡ
30	H29.5	小学校	17	6	2	ロタウイルス	
31	H29.5	小学校	不明	3	3	ロタウイルス	
32	H29.5	保育園	7	3	2	ロタウイルス	
33	H29.6	小学校	11	2	2	ノロウイルス	GⅡ
34	H29.6	保育園	6	3	3	ノロウイルス	GⅡ
35	H29.6	保育園	16	3	3	ノロウイルス	GⅡ
36	H29.6	保育園	13	3	3	ノロウイルス	GⅡ
37	H29.6	保育園	9	5	5	ノロウイルス	GⅡ
38	H29.6	保育園	不明	4	4	ノロウイルス	GⅡ
39	H29.6	保育園	17	5	5	ノロウイルス	GⅡ
40	H29.6	保育園	不明	3	2	ロタウイルス	
41	H29.6	小学校	15	4	2	サポウイルス	
42	H29.6	小学校	49	3	3	ノロウイルス	GⅡ
43	H29.6	保育園	5	2	1	ノロウイルス	GⅡ
44	H29.6	保育園	不明	3	2	ノロウイルス	GⅡ
45	H29.6	保育園	10	9	2	ノロウイルス	GⅡ
46	H29.6	保育園	不明	4	4	ノロウイルス	GⅡ
47	H29.6	保育園	13	5	5	ノロウイルス	GⅡ
48	H29.8	保育園	21	6	4	アデノウイルス、ノロウイルス	
49	H29.8	保育園	不明	9	4	ノロウイルス	GⅡ
50	H29.9	小学校	6	2	2	ノロウイルス	GⅡ
51	H29.9	保育園	24	8	8	ノロウイルス	GⅡ
52	H29.10	保育園	10	4	3	ノロウイルス	GⅡ
53	H29.10	保育園	10	4	4	サポウイルス	
54	H29.10	保育園	14	3	3	ノロウイルス	GⅡ
55	H29.11	高齢者施設	20	3	1	ノロウイルス	GⅡ
56	H29.11	保育園	15	2	2	ノロウイルス	GⅡ
57	H29.11	保育園	19	3	3	ノロウイルス	GⅡ
58	H29.11	保育園	不明	1	1	ノロウイルス	GⅡ
59	H29.11	小学校	17	4	3	ノロウイルス	GⅠ
60	H29.11	小学校	15	2	2	ノロウイルス	GⅠ

61	H29.11	保育園	10	11	8	ノロウイルス	GⅡ
62	H29.11	保育園	12	2	2	サポウイルス	
63	H29.11	保育園	6	3	3	ノロウイルス	GⅡ
64	H29.11	保育園	7	2	1	ノロウイルス	GⅡ
65	H29.11	保育園	24	5	4	ノロウイルス	GⅡ
66	H29.11	保育園	7	1	1	ノロウイルス	GⅡ
67	H29.12	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
68	H29.12	高齢者施設	9	3	1	ノロウイルス	GⅡ
69	H29.12	小学校	不明	3	2	ノロウイルス	GⅡ
70	H29.12	保育園	14	2	1	ノロウイルス	GⅡ
71	H29.12	保育園	7	3	3	ノロウイルス	GⅡ
72	H29.12	小学校	不明	3	2	ノロウイルス	GⅡ
73	H29.12	保育園	23	3	2	ノロウイルス	GⅡ
74	H29.12	保育園	13	2	2	サポウイルス	
75	H29.12	小学校	14	2	2	ノロウイルス	GⅡ
76	H29.12	保育園	不明	5	2	ノロウイルス	GⅡ
77	H29.12	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
78	H29.12	保育園	27	3	2	ノロウイルス	GⅡ
79	H29.12	保育園	7	2	2	ノロウイルス	GⅡ
80	H29.12	保育園	8	2	1	ノロウイルス	GⅡ
81	H29.12	保育園	12	3	3	ノロウイルス	GⅡ
82	H29.12	保育園	11	2	2	ノロウイルス	GⅡ
83	H29.12	高齢者施設	17	3	2	ノロウイルス	GⅡ
84	H29.12	保育園	8	1	1	ノロウイルス	GⅡ
85	H29.12	小学校	15	3	2	ノロウイルス	GⅡ
86	H29.12	小学校	6	3	3	ノロウイルス	GⅡ
87	H29.12	保育園	10	3	3	ノロウイルス	GⅡ
88	H29.12	小学校	17	5	4	ノロウイルス	GⅡ
89	H29.12	高齢者施設	不明	3	2	ノロウイルス	GⅡ
90	H29.12	高齢者施設	25	3	2	ノロウイルス	GⅡ

301 237

(熊崎真琴、小澤広規、宇宿秀三、笹尾忠由)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が1事例あり、ノロウイルスGⅡ.4が検出された。平成29年度は食中毒疑いを含むノロウイルスの検査依頼数が平成28年度に比べて約半数となっており、全国の傾向と同様にウイルス性集団胃腸炎は少なかった。

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子型
1	H29.7	高齢者 福祉施設	22	2	2	ノロウイルス	GⅡ.4

(清水智美、清水英明)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市では、集団胃腸炎による集団発生が2事例確認された。2事例ともノロウイルスが検出され、いずれも感染症が疑われた事例であった。検出された遺伝子型はすべてGⅡ.4であった。

表 相模原市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子型
1	H29. 6	飲食店	11	11	2	ノロウイルス	GⅡ.4
2	H29.12	保育園	9	9	7	ノロウイルス	GⅡ.4

(高木尊大、荒川小夜子、金沢聡子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市で発生したウイルス性集団胃腸炎はなかったが、他都市で発生したノロウイルスを原因とする集団胃腸炎が2事例24件発生し、遺伝子群はGⅡであった。

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H29. 4	旅館	19	18	17	ノロウイルス	GⅡ
2	H29.12	ホテル	7	6	6	ノロウイルス	GⅡ

*2事例とも他都市発生である。

(山口純子)

⑥ 藤沢市

藤沢市保健所

藤沢市ではウイルスを原因とする集団胃腸炎が3事例確認された。その内訳はノロウイルス2事例、ロタウイルス1事例であった。

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H29. 1	高齢者 福祉施設	25	3	2	ロタウイルス	
2	H29.10	保育園	28	4	3	ノロウイルス	GⅡ
3	H29.12	高齢者 福祉施設	13	5	5	ノロウイルス	GⅡ

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

(ウ) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、流行性角結膜炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病の患者検体 163 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、135 例から 136 株のウイルスが検出された。その内訳は、コクサッキーウイルス (CV) A6 型 91 株、CV-A10 型 7 株、CV-A16 型 3 株、エンテロウイルス (EV) A71 型 31 株、エコーウイルス (E) 9 型 1 株、ライノウイルス (HRV) 1 株、ヒトパレコウイルス (HPeV) 3 型 1 株、アデノウイルス (HAdV) 2 型 1 株であった。このうち 1 例は、CV-A6 型と HAdV-2 型の重複感染例であった。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 17 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、15 例から 15 株のウイルスが検出された。その内訳は、CV-A2 型 2 株、CV-A6 型 7 株、CV-A10 型 4 株、HAdV-3 型 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 株であった。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 58 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、54 例から 54 株のウイルスが検出された。その内訳は、HAdV-1 型 6 株、HAdV-2 型 16 株、HAdV-3 型 30 株、HAdV-4 型 1 株、HAdV-64 型 1 株であった。

<流行性角結膜炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性角結膜炎患者検体 1 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、HAdV-3 型 1 株が検出された。

(嘉手苅将、佐野貴子、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎)

<流行性耳下腺炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性耳下腺炎患者検体 40 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、27 例から 28 株のウイルスを検出した。その内訳は、ムンプスウイルス (MuV) が 27 株、HRV が 1 株であり、同一患者からの MuV と HRV の重複検出が 1 例あった。MuV 27 例の遺伝子型はすべてジェノタイプ G であり、系統は Gw (西日本型) であった。

<無菌性髄膜炎>

病原体定点医療機関で採取された無菌性髄膜炎患者検体 36 例 110 検体についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、24 例から 44 株のウイルスが検出された。その内訳は、CV-A2 型 2 株、CV-A6 型 2 株、CV-B2 型 2 株、E-3 型 3 株、E-6 型 3 株、EV-A71 型 6 株、HPeV-3 型 3 株、HRV4 株、HAdV-2 型 1 株、水痘帯状疱疹ウイルス (HHV-3) 1 株、EB ウイルス (HHV-4) 3 株、サイトメガロウイルス (HHV-5) 2 株、ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV-6) 7 株、ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV-7) 5 株であり、多様なウイルスが検出された。

このうち同一患者からウイルスが重複して検出された症例が 5 例あった。1 例目 (表中 No. 3) は、咽

頭ぬぐい液から HRV、直腸ぬぐい液から HHV-6、2 例目 (No. 7) は咽頭ぬぐい液から HRV と HHV-7、3 例目 (No. 8) は髄液から HHV-3、咽頭ぬぐい液から HHV-4、4 例目 (No. 11) は咽頭ぬぐい液から CV-A2 と HHV-6、直腸ぬぐい液から CV-A2、5 例目 (No. 15) は髄液から E-6、咽頭ぬぐい液から E-6 と HHV-7 であった。

表 無菌性髄膜炎の検出結果

1	1月	髄液 咽頭ぬぐい液 糞便	E-6 陰性 陰性	13	9月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液 血清	陰性 HHV-6 陰性 陰性
2	3月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	HPeV-3 HPeV-3 HPeV-3	14	9月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	陰性 HHV-5 陰性
3	5月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	陰性 HRV HHV-6	15	9月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	E-6 E-6 HHV-7 陰性
4	5月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	陰性 HHV-5 陰性	16	9月	髄液	HHV-6
5	5月	髄液 咽頭拭い液 直腸拭い液 尿 血清	陰性 陰性 HAAdV-2 陰性 陰性	17	9月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液 尿 血清	CV-B2 陰性 陰性 陰性 CV-B2
6	5月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液 血清	陰性 HHV-7 陰性 陰性	18	9月	髄液 咽頭ぬぐい液 糞便 血清	陰性 HHV-6 HHV-6 HHV-6
7	6月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	陰性 HRV HHV-7 陰性	19	10月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	陰性 EV-A71 EV-A71
8	6月	髄液 咽頭ぬぐい液	HHV-3 HHV-4	20	10月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液 血清	陰性 陰性 陰性 HHV-7
9	6月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	陰性 CV-A6 CV-A6	21	10月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液 血清	E-3 E-3 E-3 陰性
10	7月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	陰性 HHV-4 陰性	22	11月	髄液 咽頭拭い液 直腸拭い液	陰性 HRV HRV
11	8月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液	陰性 CV-A2 HHV-6 CV-A2	23	11月	咽頭ぬぐい液 糞便 尿 血清	HHV-4 陰性 陰性 陰性
12	8月	髄液 咽頭ぬぐい液 直腸ぬぐい液 尿 血清	陰性 HHV-7 陰性 陰性 陰性	24	11月	髄液 咽頭ぬぐい液 糞便 血清	EV-A71 EV-A71 EV-A71 EV-A71

(佐野貴子、嘉手苺将、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎)

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 33 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、31 例から 31 株のウイルスが検出された。その内訳は、CV-A6 型 27 株、EV-71 型 4 株であった。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 2 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、1 例から CV-A10 型 1 株が検出された。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 22 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、16 例から 16 株のウイルスが検出された。その内訳は、HAdV-2 型 2 株、HAdV-3 型 9 株、HAdV-4 型 4 株、HAdV-64 型 1 株であった。

(松島勇紀、清水英明)

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 19 例について、ウイルス分離検査ならびに遺伝子検査を実施したところ、14 例からウイルスが検出された。その内訳は、CV-A6 型が 5 株、CV-A16 型が 3 株、エンテロウイルス A71 型が 6 株であった。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 3 例について、ウイルス分離検査ならびに遺伝子検査を実施したところ、3 例すべてからウイルスが検出された。その内訳は、CV-A6 型が 2 株、エンテロウイルス A71 型が 1 株であった。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 8 例について、遺伝子検査を実施したところ、8 例すべてからウイルスが検出された。その内訳は、HAdV-2 型が 1 株、HAdV-3 型が 7 株であった。

<流行性角結膜炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性角結膜炎患者検体 7 例について、遺伝子検査を実施したところ、6 例からウイルスが検出された。その内訳は、HAdV-3 型が 2 株、HAdV-1 型、HAdV-4 型、HAdV-56 型、HAdV-64 型がそれぞれ 1 株であった。

(高木尊大、荒川小夜子、金沢聡子)

イ 4類感染症（全数把握疾患）

（ア）蚊媒介感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

＜ Dengue ウイルス ＞

神奈川県域では、デング熱、ジカ熱、チクングニア熱疑い症例について、ウイルス遺伝子検査、デングウイルス NS1 抗原検査および抗体検査等を実施している。平成 29 年に当所に搬入されたのは、デング熱疑い症例 8 例、ジカ熱疑い症例 2 例、チクングニア熱疑い症例 1 例の計 11 例（海外渡航歴 有 10 例、無 1 例）であった。このうち 4 例から、デングウイルス NS1 抗原およびデングウイルス遺伝子が検出され、血清型は D1 型 2 例、D3 型 1 例、D4 型 1 例であった。感染推定地は、インドネシア、ベトナム（D1 型）、インド（D3 型）、ミャンマー（D4 型）であった。デングウイルスが検出されなかった 7 例については、ジカウイルス、チクングニアウイルス遺伝子検査も実施したが、遺伝子は検出されなかった。

（鈴木理恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎）

② 相模原市

相模原市衛生研究所

＜ Dengue ウイルス ＞

相模原市では、デング熱疑い患者発生に伴い、デングウイルス抗原検査および PCR 検査を実施している。平成 29 年に当所に搬入されたデング熱疑い症例 5 例で、内 2 例からデングウイルス非構造蛋白 NS1 抗原および 3 型及び 4 型のデングウイルス遺伝子が検出された。いずれも海外渡航歴のある患者であり、3 型はインド、4 型はタイであった。

また、いずれの症例においてもチクングニアウイルス及びジカウイルスの遺伝子検査も実施しており、1 例からジカウイルス遺伝子が検出された。ジカウイルス遺伝子陽性例についてはタイへの渡航歴があった。

（高木尊大、荒川小夜子、金沢聡子）

ウ 5類感染症（全数把握疾患）

（ア）麻疹

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県域では国の通知に基づき、麻疹疑い例報告について PCR 検査を実施している。平成 29 年は、麻疹疑い症例 18 例について麻疹ウイルス遺伝子の検査を実施したところ 2 例（3 月、10 月）から麻疹ウイルスが検出され、N 遺伝子領域の系統樹解析により、A 型と D8 型であることが判明した。3 月の A 型検出例は、発病 4 日前に麻疹ワクチンの接種歴があり、系統樹解析によりワクチン株であると確認された。また、10 月の D8 型検出例にはマレーシアへの海外渡航歴があり、海外で感染したと推定された。

麻疹ウイルス遺伝子が検出されなかった 16 例について、風疹ウイルスについても PCR 検査を行ったが、風疹ウイルスは検出されなかった。

（鈴木理恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎）

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

平成 29 年に川崎市内の医療機関において麻疹と診断された 16 例について麻疹ウイルス遺伝子の検査を実施したところ、麻疹ウイルス B3 型が 1 例（3 月）、D8 型が 1 例（10 月）検出された。B3 型検出例にはシンガポールへの海外渡航歴があった。

（松島勇紀、清水英明）

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

平成 29 年に相模原市内の医療機関において麻疹と臨床診断された 2 例のべ 4 検体について麻疹ウイルス遺伝子検査を実施したところ、1 例から麻疹ウイルス D8 型が検出された。陽性となった症例は渡航歴、ワクチン接種歴は不明であった。

また、このうち 1 例について、風疹ウイルス遺伝子検査を実施したが、風疹ウイルスは検出されなかった。

（高木尊大、荒川小夜子、金沢聡子）

（イ） 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

病原体定点医療機関あるいは医療機関より保健所に届け出があった急性脳炎患者 3 事例 3 症例 11 検体についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、2 症例 3 検体からウイルスが検出された。その内訳は、1 例目は咽頭ぬぐい液からムンプスウイルス、サイトメガロウイルス及びヒトヘルペスウイルス 6、尿からサイトメガロウイルスの重複検出であり、2 例目は咽頭ぬぐい液からライノウイルスが検出された。髄液からはウイルスは検出されなかった。

（佐野貴子、嘉手苺将、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎）

（ウ） HIV/エイズ

a 神奈川県の HIV/エイズの概要

健康危機管理課

平成 29 年の神奈川県における新規登録 HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で 83 人であった。

また、これまでの HIV 感染者とエイズ患者の累積報告数は 1,974 件となり、10 年前と比べ、約 2 倍になっている。

表 1 新規登録 HIV 感染者・エイズ患者の性別年次推移（神奈川県）（人）

		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	昭和60年 からの累 計
男性	総数	84	80	73	69	75	92	115	94	81	73	75	1,695
	感染者	52	59	51	49	51	60	87	67	50	49	52	1,116
	患者	32	21	22	20	24	32	28	27	31	24	23	579
女性	総数	12	12	8	8	8	8	4	3	6	10	8	279
	感染者	7	7	6	6	7	6	2	1	4	8	5	210
	患者	5	5	2	2	1	2	2	2	2	2	3	69
合計	総数	96	92	81	77	83	100	119	97	87	83	83	1,974
	感染者	59	66	57	55	58	66	89	68	54	57	57	1,326
	患者	37	26	24	22	25	34	30	29	33	26	26	648

平成 29 年の HIV 検査実施件数は、前年比 2.3%増の 6,937 件であった。（表 2）

表 2 HIV 検査実施件数年次推移（件）

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
県域	3,078	3,071	2,939	2,585	2,409	2,208	1,983	1,818	1,588	1,364	1,287
横浜市	5,092	5,087	4,754	4,031	4,169	4,057	4,312	4,360	3,354	2,888	2,977
川崎市	2,381	2,432	2,207	1,831	1,789	1,753	1,710	1,972	1,758	1,520	1,589
相模原市	585	559	584	486	491	499	227	522	480	471	525
横須賀市	440	352	322	340	262	262	538	260	202	201	200
藤沢市	192	388	367	383	436	430	447	460	364	339	359
合計	11,768	11,889	11,173	9,656	9,556	9,209	9,217	9,392	7,746	6,783	6,937
前年比（%）	22.3	1.0	-6.0	-13.6	-1.0	-3.6	0.1	1.9	-17.5	-12.4	2.3

* 自治体が実施する保健所以外の検査を含みます。

b HIV 検査の実施状況

① 神奈川県（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市及び茅ヶ崎市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市を除く）では、昭和 62 年 2 月より保健所において HIV 抗体検査の受付が開始され、当所で検査を実施している。平成 5 年 4 月からは HIV 抗体検査が無料化され、同年 8 月からは HIV-1 抗体検査に加え、HIV-2 抗体検査も実施可能となった。平成 12 年 4 月からは相模原市、平成 18 年 4 月からは藤沢市が保健所設置市となり、各市で検査を実施するようになった。

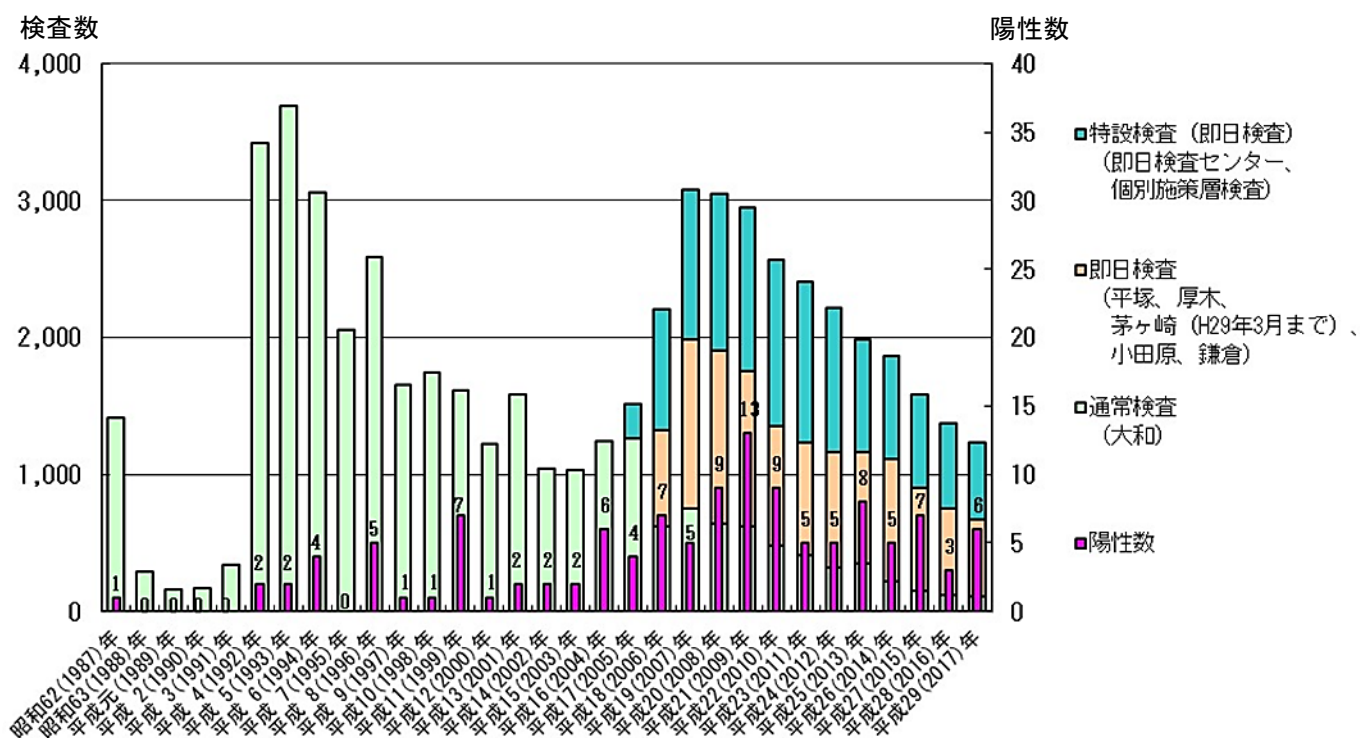
県域の保健福祉事務所（HWC）では、平成 18 年 4 月から平塚 HWC、6 月から厚木、茅ヶ崎及び小田原 HWC、平成 26 年 4 月からは鎌倉 HWC で即日検査を開始した。平成 29 年 4 月からは茅ヶ崎市が保健所設置市となったことから、即日検査は平塚、鎌倉、小田原及び厚木 HWC の 4 箇所、通常検査は厚木 HWC 大和センターの 1 箇所で行っている。HIV 検査と同時に受検可能な性感染症検査としては、平成 26 年 4 月から厚木 HWC 大和センターで梅毒抗体検査（通常検査）を実施、平成 30 年 3 月からは平塚、鎌倉及び小田原 HWC、4 月からは厚木 HWC で梅毒抗体検査（即日検査）を開始した。

HWC 以外の特設検査では、平成 17 年 8 月から HIV 即日検査施設として横浜 YMCA（厚木）に日曜検査会場である「神奈川県即日検査センター」（以下、即日検査センター）を開設した。また、平成 26 年からは個別施策層の男性同性間性的接触者（以下、MSM）と日本語に不慣れな受検者に配慮した対象者限定の即日検査会（以下、個別施策層検査）を隔月日曜日にながわ県民センターで実施している。

HIV 検査数は、検査が無料化された平成 5 年をピークに年々減少傾向を示したが、全国的に即日検査の導入が始まった平成 16 年以降は当県でも検査数が増加し始め、平成 17 年の即日検査センターの設置、平成 18 年の HWC への即日検査の導入により検査数が急激に増加した（図 1）。しかし、平成 19 年（検査数 3,080 件）をピークに減少傾向が続き、平成 29 年は 1,236 件であった。平成 29 年の検査種類別による検査数は、即日検査を実施している 4 箇所の HWC では 568 件、通常検査は 105 件、特設検査では 563 件であり、平成 18 年以降最低数となった（表 1）。前年と比較して、即日検査数は 9%減、通常検査は 13%減、特設検査は 10%減となり、全体としては 10%減となった。また、ピーク時の平成 19 年と比べると 60%減となった。

平成 29 年の HIV 陽性数は 6 例であった。通常検査で 3 例、特設検査で 3 例であり、HWC の即日検査での陽性事例はなかった。陽性率は、通常検査で 2.9%、特設検査で 0.5%であり、HIV 検査と同時に梅毒検査を実施している通常検査において陽性率が高く、HIV および梅毒の感染リスクが高い検査希望者が受検していたものと思われた。平成 30 年 3 月からは即日検査実施の 4 箇所の HWC においても梅毒検査が開始されたことから、今後の推移に注視したい。

陽性例の性別はすべて男性で、国籍は日本国籍が5名、外国籍が1名であった。陽性例はすべてHIV-1であり、サブタイプ型別は、サブタイプBが4例（日本国籍男性4例）、CRF01_AEとCRF07_BCのリコンビナントが1例（外国籍男性）、不明が1例（日本国籍男性）であった（表2）。サブタイプBは欧米から1980年代中頃に日本に流入し、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触による感染例の主流株となっている。CRF01_AE/CRF07_BCは2014年に中国から報告のあった新規の組み換えウイルスで、中国のMSM間で流行しており、神奈川県でも昨年から検出が続いていることから、今後の動向には注意が必要である。



- * 相模原は平成12年4月、藤沢は平成18年4月、茅ヶ崎は平成29年4月から保健所設置市となった。
- * 津久井は平成19年4月に相模原市に統合された。
- * 即日検査センターは平成17年8月、平塚HWCは平成18年4月、厚木、茅ヶ崎、小田原HWCは平成18年6月から即日検査を開始した。
- * 鎌倉HWCは平成26年4月から即日検査を開始した。
- * 対象者限定の即日検査会（個別施策層検査）を平成26年から開始した。

図1 神奈川県（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市および茅ヶ崎市を除く）でのHIV検査数、陽性数の年次推移

表1 HIV検査種類別による検査数、陽性数（平成18-29年）

	即日検査*			通常検査**			特設検査（即日検査） （即日検査センターおよび個別施策層検査）			合計		
	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）
平成18年	712	2	0.3%	615	1	0.2%	874	4	0.5%	2,201	7	0.3%
平成19年	1,237	2	0.2%	750	1	0.1%	1,093	2	0.2%	3,080	5	0.2%
平成20年	1,258	2	0.2%	643	3	0.5%	1,146	4	0.3%	3,047	9	0.3%
平成21年	1,132	2	0.2%	621	5	0.8%	1,198	6	0.5%	2,951	13	0.4%
平成22年	872	4	0.5%	484	0	0.0%	1,216	5	0.4%	2,572	9	0.3%
平成23年	824	2	0.2%	405	1	0.2%	1,176	2	0.2%	2,405	5	0.2%
平成24年	838	3	0.4%	323	0	0.0%	1,051	2	0.2%	2,212	5	0.2%
平成25年	817	2	0.2%	347	0	0.0%	819	6	0.7%	1,983	8	0.4%
平成26年	897	0	0.0%	216	0	0.0%	748	5	0.7%	1,861	5	0.3%
平成27年	752	1	0.1%	144	2	1.4%	691	4	0.6%	1,587	7	0.4%
平成28年	625	0	0.0%	121	0	0.0%	627	3	0.5%	1,373	3	0.2%
平成29年	568	0	0.0%	105	3	2.9%	563	3	0.5%	1,236	6	0.5%

*平成18年4月から平塚HWC、平成18年6月から小田原、茅ヶ崎、厚木HWC、平成26年4月から鎌倉HWC、平成29年4月から茅ヶ崎市移管

**平成26年3月まで鎌倉、三崎、秦野、大和、足柄上HWC、平成26年4月から大和センターのみ

表2 HIV陽性例のHIV-1型サブタイプ型別（平成18-29年）

	陽性数	サブタイプB				CRF01_AE				CRF02_AG				サブタイプB/CRF01_AE				CRF01_AE/CRF07_BC				不明/ PCR 陰性
		男性		女性		男性		女性		男性		女性		男性		女性		男性		女性		
		日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	日本 国籍	外国 籍	
平成18年	7	5			1		1															
平成19年	5	2			1		1															1
平成20年	9	4		1	1	1	2															
平成21年	13	9	1		1		1															1
平成22年	9	5		1	1		2															
平成23年	5	3										1		1								
平成24年	5	3		2																		
平成25年	8	6	1		1																	
平成26年	5	4	1																			
平成27年	7	2	2				1		1			1										
平成28年	3	1	1																1			
平成29年	6	4																	1			1
合計	82	48	6	2	2	4	2	1	8	0	1	0	0	1	1	0	1	0	2	0	0	3

（佐野貴子、嘉手苺将、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎）

② 相模原市

相模原市衛生研究所

平成 27 年から 29 年は、原則毎週火曜日及び隔週で土曜日に通常検査を実施し、6 月、9 月、12 月及び 2 月の計 4 回、即日検査を実施した。

検査は第四世代試薬（IC 法）を使用して行い、本法で陽性が疑われた検体については第四世代試薬で追加試験を行いウエスタンブロットにて確認検査を行った。

平成 29 年の検査数は、通常検査が 471 件、即日検査が 35 件の合計 506 件実施し、陽性が 1 件（陽性率が 0.2%）であった。

表 HIV 検査種別による検査数、陽性数（平成 27-29 年）

	通常検査				即日検査			
	検査数	判定保留	陽性数	陽性率 (%)	検査数	判定保留	陽性数	陽性率 (%)
平成27年	399	0	2	0.5%	57	0	0	0.0%
平成28年	424	0	1	0.2%	50	0	0	0.0%
平成29年	471	2	1	0.2%	35	0	0	0.0%
合計	1,294	2	4	0.3%	142	0	0	0.0%

(高木尊大、荒川小夜子、金沢聡子)

③ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

毎月 2 回火曜日の午後に通常検査を、1 月～3 月は毎月 1 回水曜日に夜間検査も実施し、6 月、12 月は月 1 回休日に即日検査を実施した。

検査は 1 次検査でイムノクロマト法により血中抗 HIV-1 及び HIV-2 抗体検出キットを使用して行い、本法で陽性であった検体については 2 次検査でウエスタンブロット法等により確認検査を行う。

平成 29 年の検査数は 174 件で、内訳は通常検査が 151 件、夜間検査が 9 件、即日検査が 14 件であった。結果は 1 次検査陽性が 3 件あったが、2 次検査がすべて陰性であった。

表 横須賀市の HIV 検査数

	検査数	陽性数	陽性率
通常検査	151	0	0.0%
平日夜間検査	9	0	0.0%
休日即日検査	14	0	0.0%
計	174	0	0.0%

(山口純子)

原則週1回木曜日の午前中に通常即日検査を実施し、それとは別に6月（HIV検査普及週間）と10月に平日夜間即日検査、12月の世界エイズデーに合わせて休日即日検査を実施した。

検査はイムノクロマト法による血中抗HIV-1抗体及び抗HIV-2抗体検出キットを使用して行い、本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

平成29年の検査数は359件で、内訳は通常即日検査が282件、平日夜間即日検査が35件、休日即日検査が42件であった。判定保留は2件あり、県衛生研究所の精密検査において陽性と判定された。

表 藤沢市のHIV検査数

	検査数	判定保留	陽性数	陽性率
通常即日検査	282	2	2	0.7%
平日夜間即日検査	35	0	0	0.0%
休日即日検査	42	0	0	0.0%
計	359	2	2	0.6%

（平井有紀、松葉友美、水上稚子、北出杏子、佐藤健）

（2）感染症流行予測調査

ア 感受性調査（抗体保有状況調査）

（ア）インフルエンザ

神奈川県衛生研究所

2017年7～8月に採取された0～69歳の県民304名（0～4歳27名、5～9歳19名、10～14歳23名、15～19歳25名、20～29歳60名、30～39歳60名、40～49歳30名、50～59歳30名、60歳以上30名）の血清について、赤血球凝集抑制試験（HI試験）を用いてインフルエンザ各型に対するHI抗体価を調査した。使用抗原は、A/シンガポール/GP1908/2015、A/香港/4801/2014、B/プーケット/3073/2013、B/テキサス/2/2013の4種類で、すべて本シーズン（2017/2018）のワクチン株である。抗体保有率は、「感染症流行予測調査報告書」（厚生労働省健康局結核感染症課、国立感染症研究所疫学情報センター）に従い、感染リスクを50%に抑える目安と考えられているHI抗体価1:40（40HI）以上を抗体保有率と定義し、評価の対象とした。評価の方法は、60%以上を「高い」、40%以上60%未満を「比較的高い」、25%以上40%未満を「中程度」、10%以上25%未満を「比較的低い」、5%以上10%未満を「低い」、5%未満を「極めて低い」の6段階で行った。

A/シンガポール/GP1908/2015 は、本年から AH1 型のワクチン株に選定された。A/シンガポール/GP1908/2015 に対する抗体保有率は、平均 27.3%であった。5～9 歳は 68.4%で高く、10～29 歳では 41.7～56.0%で比較的高く、0～4 歳と 30～39 歳と 50 歳以上では 10.0～22.2%と比較的低く、40～49 歳では 6.7%と低かった。AH1 型は一昨シーズン（2015/2016）に流行したが、昨シーズン（2016/2017）は大きな流行がみられなかったことに加えて本シーズンと昨シーズンとではワクチン株が異なっていることから、AH3 型に比べて抗体保有率が低かったと考えられる。（図 1）

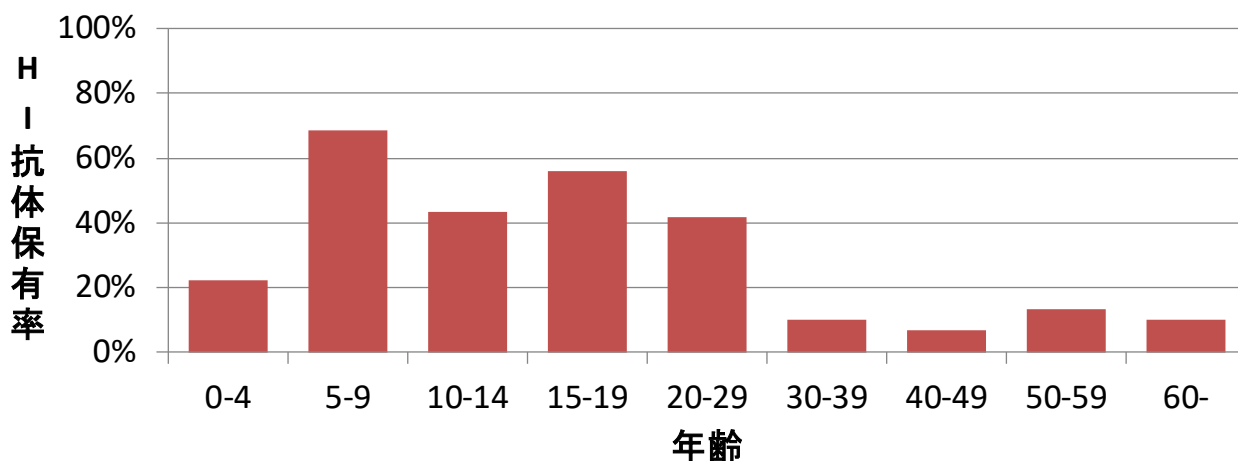


図 1 A/シンガポール/GP1908/2015 抗体保有率

A/香港/4801/2014 は 2016 年から AH3 型のワクチン株として用いられている。A/香港/4801/2014 に対する抗体保有率は、平均 48.7%で、調査対象 4 株の中で最も高かった。5～19 歳では 63.2～78.3%と高く、20～29 歳と 50 歳以上では 46.7～50.0%で比較的高く、30～49 歳では 36.7～38.3%で中程度、0～4 歳は 22.2%で比較的低かった。昨シーズンは大きな流行がみられたことから、AH1 型に比べて抗体保有率が高かったと考えられる。（図 2）

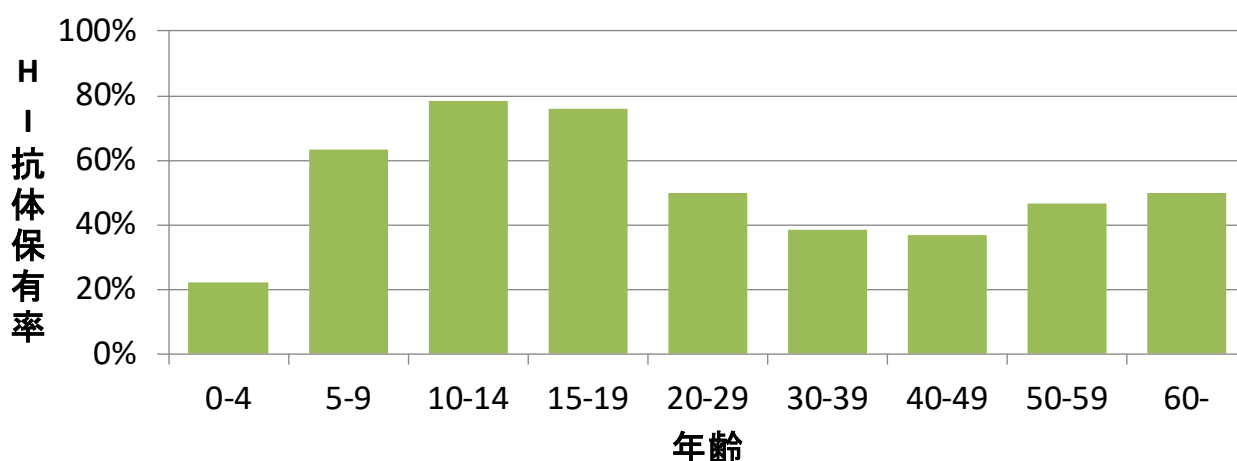


図 2 A/香港/4801/2014 抗体保有率

B/プーケット/3073/2013 は、2015 年から B 型山形系統のワクチン株として用いられている。B/プーケット/3073/2013 に対する抗体保有率は、平均 16.4%であった。10～14 歳と 20～29 歳は 25.0～26.1%で中程度、5～9 歳、15～19 歳と 30～59 歳では 15.0～20.0%と比較的低く、60 歳以上は 6.7%で低く、4 歳未満の抗体保有者は認められなかった。（図 3）

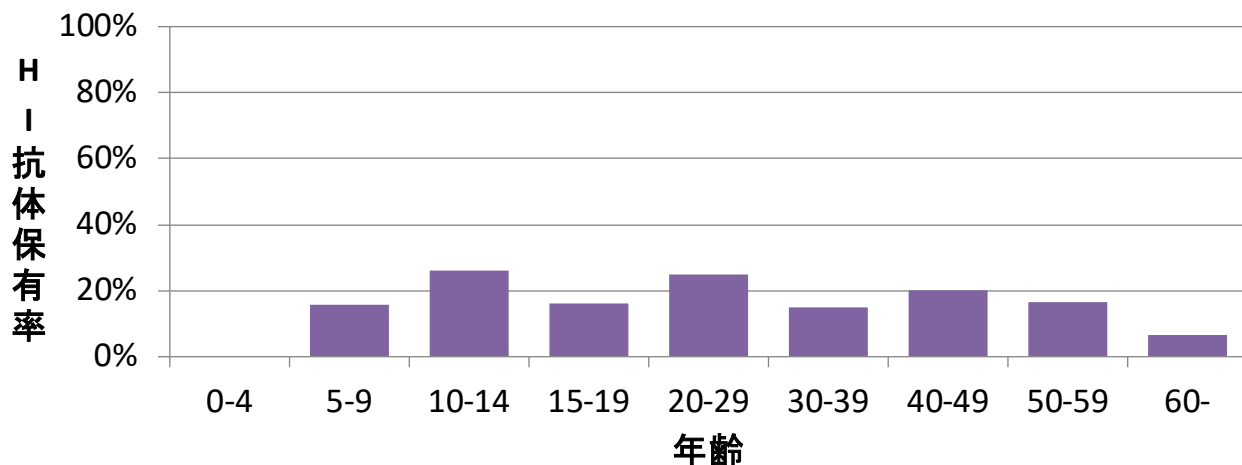


図 3 B/プーケット/3073/2013 抗体保有率

B/テキサス/2/2013 は 2015 年から B 型ビクトリア系統のワクチン株として用いられている。B/テキサス/2/2013 に対する抗体保有率は、平均 3.9%で調査対象 4 株の中で最も低かった。年齢別の抗体保有率が最も高かった 40～49 歳でも 16.7%、0～14 歳と 30～39 歳、50 歳以上では 3.3～5.3%、15～29 歳では抗体保有者は認められなかった。（図 4）

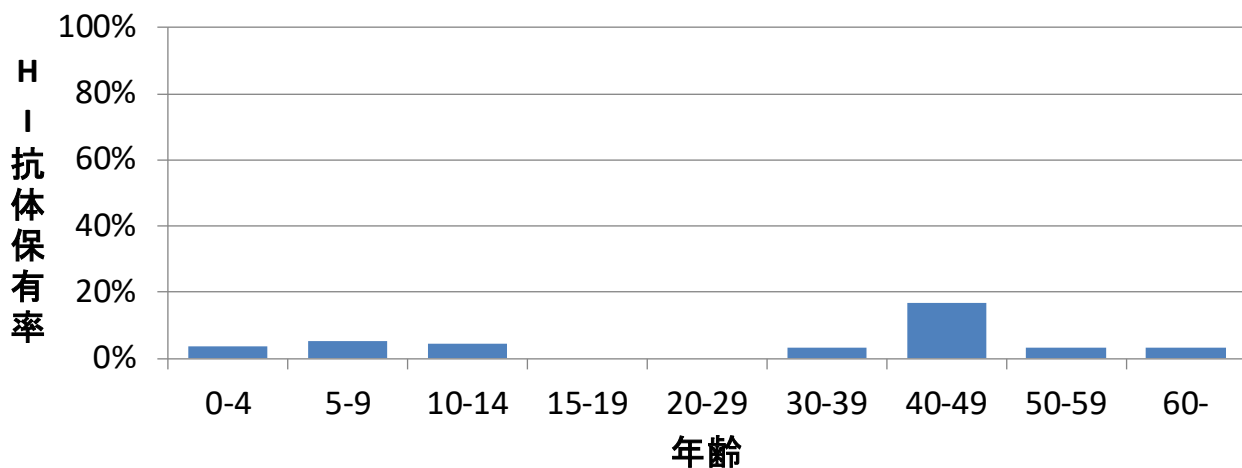


図 4 B/テキサス/2/2013 抗体保有率

本シーズンのインフルエンザワクチンは、AH1 型のみが変更され、それ以外の 3 株は昨シーズンと同じ株が採用された。重症化予防の目安と考えられる 40HI 以上の抗体保有率は、AH3 が 48.7%であったのに対し、他の 3 株は 3.9～27.3%と低い値であり、これらの株に対する感受性者が多く存在すると考えられた。したがって、全年齢群において、ワクチン接種による免疫強化が必要であると思われた。

（渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎）

(イ) 麻疹

神奈川県衛生研究所

麻疹流行の予測とその推移を知るため、住民の麻疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成 29 年 7 月に採取された小児（0～14 歳以下）120 名および 15 歳以上の一般健康人 240 人の血清計 360 例について、麻疹ウイルス抗原を吸着したゼラチン粒子による凝集反応（PA）法を用いて麻疹ウイルスに対する抗体価を測定した。その結果、PA 抗体価 1：16 以上の抗体保有率は全体で 92.5%（333 名）であった。

年齢群別では、麻疹ワクチン接種前の 1 歳未満の乳児の抗体保有率は 25.0%、ワクチン接種開始年齢である 1 歳児の抗体保有率は 71.4%と低いものの、2 歳～4 歳では 97.0%に上昇している。その他の年齢群では、15 歳～19 歳、30 歳～34 歳を除く年齢群で 95%以上を示した。2016 年度の全国の流行予測調査結果では、2 歳以上すべての年齢群で 95%以上であった。また、麻疹の発症予防の目安とされる PA 抗体価 1：128 以上の抗体保有率は、昨年の全国の流行予測調査では、0 歳～1 歳、9 歳～15 歳を除くすべての年齢群で 85%以上であるのに対し、本調査では全ての年齢群で 85%を下回り、特に 15 歳～19 歳で 56.7%、30 歳～34 歳で 50.0%と顕著に低かった。

2015 年 3 月 27 日、日本は世界保健機関西太平洋事務局（WPRO）によって、麻疹排除国と認定された。しかし、世界では麻疹の流行が続いている地域があり、海外から持ち込まれた麻しんが国内で流行する症例が報告されている。

2017 年の全国の麻疹患者報告数は 163 例であり、このうち 38 例（23%）は麻疹流行国への海外渡航歴があり、80 例（49%）は海外感染例に伴う家族内感染や集団発生等の二次感染例であることが確認されている。感染拡大防止のためには、麻疹ワクチンの 2 回接種を徹底し、集団免疫を維持することが重要である。

2017 年度の神奈川県における麻疹抗体保有率は 92.5%であり、昨年の全国平均を下回り、発症予防レベルである 1：128 以上の抗体保有率も 64.2%と低く、油断できない状況にある。今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況を調査するとともに、予防接種の必要性和麻疹に関する適切な知識を普及させることが重要である。

表 麻疹ウイルス抗体保有状況（平成 29 年 7 月）

年齢	抗体価		PA抗体価							検査数 (人)	抗体保有率 (%)		
	<16	16	32	64	128	256	512	1024	≥2048		1:16 以上	1:128 以上	
1歳未満	12		1	1	1			1			16	25.0	12.5
1歳	4	3		1	3	1	1		1		14	71.4	42.9
2～4歳	1		2	2	7	6	8	5	2		33	97.0	84.8
5～9歳	1	1	3	4	3	6	2	4	3		27	96.3	66.7
10～14歳			4	8	8	7	3				30	100.0	60.0
15～19歳	5		1	7	5	7	3	1	1		30	83.3	56.7
20～24歳			2	7	10	8	2		1		30	100.0	70.0
25～29歳			1	8	6	7	4	3	1		30	100.0	70.0
30～34歳	2	3	3	7	8	5	1	1			30	93.3	50.0
35～39歳			3	7	2	4	7	5	2		30	100.0	66.7
40～49歳		1	1	4	6	4	9	4	1		30	100.0	80.0
50～59歳	1	1	2	4	6	5	4	3	4		30	96.7	73.3
60歳以上	1	2	3	5	2	4	6	3	4		30	96.7	63.3
計	27	11	26	65	67	64	51	29	20		360	92.5	64.2

（鈴木理恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎）

(ウ) 風疹

神奈川県衛生研究所

風疹流行の予測とその推移を知るため、住民の風疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成 29 年においては、一般健康人男女 360 名を対象として、風疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体価を測定した。その結果、抗体価 1:8 以上の抗体保有率は全体で 86.7%、男女別では男性 83.9%、女性 89.4%であった。

2016 年度の全国流行予測調査結果では、2 歳から 30 歳代前半では、4 歳～5 歳男性の抗体保有率 (85%) が若干低いものの大きな男女差は見られず、ほとんどの年齢群で抗体保有率が 90%を超えていた。また、30 歳代後半から 50 歳前半の年齢群では、男女差が大きい (男<女) 傾向があった。

今回の神奈川県における調査においては、2 歳から 30 歳代前半で男性よりも女性の抗体保有率が低く (男性 95.2%、女性 89.5%)、35 歳以上では全国調査と同様に女性の抗体保有率が高かった (男性 73.3%、女性 91.2%)。

抗体保有率の低い層は今後の感染と流行の主体になると考えられ、これらの年齢層別の抗体保有状況を引き続き監視するとともに、妊娠前および妊娠可能年齢層への風疹ワクチン接種を継続して奨励する必要があると思われる。

表 風疹ウイルス抗体保有状況 (平成 29 年 7 月)

年齢	抗体価		HI抗体価							検査数 (人)	抗体保有率 (%)	
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024		1:8 以上	1:32 以上
1歳未満	9		4		3					16	43.8	18.8
1歳	3		4	1	3	1	2			14	78.6	50.0
2～4歳	1	1	4	5	9	6	7			33	97.0	81.8
5～9歳	4		4	6	4	4	4	1		27	85.2	70.4
10～14歳		1	7	8	6	3	5			30	100.0	73.3
15～19歳	2	2	7	9	6	4				30	93.3	63.3
20～24歳	3	3	4	10	7	2	1			30	90.0	66.7
25～29歳	2	1	8	4	8	6	1			30	93.3	63.3
30～34歳	4	2	3	4	9	6	2			30	86.7	70.0
35～39歳	5		2	2	7	7	6	1		30	83.3	76.7
40～49歳	3			8	10	4	3	1	1	30	90.0	90.0
50～59歳	7		1	2	5	7	5	2	1	30	76.7	73.3
60歳以上	5	3	6	3	3	5	5			30	83.3	53.3
計	48	13	54	62	80	55	41	5	2	360	86.7	68.1

(鈴木理恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎)

(エ) 水痘

神奈川県衛生研究所

本調査は、ヒトの水痘帯状疱疹ウイルスに対する抗体保有状況を調査し、水痘ワクチンの効果を調査すること、また今後の流行予測と予防接種計画の資料とすることを目的とし、水痘ワクチンが定期接種対象疾患となった2014年度より全国的に実施され、神奈川県でも2016年度から調査に参加している。

平成29年7月～9月の間に採血された270名について、水痘帯状疱疹ウイルスに対するIgG抗体の測定をEIA法により行った結果、抗体陽性とされるEIA抗体価4.0以上の水痘抗体保有率は、全体で70.7%（191名）であった。年齢群別に見ると、0歳では18.8%、1歳では35.7%、2歳から3歳では53.3%、4歳から9歳では30.0%、10歳から14歳では76.7%、15歳から19歳では86.7%、20歳から24歳では86.7%、25歳から29歳では83.3%、30歳から39歳では96.7%、40歳以上では96.7%であった。

水痘ワクチンの定期接種は2014年10月1日から開始され、生後12月から生後36月に至るまでの間（1歳の誕生日の前日から3歳の誕生日の前日）を対象とし、3か月以上の間隔をおいて2回接種が実施されている。今回の調査では、1歳では36%、2歳から3歳では53%と抗体保有率が上昇したが、4歳から9歳では30%と低下していた。2016年、全国における水痘ワクチン接種率は、2歳から5歳では約8割であったが、6歳から7歳では約6割、8歳から9歳では約5割に低下していた。定期接種対象外となった若年層での抗体保有率が低いと考えられ、今後も抗体価の推移を注視していく必要がある。

10歳代以上では、10歳代で77～87%、20歳代で83～87%、30歳代以上では97%と年齢が上がるごとに上昇しており、自然感染が起こっていると考えられた。しかしながら、10歳から20歳代では約13～23%の感受性者が存在していた。水痘は成人が罹患すると重症化することもあり、また、妊婦が感染すると胎児に先天性感染を引き起こす可能性もあることから、成人の感受性者へのワクチン接種の推奨も検討する必要があると思われる。

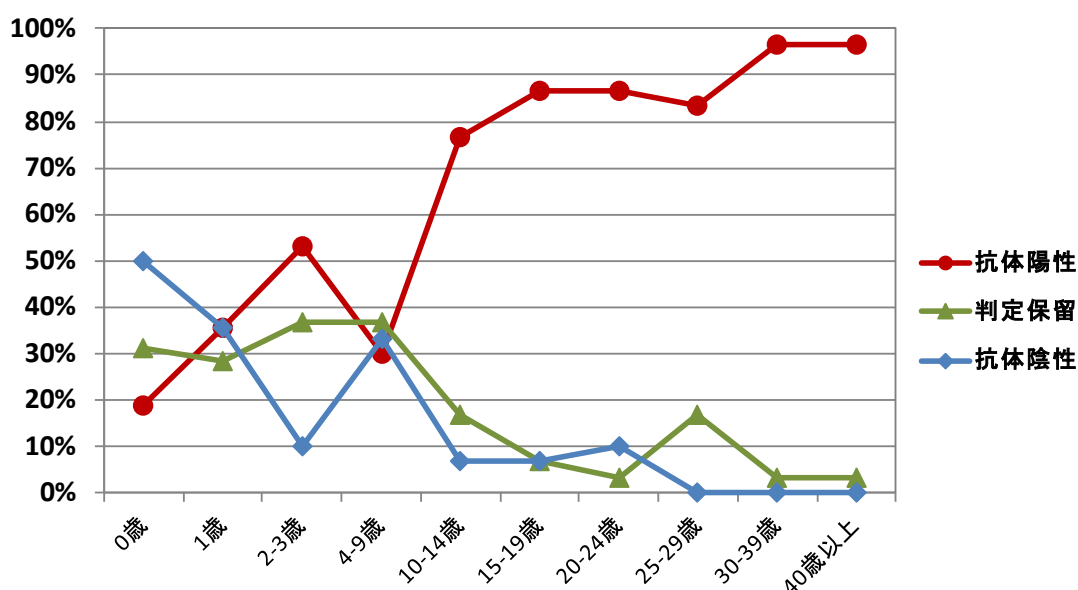


図 水痘帯状疱疹ウイルス抗体保有状況

(佐野貴子、嘉手苺将、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎)

イ 感染源調査 (ア) 日本脳炎

神奈川県衛生研究所

わが国の日本脳炎患者数は、1950年代には年間数千人の発生があったが、1967年から1976年に実施された積極的なワクチン接種により患者は急速に減少し、1980年代には年間数十人となった。1992年以降は毎年10名以下の患者発生に留まり、患者発生地域は西日本に集中している。ブタは日本脳炎ウイルスに対する感受性が高く、ブタ体内で増殖したウイルスは、蚊を介してヒトや他の動物へ感染する。日本脳炎ウイルスの侵淫状況を把握し、ヒトへの感染予防の注意を促すため県内産の豚について日本脳炎ウイルスの抗体保有状況を調査した。

神奈川食肉センターに持ち込まれた生後5～8ヵ月齢の県内産の豚を対象に、平成29年7月から9月までの期間に、8回、20頭ずつ、計160頭について、血中のJaGAr01株に対する抗体調査を実施した。その結果、今年度は血球凝集抑制抗体および2-メルカプトエタノール感受性抗体は検出されず、県内における日本脳炎ウイルスの活動は確認されなかった。県内では、平成29年度も日本脳炎患者の発生はなかったが、平成27年には関東地方で7年ぶりに患者発生があった。その患者は、千葉県在住のワクチン未接種の0歳児で平成27年8月に発症していた。患者発生時に行われていた千葉県の日本脳炎感染源調査では、抗体保有率が7月は0%、8月は0%～20%、9月は25%～90%と上昇しており、抗体を保有するブタが千葉県内にいたと思われる。例年、ブタの日本脳炎感染源調査では、東日本の抗体保有率は低く、西日本が高い傾向がある。また、患者発生は東日本でほとんどみられず、西日本で数例の報告があり、ブタの日本脳炎ウイルスの抗体保有状況は、日本脳炎ウイルスの侵淫状況を反映するとされており、今後も継続して調査をする必要がある。

(鈴木理恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎)

(3) 感染症媒介蚊のサーベイランス

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

デングウイルス等の感染症を媒介する蚊の生息状況調査を8カ所の公園で平成29年6月から10月まで行った。各公園内に2カ所ずつCO₂トラップ(CDC型 Model #512)を24時間設置して蚊を採集した。CO₂の発生にはドライアイスを用いた。

採取された蚊(メス)1137匹を種別し、トラップ毎にプール(1~21匹)した合計162プールについて、フラビウイルス遺伝子(デングウイルス、ウエストナイルウイルス、ジカウイルス、日本脳炎ウイルスを含む)とチクングニアウイルス遺伝子についてRT-PCRを実施した。その結果、いずれのウイルス遺伝子も不検出であった。

表1 蚊(メス)の採集結果(各公園2トラップの合計)

採集場所	種類	採集数(匹)					
		6月	7月	8月	9月	10月	合計
総合公園 (平塚市)	ヒトスジシマカ	1	10	31	0	0	42
	アカイエカ群	4	8	0	0	0	12
	コガタアカイエカ	0	0	0	0	0	0
	その他※	0	0	1	0	0	1
中央運動公園 (秦野市)	ヒトスジシマカ	4	62	139	80	62	347
	アカイエカ群	20	17	23	26	1	87
	コガタアカイエカ	0	0	1	0	0	1
	その他※	2	0	0	0	1	3
中央公園 (鎌倉)	ヒトスジシマカ	0	6	12	8	1	27
	アカイエカ群	0	1	0	0	0	1
	コガタアカイエカ	0	0	0	0	0	0
	その他※	0	3	0	1	1	5
三浦合同庁舎 (三浦市)	ヒトスジシマカ	1	0	2	1	2	6
	アカイエカ群	118	5	11	11	6	151
	コガタアカイエカ	1	0	0	0	0	1
	その他※	1	0	0	1	0	2
上府中公園 (小田原市)	ヒトスジシマカ	11	5	30	7	0	53
	アカイエカ群	42	20	20	16	15	113
	コガタアカイエカ	2	3	16	0	0	21
	その他※	2	2	6	2	2	14
範茂史跡公園 (南足柄市)	ヒトスジシマカ	4	3	17	9	9	42
	アカイエカ群	4	1	2	3	5	15
	コガタアカイエカ	0	7	14	0	0	21
	その他※	0	3	1	1	0	5

ぼうさいの丘公園 (厚木市)	ヒトスジシマカ	6	18	9	19	1	53
	アカイエカ群	16	7	0	2	3	28
	コガタアカイエカ	1	0	0	0	0	1
	その他※	0	3	1	3	3	10
引地台公園 (大和市)	ヒトスジシマカ	0	9	13	14	0	36
	アカイエカ群	9	14	8	8	0	39
	コガタアカイエカ	0	0	0	0	0	0
	その他※	0	0	0	0	0	0
合計		249	207	357	212	112	1137

※：オオクロヤブカ、キンパラナガハシカ、ヤマトヤブカ、カラツイエカ

表2 蚊（メス）のウイルス検査結果

蚊の採集場所	ウイルス検査結果※				
	6月	7月	8月	9月	10月
平塚市総合公園 (平塚市)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
中央運動公園 (秦野市)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
鎌倉中央公園 (鎌倉市)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
三浦合同庁舎敷地内 (三浦市)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
上府中公園 (小田原市)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
範茂史跡公園 (南足柄市)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ぼうさいの丘公園 (厚木市)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
引地台公園 (大和市)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出

※：フラビウイルス遺伝子及びチクングニアウイルス遺伝子

(鈴木理恵子、稲田貴嗣)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

デングウイルス、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルスなどを含むフラビウイルス属や、チクングニアウイルス等による感染症を媒介する蚊のサーベイランス事業は、平成 23 年度から横浜市内 18 区 19 か所の公園等に、ドライアイス併用のライトトラップを設置し開始した。平成 28 年度からはジカウイルスを追加した。平成 29 年度は前年同様、市内 25 か所にライトトラップを設置、さらにイベントや観光客の多い公園をリスク地点として選出し、人囮法（スイーピング法）による蚊の採集を実施した。一連のライトトラップの設置、回収、当所への搬送に関しては、横浜市各区福祉保健センター生活衛生課と協力して実施した。また、6 か所については、（公社）神奈川県ペストコントロール協会（PCO）に委託した。

平成 29 年度のライトトラップ法での採集は、PCO 委託 6 か所で 12 回、その他 19 か所で 10 回、人囮法は 12 回実施した。採集された蚊類の種別は表 1、2 に示した。ウイルス検査は蚊雌成虫計 9,511 匹を、種別に 50 匹までを上限としてプール検体を作成、294 プールについて、フラビウイルス属遺伝子（デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルスや日本脳炎ウイルスなどを含む）についてコンベンショナル RT-PCR、チクングニアウイルス遺伝子についてリアルタイム PCR を実施した。その結果、ライトトラップ法、人囮法共にすべての検体でいずれのウイルス遺伝子も不検出であった。

表1 横浜市の蚊媒介感染症サーベイランス結果（ライトトラップ法）

区名	回数 設置場所	回数												総計
		1 匹数	2 匹数	3 匹数	4 匹数	5 匹数	6 匹数	7 匹数	8 匹数	9 匹数	10 匹数	11 匹数	12 匹数	
1	鶴見 大黒中央公園	実施せず		42	58	62	60	45	146	81	373	254	132	1,253
2	馬場花木園	実施せず		27	14	232	108	60	24	193	194	50	26	928
3	神奈川 三ツ沢公園	実施せず		3	17	53	0	75	90	39	138	17	1	433
4	西 掃部山公園	実施せず		15	44	184	78	55	77	385	329	28	20	1,215
5	臨港パーク	66	6	11	39	67	116	47	78	13	11	10	9	473
6	山下公園	35	24	19	21	7	6	26	8	26	16	18	5	211
7	横浜公園	8	5	14	14	21	25	6	67	27	19	15	1	222
8	中 港の見える丘公園	58	2	12	12	7	14	34	50	2	41	22	3	257
9	根岸森林公園	1	2	1	3	0	5	1	5	48	6	3	0	75
10	シンボルタワー	実施せず		102	89	121	31	45	79	39	108	90	87	791
11	南 蒔田の森公園	実施せず		10	17	53	14	22	11	62	35	22	0	246
12	港南 久良岐公園	実施せず		29	15	18	4	12	14	13	19	9	0	133
13	日野公園墓地	2	10	1	11	65	54	8	84	31	57	12	1	336
14	保土ヶ谷 陣ヶ下溪谷公園	実施せず		1	1	18	33	13	30	33	16	26	5	176
15	旭 こども自然公園	実施せず		9	8	53	10	35	34	109	39	6	5	308
16	磯子 坪呑公園	実施せず		2	0	24	10	7	5	21	15	9	4	97
17	金沢 海の公園	実施せず		4	5	8	23	5	10	21	95	46	23	240
18	港北 大倉山公園	実施せず		4	15	7	18	10	42	26	14	14	0	150
19	緑 北八朔公園	実施せず		5	5	68	70	49	75	103	56	29	12	472
20	青葉 桜台公園	実施せず		1	3	34	27	5	83	19	1	75	0	248
21	都筑 都筑中央公園	実施せず		3	9	36	57	14	55	24	9	6	0	213
22	戸塚 舞岡公園	実施せず		6	7	1	0	8	1	8	8	5	11	55
23	栄 本郷ふじやま公園	実施せず		11	4	7	11	19	18	8	17	34	14	143
24	泉 泉中央公園	実施せず		0	7	44	14	34	31	88	85	87	31	421
25	瀬谷 二ツ橋南公園	実施せず		7	11	33	45	3	0	59	95	17	2	272
総計		170	49	339	429	1,223	833	638	1,117	1,478	1,796	904	392	9,368

蚊雌成虫の種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
アカイエカ群	154	37	234	227	204	140	103	154	109	178	140	116	1,796
ヒトスジシマカ	10	8	71	164	946	642	460	868	1,274	1,500	546	152	6,641
コガタアカイエカ	0	0	0	0	9	0	10	51	9	21	2	1	103
ヤマトヤブカ	2	2	12	20	41	24	25	18	33	46	20	15	258
オオクロヤブカ	0	0	1	3	0	3	5	5	10	13	149	81	270
キンバラナガハシカ	1	0	15	6	13	11	24	13	21	31	44	26	205
その他（*1）	3	2	6	9	10	13	11	8	22	7	3	1	95
総計	170	49	339	429	1,223	833	638	1,117	1,478	1,796	904	392	9,368

ウイルス遺伝子検査結果（*2）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
フラビウイルス属	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
チクングニアウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

（*1）その他は、カラツイエカ、ハマダラナガスネカ、破損の激しいもの等

（*2）アカイエカ群のジカウイルス、チクングニアウイルス遺伝子検査は実施せず

表2 横浜市の蚊媒介感染症サーベイランス結果（人囀法）

No.	実施公園	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
		ポイント	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	
1	中区 山下公園	①	1	0	0	0	2	1	1	4	5	1	0	1	16
2		②	0	1	0	1	1	0	0	2	6	4	2	2	19
3		③	2	0	3	1	4	2	10	12	19	16	11	28	108
総計			3	1	3	2	7	3	11	18	30	21	13	31	143

蚊雌成虫の種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
アカイエカ群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒトスジシマカ	3	1	3	2	7	3	11	18	30	21	13	31	143
総計	3	1	3	2	7	3	11	18	30	21	13	31	143

ウイルス遺伝子検査結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
フラビウイルス属	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
チクングニアウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

(林 宏子、伊藤真弓、小曾根恵子、宇宿秀三、笹尾忠由)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

市内 7 箇所の保健所にライトトラップを設置し、平成 29 年 5 月から 10 月まで蚊を毎週 1 回採集した。種別した雌蚊 145 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヤブカ属の蚊 118 プールについてはデングウイルス、チクングニアウイルスおよびジカウイルスを含むフラビウイルス属の保有状況も併せて調査した。その結果、いずれのウイルス遺伝子も不検出であった。

表 川崎市の WNV サーベイランス調査における蚊の月別及び種別採集数

採集月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
川崎保健所	7	7	10	9	10	5	48
幸保健所	3	4	7	5	5	3	27
中原保健所	0	2	3	4	4	2	15
高津保健所	0	0	0	2	2	0	4
宮前保健所	1	3	5	3	4	2	18
多摩保健所	1	2	1	2	4	0	10
麻生保健所	3	3	7	6	2	2	23
総計	15	21	33	31	31	14	145

蚊の種類（雌雄合計匹数）	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
アカイエカ群	16	28	10	6	21	9	90
ヒトスジシマカ	22	101	377	435	175	68	1178
コガタアカイエカ	0	0	0	0	1	1	2
キンパラナガハシカ	0	0	0	1	9	18	28
ヤマトヤブカ	6	9	6	15	1	3	40
オオクロヤブカ	0	0	0	0	1	0	1
総計	44	138	393	457	208	99	1339

ウイルス遺伝子検査結果						
ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
フラビウイルス（ジカウイルス含む）	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(駒根綾子、清水英明)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

デングウイルス等媒介蚊の調査のため、平成29年6月から10月まで、市内各区一箇所の公園（緑区は2箇所の公園を隔月で実施）で、ヒトスジシマカ雌のウイルス保有状況を調査した。蚊の採集方法は人囀法で実施し、採取後の蚊を分類した後、デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの遺伝子検査を実施したが、いずれも陰性だった。

表 相模原市のデング熱等蚊媒介蚊検査結果

採集月（ヒトスジシマカ雌数）	6月	7月	8月	9月	10月	総計
相模原北公園（緑区）	2	-	37	-	4	43
相模湖林間公園（緑区）	-	1	-	6	-	7
淵野辺公園（中央区）	5	3	29	28	5	70
相模大野中央公園（南区）	4	13	22	19	14	72
総計	11	17	88	53	23	192

ウイルス遺伝子検査結果					
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ジカウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

（坂 扶美子、山口加奈枝）

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱等媒介蚊の調査として平成29年6月より10月まで計5回実施した。設置場所は三笠公園敷地内、動物愛護センター敷地内、くりはま花の国敷地内およびソレイユの丘敷地内とし、BGセンチネルトラップを使用し蚊を捕獲、分類した後、ウエストナイルウイルス遺伝子、デングウイルス遺伝子、チクングニアウイルス遺伝子及びジカウイルス遺伝子についてRT-PCRを実施した。その結果、いずれの遺伝子も不検出であった。

表 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊検査結果

採集月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
三笠公園	11	5		24	10	50
動物愛護センター	10	4	12	19	4	49
くりはま花の国	3	3	1	2	1	10
ソレイユの丘	7	21	39	12	5	84
総計	31	33	52	57	20	193

蚊の種類	6月	7月	8月	9月	10月	総計
アカイエカ	14	4	17	1	1	37
コガタアカイエカ			1			1
ヒトスジシマカ	16	28	33	51	18	146
ヤマトヤブカ				1	1	2
オオクロヤブカ	1					1
キンパラナガハシカ		1	1			2
ハマダラナガスネカ						0
イエカ類				1		1
ヤブカ類				3		3
総計	31	33	52	57	20	193

ウイルス遺伝子検査結果					
ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ジカウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(天野 肇)

⑥ 藤沢市

藤沢市保健所

デングウイルス等媒介蚊の調査のため、平成 29 年 5 月から 10 月まで、市内の公園等 3 カ所で、ヒトスジシマカ雌のウイルス保有状況を調査した。蚊の採取方法は人囮法で実施し、採取後の蚊を分類した後、デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの遺伝子検査を実施したが、いずれも陰性だった。

表 藤沢市のデング熱等媒介蚊検査結果

採取月（ヒトスジシマカ雌数）	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
江の島(サムエルコッキング苑)	4	3	23	26	4	0	60
奥田公園	4	0	19	60	82	8	173
湘南台公園	3	3	9	1	14	5	35
総計	11	6	51	87	100	13	268

ウイルス遺伝子検査結果							
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ジカウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(平井有紀、水上稚子、佐藤健)

2 細菌性感染症

(1) 細菌性腸管系感染症検査状況

ア 3類感染症

(ア) 腸管出血性大腸菌

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

平成29年1月から12月までにおける腸管出血性大腸菌(*Enterohemorrhagic Escherichia coli*: EHEC)の検査状況を以下の表に示した。EHECの受領株数及び接触者検便で分離された株数は0157が52株、026が24株、0103が1株、0111が1株及び0121が1株の計79株であった。表に所轄保健福祉事務所及びセンターごとの株数と毒素型を示した79株についてパルスフィールドゲル電気泳動法による型別を実施し、さらに0157の菌株については52株についてIS-printingによりパターンを比較した。6月から7月にかけて発生した保育施設における026VT1の集団感染事例では、当該保育施設に通う園児及びその家族等の接触者から分離された23株の遺伝子型が全て一致した。また、関東地方を中心に広く分離された0157VT2と同様の遺伝子型を示す株が17株検出されたが、感染源を特定することはできなかった。

表 所轄保健福祉事務所及びセンターからのEHEC受領状況

所轄保健福祉事務所 センター等	0157		026 VT1	0103 VT1	0121 VT2	0111 VT1	計
	VT1&2	VT2					
平塚保健福祉事務所	4	12				1	17
秦野センター	6	2	23				31
鎌倉保健福祉事務所		2					2
三崎センター							0
小田原保健福祉事務所	5	3					8
足柄上センター	4	3					7
厚木保健福祉事務所	4	5		1			10
大和センター		1	1		1		3
茅ヶ崎市保健所	1						1
計	24	28	24	1	1	1	79

(古川一郎、片山丘、小松祐子、政岡智佳)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 198 株であった。その血清型と毒素型は表のとおりであり、0 群別では例年どおり 0157 が一番多く 117 株 (59.1%) であった。次いで 026 が 57 株 (28.8%) となり、例年と比較し 026 の検出数、検出割合が高く 0157 の割合が低い年であり、これは全国的な検出傾向と同様であった。これら主要血清群以外に 8 血清群の菌が分離された。

表 横浜市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT2	62
0157 : H7	VT1&2	51
0157 : H-	VT1&2	2
0157 : H-	VT2	2
026 : H11	VT1	53
026 : H-	VT1	4
0111 : H-	VT1&2	2
0111 : H-	VT1	1
0145 : H-	VT2	15
06 : H10	VT1	1
024 : H4	VT1	1
0103 : H2	VT1	1
0121 : H19	VT2	1
0168 : H8	VT1&2	1
0186 : H2	VT1	1
計		198

(松本裕子、小川敦子、小泉充正、後藤千恵子、太田嘉)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 40 株であった。その血清型及び毒素型は表のとおりで、最も多い血清型は O157 の 30 株 (75.0%) であり、次いで O26 が 5 株 (12.5%) であった。

表 川崎市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	株数
0157	VT2	20
0157	VT1&2	10
026	VT1	5
0111	VT1+2	2
0145	VT2	1
0152	VT2	1
0g108	VT1	1
計		40

(小嶋由香、阿部光一朗、窪村亜希子、佐々木国玄、安澤洋子)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までに感染症法に基づく感染症病原菌検査として相模原市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 8 株であった。その血清型及び毒素型は表のとおりで、0 群別では 0157 が最も多く 3 株であった。

表 相模原市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT2	2
0157 : H7	VT1&2	1
026 : H11	VT1	2
OUT:HNM	VT1	3
計		8

(吉川聡一、坂扶美子、佐藤宏樹)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

平成 29 年 1 月から 12 月までに横須賀市内各医療機関から提出された菌株と検便、感染症法に基づく発症者・発症者家族及び接触者の検便で分離された腸管出血性大腸菌は 5 株であった。その血清型及び毒素型を表に示す。

表 横須賀市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157	VT2	5

(片倉孝子、長澤由美子、金川治義)

⑥ 藤沢市

藤沢市保健所

平成 29 年 1 月から 12 月までに当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 3 株であり、すべて血清型は 0157 : H7、毒素型は VT1&VT2 だった。

(平井有紀、松葉友美、北出杏子、佐藤健)

(イ) 赤痢菌・コレラ菌

① 神奈川県 (横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)

神奈川県衛生研究所

<赤痢菌>

平成 29 年 1 月から 12 月までに神奈川県内(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)で分離され当所に送付された赤痢菌株は 5 株であり、*Shigella sonnei* が 4 株及び *Shigella flexneri* が 1 株であった。渡航歴およびその他の情報は表に示した。茅ヶ崎市保健所から搬入された 2 株は同居家族由来であった。

表 赤痢菌の血清型及び患者渡航歴

No.	所轄保健福祉事務所 センター等	性別	年齢	菌種	血清型	渡航歴
1	平塚保健福祉事務所 秦野センター	女	66	<i>S. sonnei</i>	II	アゼルバイジャン、 アルメニア、ジョージア
2	小田原保健福祉事務所	男		<i>S. flexneri</i>	UT	
3	厚木保健福祉事務所 大和センター	男	46	<i>S. sonnei</i>	II	インドネシア
4	茅ヶ崎市保健所	女	40	<i>S. sonnei</i>	II	
5	茅ヶ崎市保健所	男	14	<i>S. sonnei</i>	II	

<コレラ菌>

平成 29 年 1 月から 12 月までに神奈川県内(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)で分離され当所に送付されたコレラ菌株はなかった。

(古川一郎、片山丘、小松祐子、政岡智佳)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

<赤痢菌>

平成 29 年 1 月から 12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した赤痢菌は 6 株であり、その菌種は表のとおり全て *Shigella sonnei* であった。患者は 1 人を除き、発症直前にインド、フィリピン、タイへの海外渡航歴があった。

表 横浜市の赤痢菌の菌株情報

No.	分離月日	性別	年齢	菌種	渡航歴
1	H29. 3. 4	男	40	<i>S. sonnei</i>	無し
2	H29. 7. 13	女	27	<i>S. sonnei</i>	フィリピン
3	H29. 7. 20	男	50	<i>S. sonnei</i>	インド
4	H29. 9. 8	男	62	<i>S. sonnei</i>	タイ
5	H29. 9. 10	男	50	<i>S. sonnei</i>	インド
6	H29. 11. 13	女	32	<i>S. sonnei</i>	フィリピン

<コレラ菌>

平成 29 年 1 月から 12 月までに横浜市内ではコレラ菌が分離された事例は認められなかった。

(松本裕子、太田嘉)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

<赤痢菌>

平成 29 年 1 月から 12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した赤痢菌は 3 株あり、その菌種及び血清型は表のとおりである。

表 川崎市の赤痢菌の菌株情報

No.	分離月日	性別	年齢	菌種	血清型	渡航歴
1	H29. 1. 30	女	42	<i>S. sonnei</i>	I	エジプト
2	H29. 6. 16	女	31	<i>S. flexneri</i>	2a	インドネシア
3	H29. 9. 26	女	30	<i>S. sonnei</i>	I	インド

<コレラ菌>

なお、平成 29 年 1 月から 12 月までに川崎市においてコレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(小嶋由香、阿部光一朗、窪村亜希子、佐々木国玄、安澤洋子)

④ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

＜赤痢菌＞

平成 29 年 1 月から 12 月までに横須賀市で検出された赤痢菌は海外渡航歴のある患者由来の 2 株で、*Shigella sonnei* であった。渡航先はマダガスカルであった。

＜コレラ菌＞

平成 29 年 1 月から 12 月までに横須賀市においてコレラ菌が検出された事例は認められなかった。
(片倉孝子、長澤由美子、金川治義)

(ウ) 腸チフス・パラチフス

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月の間に腸チフス感染症事例が 1 例報告された。患者の海外渡航先はインドであった。その他の情報は表に示した。

表 腸チフス菌の菌株情報

所轄保健福祉事務所 センター等	性別	年齢	菌種	フェージ型	渡航歴
厚木保健福祉事務所	男	26	<i>S. Typhi</i>	UVS1	インド

(古川一郎、政岡智佳)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までの間に横浜市内で分離された腸チフス菌は 1 株、パラチフス A 菌は 0 株であった。その他の情報は表に示した。

表 横浜市の腸チフス菌の菌株情報

分離月日	性別	年齢	菌種	フェージ型	渡航歴
H29. 4. 20	男	51	<i>S. Typhi</i>	E9	バングラディッシュ

(松本裕子、太田嘉)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入されたパラチフス菌は 2 株であった。その他の情報は表に示した。

表 川崎市のパラチフス A 菌の菌株情報

分離月日	性別	年齢	菌種	渡航歴
H29. 5. 17	女	18	パラチフスA菌	カンボジア
H29. 7. 27	男	19	パラチフスA菌	カンボジア、ベトナム

(小嶋由香、阿部光一朗、窪村亜希子、佐々木国玄、安澤洋子)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までに、相模原市ではチフス菌が 1 株分離された。これは、平成 28 年に腸チフスを発症した患者の陰性化確認検査 3 回目で検出されたものである。菌株の情報については表に示した。

表 相模原市の腸チフス菌の菌株情報

分離月日	性別	年齢	菌種	渡航歴
H29. 1. 10	男	8	S. Typhi	インド

(吉川聡一、坂扶美子、佐藤宏樹)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

平成 29 年 1 月から 12 月までに横須賀市内で検出されたチフス菌は海外渡航歴のある患者由来の 1 株であった。

(片倉孝子、長澤由美子、金川治義)

イ 5類感染症

(ア) 細菌性感染性胃腸炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

平成29年1月から12月までの間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。病原菌の検出数は40件中11件（27.5%）であり、その内訳は下痢原性大腸菌8件、カンピロバクター・ジェジュニ3件及びエロモナス属菌2件であった。同一患者から重複して分離された事例は、下痢原性大腸菌とエロモナス属菌の重複が1件及びカンピロバクター・ジェジュニとエロモナス属菌の重複が1件認められた。

下痢原性大腸菌8件の血清型及び病原因子の内訳は、0型別不能・*astA*遺伝子陽性（2株）、0型別不能・*eae*遺伝子陽性（1株）、0型別不能・*astA*・*aggR*遺伝子陽性（1株）、063・*eae*遺伝子陽性（1株）、0169・ST・*astA*遺伝子陽性（1株）、06（1株）、025（1株）及び0153（1株）であった。このうち、1件では同一患者から0型別不能・*astA*・*aggR*遺伝子陽性（1株）及び0169・ST・*astA*遺伝子陽性（1株）が同時に検出された。

表 散発下痢症患者からの病原体分離状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	1	2	1	8	3	4	4	4	3	1	6	3	40
陽性検体数	0	0	0	2	0	2	1	2	1	1	1	1	11
%	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	50.0	33.3	100.0	16.7	33.3	27.5
検出病原体内訳													
下痢原性大腸菌				1		1	1	2		1	1	1	8
カンピロバクター・ジェジュニ				1		1			1				3
エロモナス属菌								1	1				2
サルモネラ属菌													0

（古川一郎、陳内理生、政岡智佳、中嶋直樹）

ウ 薬剤耐性菌

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で分離され当所に送付された薬剤耐性菌は、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）19 株、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）28 株であった。VRE は全て *Enterococcus faecium* で *vanA* 遺伝子が検出された。CRE では、28 株中 11 株からカルバペネマーゼ遺伝子が検出され、その内訳は IMP 型 10 株及び NDM 型 1 株であった。搬入された CRE の菌種は *E. aerogenes*、*E. cloacae*、*K. oxytoca* が全体の約 8 割を占めていた。

（古川一郎、陳内理生、政岡智佳、中嶋直樹）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までに横浜市中で分離され当所に送付された薬剤耐性菌は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）2 株、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）9 株、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）103 株（届出対象 54 株、届出対象外 49 株）であった。VRE は全て *vanA* 遺伝子を保有する *Enterococcus faecium* であった。CRE の詳細は表のとおりであり、届出対象外の患者検体から、OXA-181 型や NDM-5 型のカルバペネマーゼ遺伝子が検出された。

表 1 横浜市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（届出対象患者）

菌種	株数	カルバペネマーゼ陽性数	カルバペネマーゼ内訳
<i>Enterobacter cloacae</i>	22	9	IMP-1
<i>Enterobacter aerogenes</i>	20	0	
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	4	2	IMP-1
<i>Serratia marcescens</i>	3	0	
<i>Escherichia coli</i>	2	0	
<i>Citrobacter freundii</i>	2	0	
<i>Citrobacter braakii</i>	1	0	
計	54	11	

表 2 横浜市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（届出対象外患者）

菌種	株数	カルバペネマーゼ陽性数	カルバペネマーゼ内訳
<i>Enterobacter cloacae</i>	19	7	IMP-1
<i>Enterobacter aerogenes</i>	6	2	IMP-1
<i>Enterobacter asburiae</i>	2	0	
<i>Escherichia coli</i>	9	2	OXA-181、NDM-5
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	6	1	OXA-181
<i>Klebsiella oxytoca</i>	4	3	IMP-1
<i>Citrobacter freundii</i>	2	2	IMP-1
<i>Citrobacter braakii</i>	1	1	IMP-1
計	49	18	

（松本裕子、小泉充正、太田嘉）

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

平成 26 年 9 月の感染症法改正に伴い、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症」が 5 類全数把握疾患として指定された。この改正以降、川崎市では市内における薬剤耐性菌の流行状況を把握するため菌株の収集に努めている。平成 29 年 1 月から 12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入されたカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）は 26 株あり、菌種別カルバペネマーゼ遺伝子の保有状況は表に示した。

表 川崎市カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果

菌種	株数	カルバペネマーゼ陽性数	カルバペネマーゼ遺伝子保有割合(%)
<i>Enterobacter aerogenes</i>	12	0*	0.0
<i>Enterobacter cloacae</i>	13	3*	23.1
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	1*	100.0
計	26	4*	15.4

*:いずれもIMP-1遺伝子

(小嶋由香、阿部光一郎、窪村亜希子、佐々木国玄、安澤洋子)

④ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

平成 29 年 1 月から 12 月までに当センターで検出された 5 類感染症に分類される薬剤耐性菌は 20 株であった。内訳はバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）17 株、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）2 株、薬剤耐性緑膿菌（MDRP）1 株であった。VRE は全て *Enterococcus faecium* で *vanA* 遺伝子が検出された。CRE は *Enterobacter aerogenes* 1 株から AmpC 遺伝子が検出された。MDRP からは IMP- I 型遺伝子が検出された。

(片倉孝子、長澤由美子、金川治義)

エ その他の細菌性腸管系感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

平成 29 年 1 月から 12 月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で分離され当所に送付されたその他の細菌性腸管系感染症はなかった。

(古川一郎、政岡智佳)

(2) 細菌性呼吸器系感染症検査状況

ア 2 類感染症

(ア) 結核感染診断検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

結核感染診断法として Interferon-gamma release assay (IGRA) が開発され、現在国内ではクオンティフェロン®TB-ゴールド：QFT-3G（以下 QFT とする）と T-スポット®.TB（T-SPOT）が使用されている。これらは、従来のツベルクリン反応検査よりも信頼性が高く、結核予防対策上の有用性が期待されており、「結核に関する特定感染症予防指針（2011 年 5 月改正）」においても、IGRA を積極的に活用することが重要であるとされている。当所では、各保健福祉事務所及びセンターの結核接触者健康診断（健診）に対応するため、QFT 検査を実施している。

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）では検査検体数が年々増加していたが、平成 29 年の検査検体数は 1,461 検体で、平成 28 年より減少した。検査結果は、陽性が 106 検体（7.3%）、判定保留が 72 検体（4.9%）、陰性が 1,283 検体（87.8%）、判定不可が 0 検体（0.0%）であった（表）。

表 結核接触者検診における QFT 検査結果（平成 27 年～29 年）

年	事例数	検体数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
			検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
平成27年	279	1,414	130	(9.2)	128	(9.1)	1,150	(81.3)	6	(0.4)
平成28年	271	1,657	152	(9.2)	107	(6.5)	1,388	(83.8)	10	(0.6)
平成29年	261	1,461	106	(7.3)	72	(4.9)	1,283	(87.8)	0	(0.0)

平成 27 年から平成 29 年の被験者と患者の接触場所別事例数を図に示した。平成 29 年の事例を接触場所別にみると延べ 357 事例となり、その内訳は、前年同様に家庭が 148 事例と最も多く、医療機関が 23 事例、職場が 39 事例であった。1 事例あたりの検体数は、職場が 9.7 検体と最も多く、医療機関が 3.7 検体、家庭が 2.4 検体であった。接触場所別の陽性率は、家庭が 10.5%（37 検体/354 検体）と最も高く、職場が 6.6%（25 検体/378 検体）、医療機関が 3.6%（3 検体/84 検体）であった。

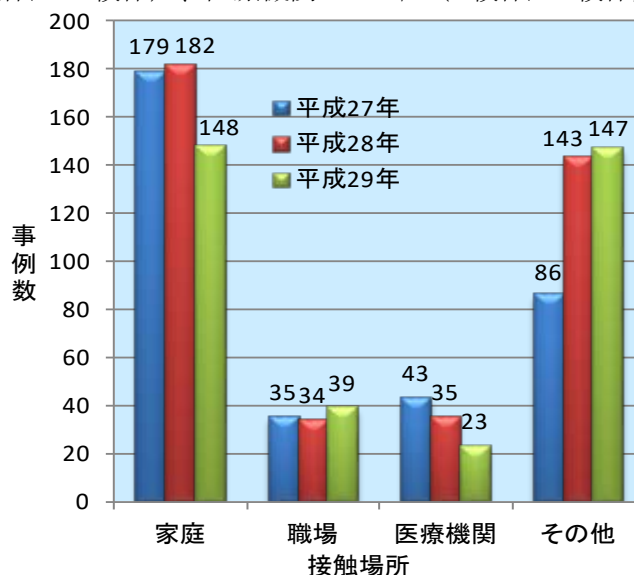


図 被験者と患者の接触場所別事例数（平成 27～29 年）

（稲田貴嗣、大屋日登美、鈴木美雪、中嶋直樹、三谷詠里子、黒木俊郎）

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では平成 19 年から結核接触者健診における QFT 検査を実施していたが、平成 25 年 12 月からは T-SPOT. TB 検査に変更した。平成 29 年は、検査件数 958 件、陽性 75 件（7.8%）、陽性判定保留 19 件（2.0%）、陰性判定保留 14 件（1.5%）、陰性 839 件（87.6%）、判定不可 11 件（1.1%）であった。

表 川崎市の結核接触者検診における T-SPOT. TB 検査結果（平成 29 年）

検体数	陽性		陽性判定保留		陰性判定保留		陰性		判定不可	
	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
958	75	(7.8)	19	(2.0)	14	(1.5)	839	(87.6)	11	(1.1)

(湯澤栄子、淀谷雄亮、原俊吉)

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市では平成 21 年から結核接触者検診における QFT 検査を実施している。平成 29 年は、検査件数 259 件、陽性 21 件であった。

表 相模原市の結核接触者検診における QFT 検査結果（平成 27～29 年）

年	検体数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
		検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
平成27年	414	41	(9.9)	34	(8.2)	337	(81.4)	2	(0.5)
平成28年	447	26	(5.8)	16	(3.6)	404	(90.4)	1	(0.2)
平成29年	259	21	(8.1)	18	(6.9)	219	(84.6)	1	(0.4)
合計	1,120	88	7.9	68	6.1	960	85.7	4	0.4

(高木尊大、荒川小夜子、金沢聡子)

イ 4類感染症

(ア) レジオネラ症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

レジオネラ症の発生届があった神奈川県域の医療機関の患者検体（喀痰等）について、培養法および LAMP 法による検査を実施している。平成 29 年は、18 検体を検査し、培養法で 7 検体（38.9%）、LAMP 法で 6 検体（33.3%）が陽性であった。培養法により検出されたレジオネラ属菌 7 検体の血清群の内訳は、レジオネラニューモフィラ血清群 1 が 6 検体で、レジオネラ属菌が 1 検体であった。

（大屋日登美、陳内理生、鈴木美雪、中嶋直樹、黒木俊郎）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

レジオネラ症の発生届があった横浜市内の医療機関の患者検体について、喀痰等呼吸器検体については、培養法および LAMP 法による検査を実施している。平成 29 年は、29 検体を検査し、培養法で 10 検体（34.5%）、LAMP 法で 12 検体（41.4%）が陽性であった。培養法により検出されたレジオネラ属菌 10 検体は、全てレジオネラニューモフィラ血清群 1 であった。それ以外に尿について尿中抗原検査を行っており、3 検体を検査し 2 検体が陽性となった。また、医療機関で分離されたレジオネラ属菌の菌株 4 株について血清型別を行い、4 株ともレジオネラニューモフィラ血清群 5 と同定された。

（松本裕子、太田嘉）

ウ 5類感染症

(ア) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症発生動向調査の一環として、小児科定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し、当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。平成29年1月から12月までに搬入された検体182件中129検体から、A群溶血性レンサ球菌が分離された。そのT型別を表に示す。

T型別が決定した株数は124株で、9種類のT型に分類され、型別不能は5株であった。これらのうち、T1型が35株（27.1%）と最も多く、以下T12型が24株（18.6%）、T3型が18株（14.0%）の順で、これら3血清型で全体の59.7%を占めた。

最近4年間のT型の経年推移を図1、図2に示した。例年、検出数、検出率ともに、T1、T4とT12型が高い傾向にあるが、平成29年はT3型及びTB3264型も高い傾向にあった。

表 A群溶血レンサ球菌のT型別結果

血清型	T1	T3	T4	T6	T11	T12	T25	T28	TB3264	型別不能	計
株数	35	18	13	2	1	24	12	4	15	5	129

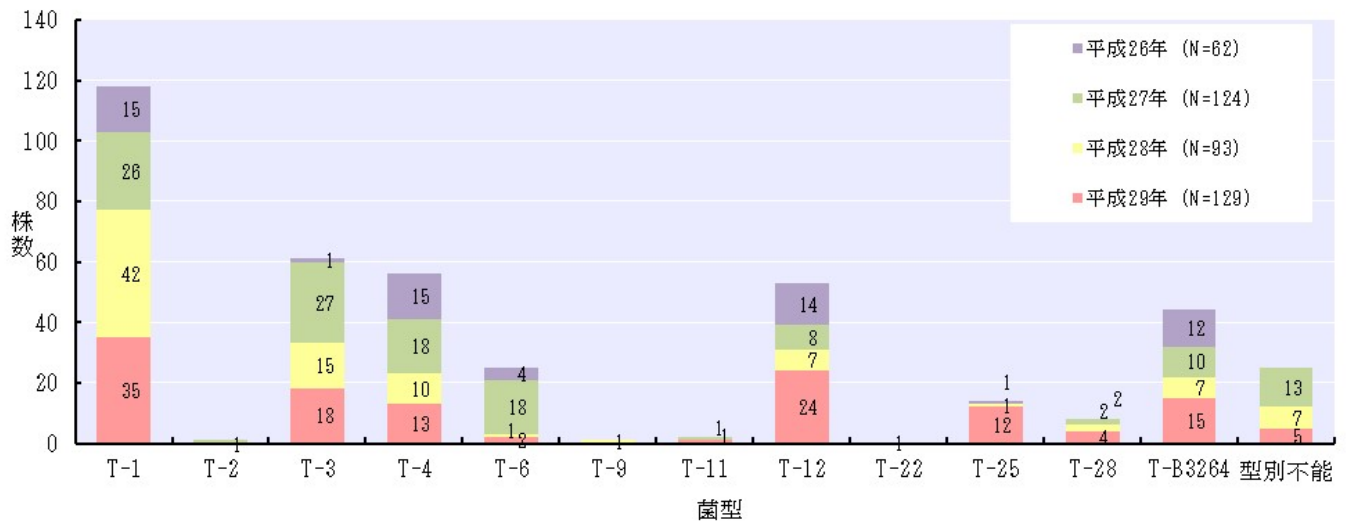


図1 A群溶血レンサ球菌T型検出数の経年推移（平成26～29年）

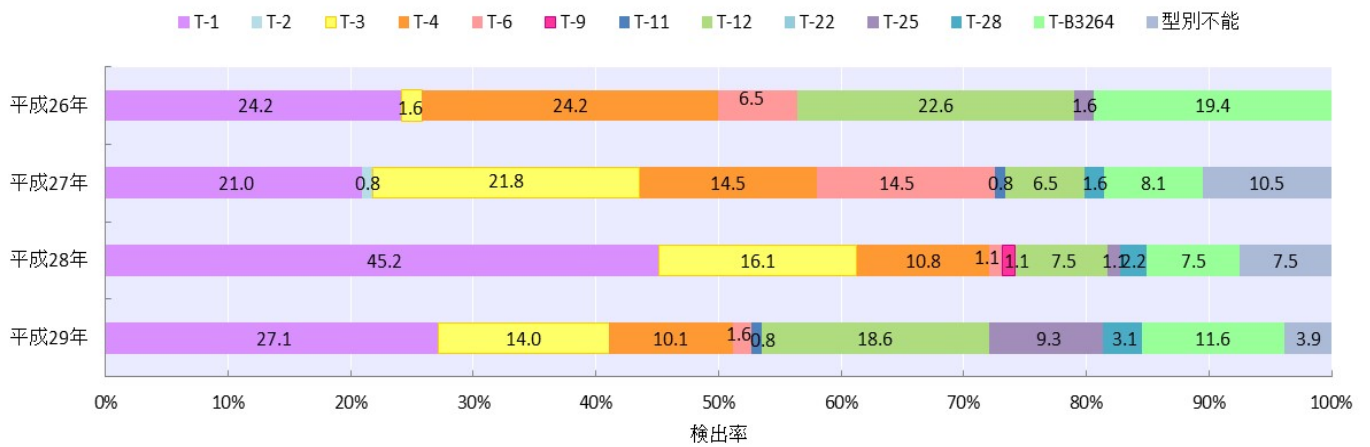


図2 A群溶血レンサ球菌T型検出率の経年推移（平成26～29年）

（大屋日登美、鈴木美雪、中嶋直樹、三谷詠里子、黒木俊郎）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市における感染症発生動向調査の一環として、小児科定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。平成 29 年 1 月から 12 月までに搬入された検体 36 件中 32 検体から、A 群溶血性レンサ球菌が分離された。その T 型別は表に示す。

表 横浜市の A 群溶血性レンサ球菌の T 型別結果

血清型	T1	T4	T6	T12	T22	TB3264	型別不能	計
株数	11	7	4	2	1	4	3	32

(松本裕子、太田嘉)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。平成 29 年 1 月から 12 月までに搬入された検体 31 件中 26 件から A 群溶血性レンサ球菌が分離された。その T 型別は表に示す。

表 川崎市の A 群溶血性レンサ球菌の T 型別結果

血清型	T1	T2	T3	T4	T12	T25	T28	TB3264	型別不能	計
株数	6	3	1	5	2	4	1	2	2	26

(湯澤栄子、淀谷雄亮、原俊吉)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において採取された咽頭ぬぐい液について溶血性レンサ球菌の検査を実施した。平成 29 年 1 月から 12 月までに搬入された検体 15 件中 14 件から A 群溶血性レンサ球菌が分離され、T 型別は TB3264 型が最も多く検出された。

表 相模原市の A 群溶血性レンサ球菌の T 型別結果

血清型	T1	T12	TB3264	不明	計
株数	4	2	7	1	14

(吉川聡一、坂扶美子、佐藤宏樹)

(イ) マイコプラズマ肺炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関および医療機関からのマイコプラズマ肺炎を疑う患者検体について、培養法および PCR 法による検査を実施している。平成 29 年 1 月から 12 月までの検出状況は、PCR 法で 25 検体中 17 件（68.0%）が検出された。分離培養では陽性が 16 件（64.0%）、陰性が 9 件（36.0%）であった。

月別検出状況は、5 月～7 月に増加する傾向があった。肺炎マイコプラズマは、小児科領域においては重要な呼吸器感染症の原因菌の一つである。マイコプラズマ肺炎感染症の第一選択薬剤であるマクロライド系薬剤に耐性を示す肺炎マイコプラズマが 2000 年以降国内外で検出され、神奈川県においても 23S r RNA 遺伝子のドメイン V 領域の 2063 番目のアデニン A がグアニン G に点変異している A2063G が最も多く検出され、A2064G も検出されている。今後も病原体検出状況を継続して監視する必要がある。

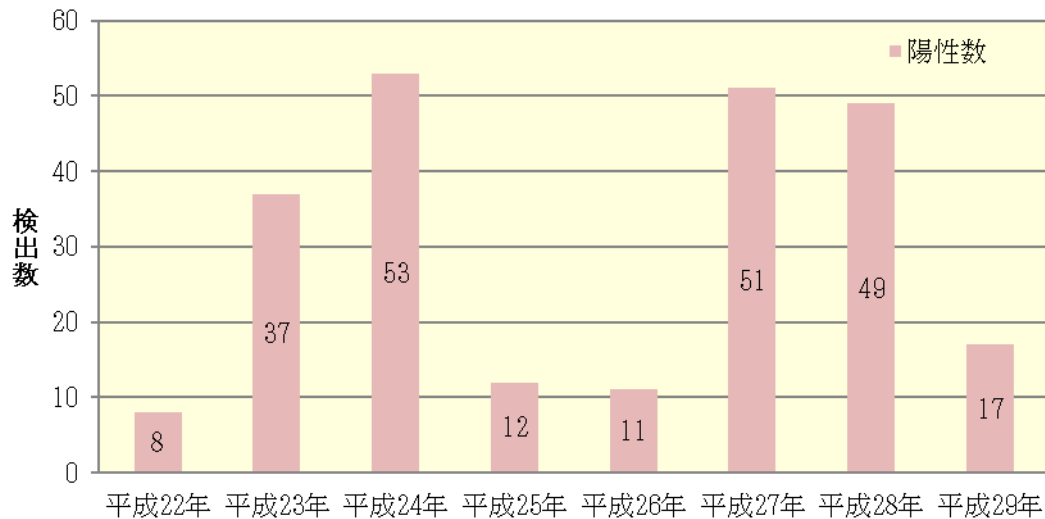


図1 肺炎マイコプラズマ年別検出状況

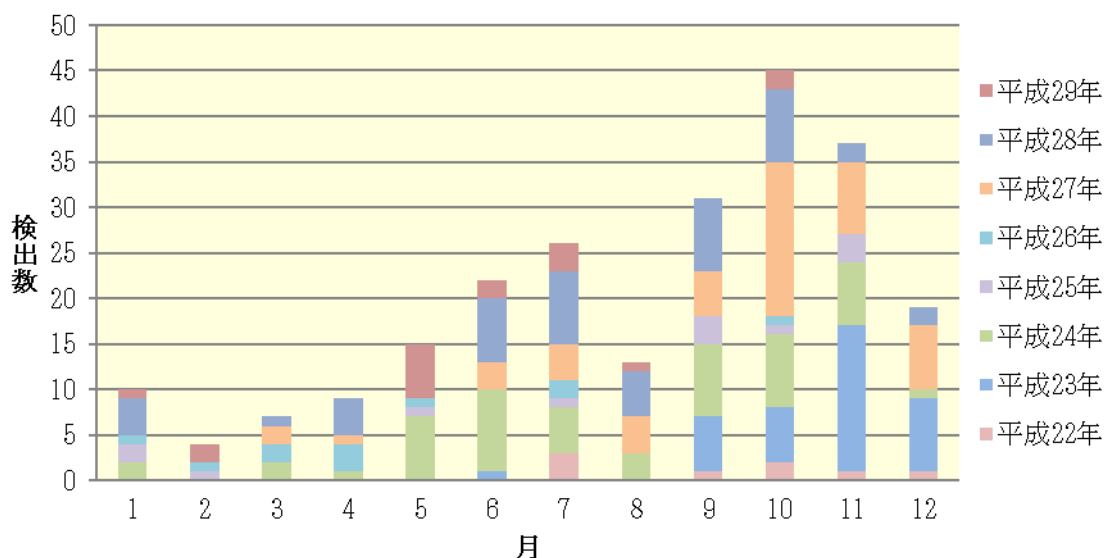


図2 肺炎マイコプラズマ月別検出状況

(大屋日登美、中嶋直樹、鈴木美雪、黒木俊郎)

(ウ) 百日咳

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関及び医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、培養法、IS48I-PCR 法及びPTp1/p2-PCR 法による検査を実施している。平成15年から平成17年までは検体はなく、18年に3検体、19年に49検体でいずれも陽性検体はなかった。平成20年以降、病原体が分離培養及びPCRで検出されるようになった。平成29年は2検体を検査し、培養法で1検体（50%）、IS48I-PCR法で1検体（50%）が陽性であった。IS48I-PCR法での陽性検体は、PTp1/p2-PCR法による毒素も全て陽性であった。この7年間における検体数は平成23年は80検体、平成24年は51検体、平成25年は11検体、平成26年は2検体、平成27年は3検体、平成28年は8検体、平成29年は2検体で合計157検体であった。検出状況は、IS48I-PCR法で157検体中15検体（9.6%）、培養法では13検体（8.3%）が検出された（図）。

国外ではマクロライド耐性百日咳菌の増加の報告もあり、今後の百日咳菌の発生状況および薬剤感受性の監視が重要となる。

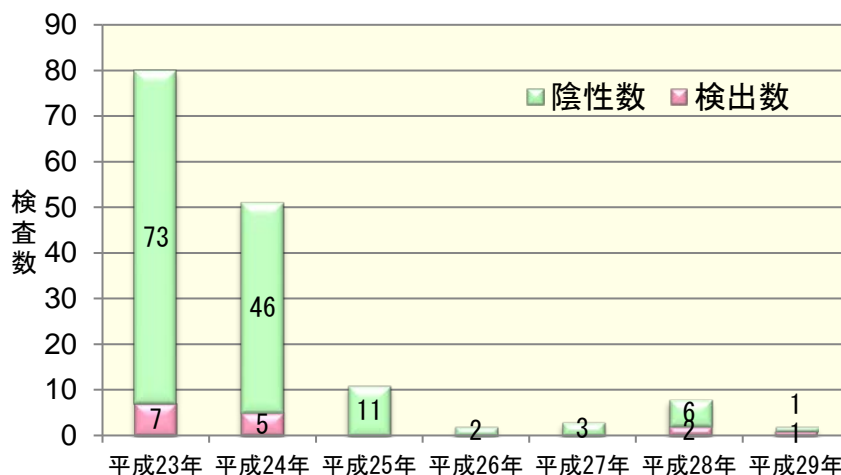


図 百日咳菌の年別検出状況

（大屋日登美、陳内理生、鈴木美雪、中嶋直樹、黒木俊郎）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市内の医療機関から百日咳を疑う患者検体について、LAMP法による百日咳菌遺伝子検査を実施している。平成29年は患者3人の咽頭ぬぐい液、後鼻腔ぬぐい液について検査を行い、1件がLAMP法、培養法陽性となった。陽性となった患者は、ワクチン接種歴が無い乳児であった。また、これ以外に医療機関から百日咳菌の同定依頼が3株あり、百日咳菌と同定した。このうち2株は成人百日咳患者由来であった。

（松本裕子、太田嘉）

3 その他の感染症

(ア) つつが虫病

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県のおつが虫病患者発生数は、平成 2 年の 112 名をピークに減少傾向を示し、近年では毎年 20 名程度の患者数で推移している。

神奈川県では、おつが虫病患者疑い例について、遺伝子等による病原体の検査、または特異的な血清抗体の検査を実施している。本年は 6 例について遺伝子検査を、1 例についてペア血清による抗体検査を実施した。おつが虫病遺伝子は 4 例から検出され、その遺伝子型は、Karp 型が 2 例、Kawasaki 型が 1 例、Kuroki 型が 1 例で、感染推定地は、秦野市内 3 例、小田原市内 1 例であった。抗体検査 1 例は、Gilliam 型の抗体上昇が確認され、感染推定地は山口県であった。

本年の神奈川県のおつが虫病患者届出数は 16 例で、発病日は 1 月 1 名、4 月 1 名、10 月 3 名、11 月 10 名、12 月 1 名の患者報告があった。おつが虫病の検査診断には、遺伝子等による病原体の検出、または特異的な血清抗体の検出があるが、16 例中 11 例は医療機関で実施した血清抗体の検出により診断され、5 例が当所で実施した遺伝子検査または血清抗体の検出により診断された。

おつが虫病患者からの聞き取り調査で得られた感染推定地は、神奈川県内 14 例、山口県 1 例、奈良県 1 例であった。県内の感染推定地は、南足柄市、秦野市、松田町、山北町、小田原市および二宮町であった。平成 29 年のおつが虫病感染時の行動は、例年と同様に平地の畑での農作業や山間部での作業であった。

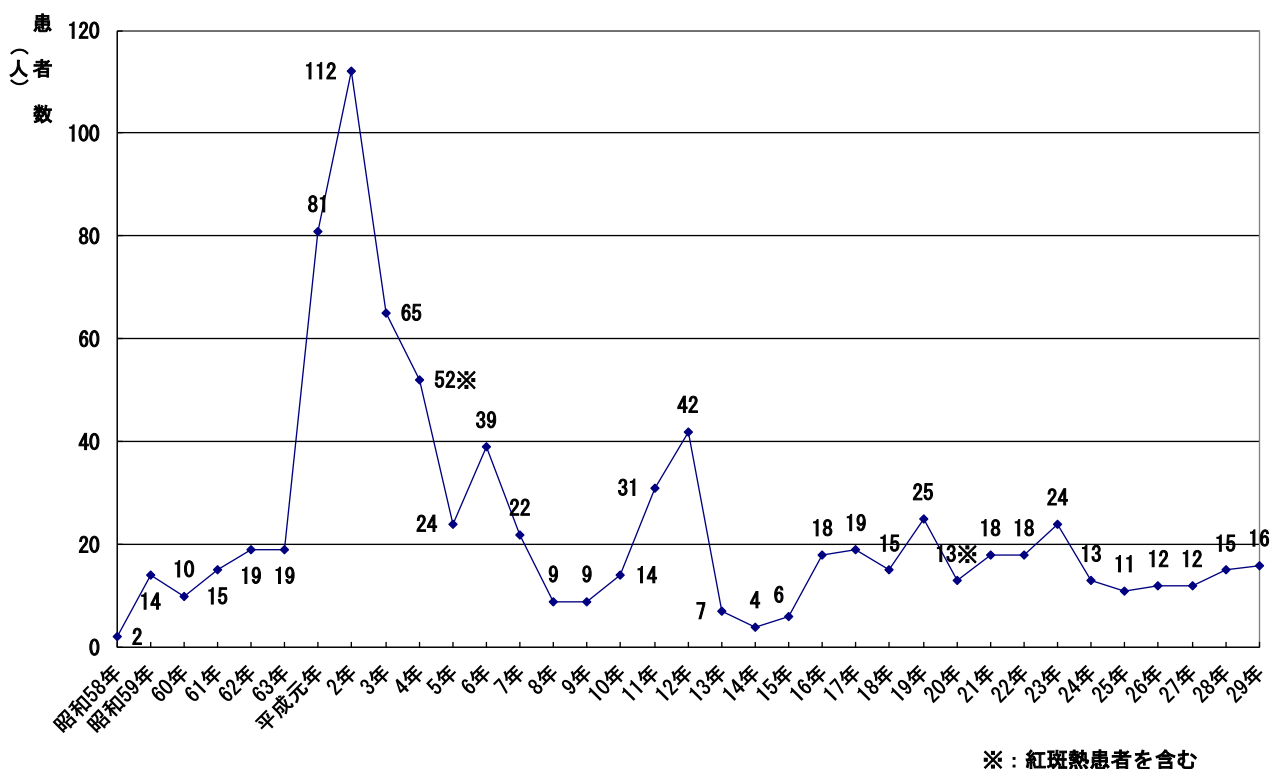


図 神奈川県におけるおつが虫病患者発生状況（昭和 59 年～平成 29 年）

（鈴木理恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎）

【参考資料】

< 予防接種実施状況 >

予防接種法に基づく定期予防接種は、感染症の発生及びまん延の予防等、公衆衛生の向上を目的に、実施主体である市町村により行われている。

(単位:人)

			27年度		28年度		神奈川県前年比 (H28)/(H27)
			全国	神奈川県	全国	神奈川	
沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 不活化ポリオ混合ワクチン (DPT-IPV)	1期 初回接種	第1回	1 011 542	73 953	990 279	71 316	96.4%
		第2回	1 014 067	74 010	995 642	72 261	97.6%
		第3回	1 019 899	74 451	1 000 372	72 979	98.0%
	1期追加接種		989 131	72 493	1 030 515	75 962	104.8%
日本脳炎ワクチン	1期 初回接種	第1回	1 058 934	79 586	1 281 160	78 557	98.7%
		第2回	1 041 164	78 607	1 231 550	77 877	99.1%
		1期追加接種	1 026 416	73 702	1 023 443	74 643	101.3%
	第2期		642 397	37 858	901 490	61 247	161.8%
ヒブワクチン	第1回		1 017 920	73 596	987 725	70 369	95.6%
	第2回		1 008 902	73 609	982 730	70 898	96.3%
	第3回		1 021 053	73 780	997 243	71 542	97.0%
	第4回		973 293	73 342	986 327	73 290	99.9%
小児用肺炎球菌ワクチン	第1回		1 020 898	73 822	989 680	70 516	95.5%
	第2回		1 012 724	73 929	986 225	71 141	96.2%
	第3回		1 023 026	73 900	999 937	71 649	97.0%
	第4回		979 333	72 840	995 444	72 995	100.2%
子宮頸がん予防ワクチン	第1回		2 711	133	1 834	119	89.5%
	第2回		2 669	133	1 805	107	80.5%
	第3回		2 805	129	1 782	118	91.5%
水痘ワクチン	第1回		1 040 930	78 480	1 010 521	73 755	94.0%
	第2回		1 060 742	75 799	881 478	67 829	89.5%
麻しん・風しんワクチン	第1期		981 521	72 404	994 259	72 926	100.7%
	第2期		997 545	70 989	1 001 129	71 369	100.5%
インフルエンザワクチン	総 数		17 239 503	863 484	17 386 306	880 545	102.0%
	60歳以上65歳未満		31 341	1 339	29 354	1 275	95.2%
	65歳以上		17 096 694	862 145	17 223 025	879 270	102.0%

「地域保健・健康増進事業報告(地域保健編)」(厚生労働省)のデータを修正・加工して作成

※「麻しん・風しんワクチン」は、「麻しん風しん混合ワクチン」、「麻しんワクチン」、「風しんワクチン」を合わせたものである。

※年齢階級別の計数が不詳の市区町村があるため、総数と年齢階級別の計が一致しない場合がある。

<感染症関係機関>

平成30年4月現在

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区港町 1-1	045 (671) 2463
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045 (510) 1832
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045 (411) 7138
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045 (320) 8439
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通 35	045 (224) 8332
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区浦舟町 2-33	045 (341) 1185
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南 4-2-10	045 (847) 8484
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045 (334) 6345
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045 (954) 6146
横浜市磯子区福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045 (750) 2445
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045 (788) 7840
横浜市港北区福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045 (540) 2362
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045 (930) 2357
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045 (978) 2438
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045 (948) 2350
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 16-17	045 (866) 8426
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045 (894) 6964
横浜市泉福祉保健センター	横浜市泉区和泉中央北 5-1-1	045 (800) 2323
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045 (367) 5744
横浜市衛生研究所	横浜市金沢区富岡東 2-7-1	045 (370) 8460
川崎市健康福祉局保健所感染症対策課	川崎市川崎区宮本町 1	044 (200) 2343
川崎区役所保健福祉センター	川崎市川崎区東田町 8	044 (201) 3223
幸区役所保健福祉センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044 (556) 6682
中原区役所保健福祉センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044 (744) 3280
高津区役所保健福祉センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044 (861) 3321
宮前区役所保健福祉センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044 (856) 3270
多摩区役所保健福祉センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044 (935) 3310
麻生区役所保健福祉センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044 (965) 5163
川崎市健康安全研究所	川崎市川崎区殿町 3-25-13	044 (276) 8250
相模原市保健所	相模原市中央区中央 2-11-15	042 (754) 1111
相模原市衛生研究所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042 (769) 8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046 (822) 4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-14	046 (822) 4057
藤沢市保健所	藤沢市鶴沼 2131-1	0466 (50) 3592
茅ヶ崎市保健所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467 (85) 1171

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課	横浜市中区日本大通 1	045 (210) 4793
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463 (32) 0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467 (24) 3900
厚木保健福祉事務所大和センター	大和市中央 1-5-26	046 (261) 2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465 (32) 8000
鎌倉保健福祉事務所三崎センター	三浦市三崎町六合 32	046 (882) 6811
平塚保健福祉事務所秦野センター	秦野市曾屋 2-9-9	0463 (82) 1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046 (224) 1111
小田原保健福祉事務所足柄上センター	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465 (83) 5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467 (83) 4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045 (201) 4458
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044 (277) 1856
横浜検疫所横須賀・三浦出張所	横須賀市田浦港無番地	045 (201) 4457
輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045 (701) 9480
横浜市立市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56	045 (331) 1961
川崎市立川崎病院	川崎市川崎市新川通 12-1	044 (233) 5521
横須賀市立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2	046 (856) 3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466 (25) 3111
平塚市民病院	平塚市南原 1-19-1	0463 (32) 0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本 2-8-18	046 (772) 4291
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046 (221) 1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465 (83) 0351

(健康危機管理課)



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 (0467) 83-4400 (代表)